

幼 兒 教 育

第 三 十 四 卷 十 月 號 第 十 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

東京高等師範學校教授

文學博士 小野島右左雄先生著

好評 三版

最近心理學概説

文檢必 讀の要 書最近 の心理 學漸く 完成す

上卷 定價三圓五十錢 送料二十二錢
 本書の最も特長とすべき點は全卷一貫せる思想を以て凡ゆる精神事實を巧に解明し全卷暗示に満ち本書上下二卷を味讀すれば一般心理學・兒童心理學・青少年心理學・發達心理學・個性心理學・會心理學・變態心理學・動物心理學・教育心理學等の凡ゆる心理學の一般的知識を獲得すべきは勿論、學者は本書に依つて斯學の一體系を知るに止まらず科學の方面・生活論理學の成立と新しき哲學の暗示を受け、教師は生徒兒童の心的體制の理論と教育の新方法を教へられ、一般人は人間の具象的心的體制の最も即事的なる論理と應用を示され斯くてこそ心理學は科學の先陣に立ち此思想國難の打開に資す。振つて萬人の乞必讀。

下卷 定價三圓五十錢 送料二十二錢
 兒童研究、性格心理學に主點を置き各種の新研究を發表し、猶ほ最近心理學の動向を検討して最も新なる斯學上の諸問題を提出し之等に對し教授獨自の立場を展開してその進展に寄與すされば一般心理學徒及び教育家篤學者の御必讀を乞ふ。

合輯 定價五圓八十錢 送料三十三錢

文學博士 小野島右左雄著

性格心理學と兒童研究

菊判全一冊洋綴 定價二圓七十錢 送料廿二錢

心理學要論

菊判全一冊洋綴 定價二圓 送料廿二錢

現代の科學的心理學の一般理論を一つの簡單なる體系の中に織り成して叙説せる心理學の要論である。舊來の陳腐なる心理學の形骸を脱して現代將來の人間の動向を正しく理論づけるべく、終始一貫せる主張の下に正確なる科學の所産を披瀝し猶ほ常に豊富なる暗示を與へてある。

發行所 東京市牛込區 中野文庫書店 振替電話 東京三三三番 八四二番 七二番

◇愛児の性能のテストは常に試みられよ◇

奈良女高師教授 本庄精次先生撰 (幼稚園及び小學校下學年級應用)

【最新刊出來】

幼児性能検査用紙

愛児の將來を決定する

幼児の性能を検査するテストは極めて微妙な考察研究を要することは云ふまでもない。本庄教授が學生の事業として之が方法を完成した事は幼學年教育の爲めに慶賀に堪えない。テストは本來個人的に行ふを可とするもその繁煩な忍耐に堪えきれない。著者は茲に幼稚園及小學校下級の學童を團體的に検査するテストを選定し未だ斯界に企圖されてゐない教育界の一缺陷を補つてゐる。検査用紙は兒童用、検査法指導書は教師用で(これには使用法を懇切に説いてある)この二著を併用さるゝ時は幼児教育の上に、一大エポックを劃すること疑ひない。

正確なテストは本紙で試みられよ

【新刊】

幼児性能検査法指導書

定價十五錢 送料二錢

廣島高師教授 佐藤熊治郎先生著

四六判洋書函入 定價各一、五〇 紙數各二〇〇頁 送料

【再版】(學校家庭必備)

誕生から大人になる迄

本書は心理學者の心理學ではない、家庭の親、學校の教師としての覺書である。理論を知り易いが、實際に當面する事の難きを、幾多貴重なる體験から蒸されたもので、學理的な係數は實に本書にしてその活ける深義を解説される。超理論の育児要諦、國民教育須要の基底は既刊書と俟つて茲に樹立さる。

(國民教育の中心問題(其の五))

全體畫用紙印刷 簡明圖解採點表附 定價5錢送料2錢

行發店書黒目 三臺河駿・田神・京東 九〇八二京東 九〇八二京東 九〇八二京東

文部省 主催 家庭教育指導者講習會要項

一、開設地 長崎及奈良ノ三個所

長崎ニ於ケル分

(一)會場 長崎市公會堂(長崎市袋町)
 (二)期間 自十月二十三日至十月二十七日

(三)講義科目並講師
 文部大臣訓示
 家庭教育の重要性 松尾 長造
 家庭に於ける實際上の諸問題 三田谷 啓
 家庭に於ける養護問題 森川 正雄
 家庭に於ける情操教育 山邊 習學
 家庭に於ける實際上の諸問題 植田 壽藏
 家庭に於ける養護問題 平井 泰太郎
 家庭に於ける情操教育 三田谷 啓
 家庭に於ける實際上の諸問題 植田 壽藏
 家庭に於ける養護問題 平井 泰太郎

- 一、家庭教育の重要性 文部省社會教育局 成人教育課長 松尾 長造
- 一、家庭に於ける實際上の諸問題 九州帝國大學教授 鹿子木員信
- 一、家庭に於ける養護問題 廣島高等師範學校教授 辻 幸三郎
- 一、家庭に於ける情操教育 東京帝國大學講師 矢吹 慶輝

- 一、家庭に於ける日常科學 長崎縣科大學教授 大倉 玄一
- 一、家庭に於ける保健衛生の指導 長崎縣科大學教授 大倉 玄一
- 一、家庭に於ける日常科學 附屬藥學專門部教授 大倉 玄一
- 一、家庭に於ける保健衛生の指導 長崎縣科大學教授 大倉 玄一

- 一、特別講座 長崎市誌編纂委員 古賀 十次郎
- 一、家庭養料調理實習 曹洞宗 崎峯寺住職 村上 素道
- 一、科外講演 長崎縣社會教育主事 木島 甚久

(四)文部省提出研究題

國民教育ノ壇場タル家庭ニ於テ訓育特ニ人格教育ヲ徹底セシムル具體的方法如何

奈良ニ於ケル分

(一)會場 奈良女子高等師範學校講堂(奈良市北魚屋西町)

(二)期間 自十一月六日至十一月十日 五日間

(三)講義科目並講師
 文部大臣訓示
 家庭教育の重要性 松尾 長造
 家庭教育の本質及其指導 春山 作樹
 家庭に於ける實際上の諸問題 植田 壽藏
 家庭に於ける養護問題 森川 正雄
 家庭に於ける情操教育 山邊 習學
 家庭に於ける實際上の諸問題 植田 壽藏
 家庭に於ける養護問題 平井 泰太郎

- 一、家庭教育の重要性 文部省社會教育局 成人教育課長 松尾 長造
- 一、家庭教育の本質及其指導 東京帝國大學教授 春山 作樹
- 一、家庭に於ける實際上の諸問題 廣島高等師範學校教授 辻 幸三郎
- 一、家庭に於ける養護問題 東京帝國大學講師 矢吹 慶輝
- 一、家庭に於ける情操教育 東京帝國大學講師 矢吹 慶輝

(四)文部省提出研究題

國民教育ノ壇場タル家庭ニ於ケル情操教育ヲ徹底セシムル具體的方法如何

- 一、行事 會期中見學ヲ行ヒ研究懇話會ヲ開催ス受講者ハ懇話會ニ於テ研究スベキ協議題ヲ提出スルコトヲ得
- 一、受講者 社會教育關係者、學事關係者、學校教職員、社會教育關係者、幼稚園、托兒所、保姆等、其體、宗教團體ノ指導者及社會事業家、幼稚園、托兒所、保姆等、其體、適當ナル、者ニシテ所屬長(北海道長官、府縣知事、直轄學校長、認メラル、私立大學高等學校專門學校長)ノ選定ニ係ル者
- 一、申込 所屬長ハ受講者トシテ適當ト認メラル、者ノ選定ニ係ル者
- 一、氏名 長崎ニ於テ開催スル分ニ就テハ十月十六日迄長崎縣學務部氣付 奈良ニ於テ開催スル分ニ就テハ十月二十七日迄奈良縣學務部氣付

文部省家庭教育指導者講習會宛回報セラレ度尙懇請許可ノ向ニ對シテハ本省ヨリ特ニ通達スルコトナシ
 一、受講者ハ開會ノ當日午前九時迄ニ會場ニ出頭シ講習ニ關スル心得其他ニ關シ承合セラルベシ
 二、受講者ニシテ宿所等ノ周旋ヲ希望スル者ハ開催地ノ縣廳學務部宛直接申込マレタシ以上

文部省 主催 家庭教育指導者講習會要項

一、開設地 長崎及奈良ノ三個所

長崎ニ於ケル分

(一)會場 長崎市公會堂(長崎市袋町)
 (二)期間 自十月二十三日至十月二十七日

(三)講義科目並講師
 文部大臣訓示
 家庭教育の重要性 松尾 長造
 家庭に於ける實際上の諸問題 三田谷 啓
 家庭に於ける情操教育 森川 正雄
 家庭に於ける養護問題 植田 壽藏
 家庭に於ける實際上の諸問題 矢吹 慶輝
 家庭に於ける保健衛生の指導 大倉 玄一
 家庭に於ける日常科學 大倉 東一
 家庭に於ける經濟問題 小出 滿二

- 一、家庭教育の重要性 文部省社會教育局 成人教育課長 松尾 長造
- 一、家庭に於ける實際上の諸問題 九州帝國大學教授 鹿子木 員信
- 一、家庭に於ける情操教育に就いて 廣島高等師範學校教授 辻 幸三郎
- 一、家庭に於ける保健衛生の指導 東京帝國大學講師 矢吹 慶輝
- 一、家庭に於ける日常科學 長崎醫科大學教授 大倉 玄一
- 一、家庭に於ける經濟問題 附屬藥學專門部教授 大倉 東一

- (一)家庭に於ける日常科學 長崎市誌編纂委員 古賀 十次郎
- (二)家庭に於ける經濟問題 曹洞宗 崎峯寺住職 村上 素道
- (三)科外講演 長崎縣社會教育主事 木島 甚久

- (一)家庭に於ける日常科學 長崎市誌編纂委員 古賀 十次郎
- (二)家庭に於ける經濟問題 曹洞宗 崎峯寺住職 村上 素道
- (三)科外講演 長崎縣社會教育主事 木島 甚久

(四)文部省提出研究題

國民教育ノ壇場タル家庭ニ於テ訓育特ニ人格教育ヲ徹底セシムル具體的方法如何

奈良ニ於ケル分

(一)會場 奈良女子高等師範學校講堂(奈良市北魚屋西町)

(二)期間 自十一月六日至十一月十日 五日間

(三)講義科目並講師
 文部大臣訓示
 家庭教育の重要性 松尾 長造
 家庭教育の本質及其指導 春山 作樹
 家庭に於ける情操教育 山邊 習學
 家庭に於ける實際上の諸問題 森川 正雄
 家庭に於ける養護問題 植田 壽藏
 家庭に於ける實際上の諸問題 矢吹 慶輝
 家庭に於ける保健衛生の指導 大倉 玄一
 家庭に於ける日常科學 大倉 東一

- 一、家庭教育の重要性 文部省社會教育局 成人教育課長 松尾 長造
- 一、家庭教育の本質及其指導 東京帝國大學教授 春山 作樹
- 一、家庭に於ける情操教育 佛敎文化協會代表 山邊 習學
- 一、家庭に於ける實際上の諸問題 奈良女子高等師範學校教授 森川 正雄
- 一、家庭に於ける養護問題 三田谷治療教育院長 植田 壽藏
- 一、家庭に於ける實際上の諸問題 神戶商業大學教授 平井 泰太郎
- 一、家庭に於ける保健衛生の指導 長崎醫科大學教授 大倉 玄一
- 一、家庭に於ける日常科學 附屬藥學專門部教授 大倉 東一

(四)文部省提出研究題

國民教育ノ壇場タル家庭ニ於ケル情操教育ヲ徹底セシムル具體的方法如何

一、行事 會期中見學ヲ行ヒ研究懇話會ヲ開催ス受講者ハ懇話會ニ於テ研究スベキ協議題ヲ提出スルコトヲ得

右ハ聽講申込ノ際豫メ提出シ置クコト

一、受講者 社會教育關係者、學事關係者、學校教職員、社會教育關係者、宗教團體ノ指導者及社會事業家、幼稚園、託兒所、保姆等其

他適當ト認メラル、者ニシテ所屬長(北海道長官、府縣知事、直轄學校長、私立大學高等學校專門學校長)ノ選定ニ係ル者

一、申込 所屬長ハ受講者トシテ適當ト認メラル、者ヲ選定シ其ノ職

氏名ヲ長崎ニ於テ開催スル分ニ就テハ十月十六日迄長崎縣學務

部氣付 奈良ニ於テ開催スル分ニ就テハ十月二十七日迄奈良縣學務

部宛直接申込マレタシ以上

文部省家庭教育指導者講習會宛回報セラレ度尙懇請許可ノ向ニ對シテハ本省ヨリ特ニ通達スルコトナシ

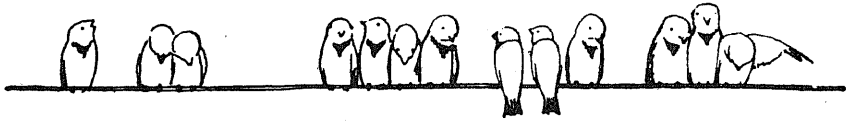
一、受講者ハ開會ノ當日午前九時迄ニ會場ニ出頭シ講習ニ關スル心得其他ニ關シ承合セラルベシ

二、受講者ニシテ宿所等ノ周旋ヲ希望スル者ハ開催地ノ縣廳學務部宛直接申込マレタシ以上

(備考) 文部省家庭教育指導者講習會宛回報セラレ度尙懇請許可ノ向ニ對シテハ本省ヨリ特ニ通達スルコトナシ

一、受講者ハ開會ノ當日午前九時迄ニ會場ニ出頭シ講習ニ關スル心得其他ニ關シ承合セラルベシ

二、受講者ニシテ宿所等ノ周旋ヲ希望スル者ハ開催地ノ縣廳學務部宛直接申込マレタシ以上



號 十 第 育 教 の 兒 幼 卷 四 十 三 第

— (次 目) —

口 繪

卷頭(自らを)……………會橋惣三(一)

フレーベルを想ふ……………齋藤善太郎(二)

誰にでも出来る實驗(四)……………堀七藏(一〇)

思ひ出……………坂内ミツ(一四)

蜻蛉の魅惑……………(一八)

幼兒の服裝について(八)……………成田順(一九)

秋雜詠……………新庄よしこ(二六)

童王女の猫の話……………中野好夫(三七)

講習會に於ける質疑應答速記……………(三)

武藏野音楽學校長 福井直秋先生著

最新刊

婦人唱歌

全一冊

極上布製函入

定價 金八拾錢

送料 金六錢

現代婦人に最適なる歌集

次 目

家庭生活の中心であり、子女教育の最も良き指導者たる日本婦人の愛唱に供へ、高雅にして優美なる情操の培養に資せんとするもの、敢て現代婦人の御試唱御高評に俟つ。

- 一、ああ故郷 二、愛する友 三、秋の夕 四、朝の海 五、朝まだき 六、海の日本 七、梅の色香 八、浦風吹けば 九、樂の音より 一〇、くれゆく野ら 一一、荒城の月 一二、月下の舟遊 一三、木陰なつかし 一四、故郷の山河 一五、故郷の我が家 一六、こげやこげや 一七、子守歌 一八、榮行く御代 一九、櫻 二〇、さげ花よ 二一、すべては空し 二二、隅田川 二三、すみれ 二四、夕陽 二五、正しき道 二六、谷間の花 二七、樂しき農夫 二八、旅路 二九、月の祈り 三〇、つどひ 三一、友を懷ふ 三二、なつかしの故郷 三三、夏の夜 三四、虹 三五、日章旗 三六、眠れよ 三七、ねむれよ 三八、埴生の宿 三九、春たけなは 四〇、春の光 四一、一つ家 四二、朝陽の光 四三、盆踊 四四、松よ 四五、蟲の音 四六、森のひびき 四七、山路 四八、夢 四九、わが大君 五〇、別れ悲しも

福井直秋先生著
兒童唱歌七十一曲集
 定價一、二〇〇 送料一〇〇

福井直秋先生著
 小學の教材の選擇に就て
 定價、四五 送料四

武藏野音楽學校編
コーラス・アルバム
 定價一、〇〇〇 送料六

日本教育音楽協會編

小學唱歌教授指針

定價、六〇 送料六

日本教育音楽協會編

エホンシヤウカ

春・夏・秋・冬の巻
 定價各金、三五 送料各二

日本教育音楽協會編 卷一、二 低學年用
 卷三、四 高學年用

子供の舞踊

定價 低學年用各金、一〇〇 高學年用各金、一、〇〇〇 送料各六

東京市神田區 二ノ一町崎 音教育書出版協會 振替電話 東京六四七〇 〇七三三



り 祭 秋

(園 稚 幼 屬 附)

幼 児 の 教 育

昭 和 九 年 十 月

自 ら を

子どもを教育するのは教育者の責任である。しかもこれは、教育者としての一面の責任に過ぎない。此の、外へ向つての責任と共に内へ向つての責任がある。自分を教育するこゝである。但し、此の責任は何びこにもあるこゝに相違ないが、外へ向つて教育を行ふ者に於て、特に強く感ぜられる責任である。一般の仕事は、外に向つてのみ行はれるのでも濟む。教育といふ仕事に於ては、そこが全く違ふのである。内へ向つての教育なくして、外へ向つての教育はあり得ないこゝである。

すべての教育は自己の教育に發するこゝについては言葉が過ぎるかも知れない。しかし、少くも教育の眞の迫力は、此の謙遜なる自己教育の心からのみ出る。

フレールベルを想ふ

— 宗教々育に關し更めて —

齋藤善太郎

宗教々育に就いての相談を受けて、フレールベルを読んで下さい、フレールベルの「人の教育」を、あの古典をさへしつかりと読んで下さるなら、問題はそれで解決します、と言つた責任もあつて、本棚の奥から、かれこれ十年餘りまへに買つておいた原田ハウ譯の本を採りだして見たのですが、所々拾ひ読みしてゐるあいだに、はつき驚かされたのでありました。他人に古典として奨めた其の本は、まさしく古典、活ける古典として、すまなくもまみれさせてあつた埃のなかへ、新たなるものとして私のうへに光つてくれたのでした。スツカリつかれて、幸にこれも本棚の奥に藏ひこんであつたレクラム版の原書を採り出してみるにおよんで、實に魅せられてしまつたのでした。一般に、殊に魂をもつた古典といふものは、翻譯の極めて困難な、いなほさんご不可能なものであることは知りながらも、此のフレールベルの原文は、翻譯文は餘りにも異ふ活ける精神をもつのに、むしろ喜ばしい驚きを感じさせられ、そこから廻つて来るフレールベルの呼びかけのまへに、敬虔に頸垂れさせられたのでした。そして、決して譯文を責めるのではない、それどころか、原田ハウ譯にしても、田制譯にしても、小原譯にしても、するぶん苦勞して何んぞかして此の古典を傳へたいといふ念願に満されながらなされたことだらうと感謝するゝことながら、しかし、同じ念願は、私をして譯文と原文とはするぶん異ふ、と言はしめずにお

きませんでした。たゞに幼稚園において實際保育にあたつてをられる人達のみにではなく、すべて教育者に、いひかへて「人」に、みんなに、父に母に、兄に姉に、隣人に對しての長者たる人に、ほんまうに此の古典を讀んでもらひたい、事實に念願さるゝのでした。

二

しかし、それはそれとして、では、どんな風に異ふであらうか、と申しますと、開卷第一略々こんな風に讀まれるのであります。そのまへに、これも御知らせしておかねばなりません、原書では、その扉の獻辭のところに大文字で「彼に」敬虔なる含著をゆたかに示した文字がたゞ一つ誌されてゐるのであります。「いゝ高き者、たゞ其の御心を畏みつつ、生き、語り、考へ、書きしてゐた原著者をさながらに想はしめる獻辭であります。その獻辭につゞいて、

『あらゆるものゝうちに一の永遠なる法則が宿り働きそして支配してゐる。それは、内なるものすなはち精神におけるごく、外なるものすなはち自然において、しかしてまた此の兩者を一にするものすなはち生において、つねに同じやうに明瞭に同じやうに確然とあらはになつてゐるこゝであつて、心情よりにせよ信仰よりにせよ、ものは斯くて在らんよりほか如何とも在り得ずといふ必然性に、こゝろ滿され貫かれまた活かされてゐる人、もしくは、明透安靜なる心眼もて、外的なるものゝ中に於てまた其れを通して内的なるものを直觀し、内的なるものゝ本質よりして外的なるものゝ必然にまた確實に現れいづるのを見る人、かゝるひこには、そのこゝは既にあらはに現れてゐたのでありそして今も現れてゐる。』

略々このやうに讀まるゝ數行がまつくるのであります。考へてゐるこゝいふやうなものでなく、活けるものとして確かに持つてゐるものを、なんまかして語り傳へようとしてゐる原文そのものであるだけ、かうして大略を、原文につきながら

ではあるが言ひかへてみるに、實に、もぎさられた花もしくは手足いふやうな感じで、自分ながら心苦しくなるのでありますが、こもあれ原文は其の第一行からして敬虔に我等をうつのであります。「あらゆるものゝうちに……」靜かに安らひ、働き、しかも満ちわたりながら支配してゐるもの、永遠なる法がある。かく語らるゝとき我々は、彼に連れられながら、彼と共に、其の「法」のまへにつゝましくまつ立たしめられるのであります。そこへ彼の次の言葉が来るのであります。

「そのこゝは既にあらはに現れてゐたのであり、そして今も現れてゐる……」。さきの言ひかへでは後になつてゐますが、原文では此の所が、まへの所に直ぐつゞくのであります。しかも、そのさきの其の「現れて」いふ言葉は、彼が果して然ういふつもりであつたか否かは今かるゝしくは云へないにしても、こゝにかく、聯想して、言葉において話しかける、言葉として己を顯はにする、いふ、たゞへば新約聖書の第四福音書、ヨハネ傳の冒頭あたりを、すなはちあの有名なる、はじめに言葉があつた、其れは本來光、神そのものであつた、其れが言葉として、活ける言葉イエスとして、おのれを顯はにしたのである云々、いふあたりを、創生記的莊嚴さをもつて私達に聯想せしめるのであります。そして、そこに在る、その本來在るそのものが、精神となり自然となり、生すなはち人となり成つてゐる、其れらとして現れてゐる、いふやうに語るのであります。そのさき我々の關心をうつのは、「兩者を一にするものすなはち生において」いふ言ひ方の彼の言葉つかひ、すなはち、自然及精神を、おのれに於てまたおのれを通じて一ならしむるものとしての「生」もしくは人といふ言ひ方をしてゐるゝところであります。自然と精神との、たゞ外的もしくは内的なるものとしての兩者を、おのれに於てまたおのれを通して、媒介して、内的なるものを外的なるものとし、外的なるものを内的なるものゝ現れ著しくは實現しならしむるもの、したがつて、本來可能態において在るゝところの本質を現實態において自己實現せしむる當の契機として、人を若しくは生を觀てゐるのであります。そしてかゝるものとしての「人」を、すなはち人の人たる所以のものを、

敬虔なる世界觀を背景にしながら彼は語つてくれるのであります。(附記参照)かくして彼は、その語りはじめの敷衍によつて直ちに我々を眞理の世界に連れていつてくれるのであります。しかも此の眞理の世界は、我々にまつて、單なる思想さか、或る一古人の見解さかいふやうな、たゞ其れだけにすぎないものとして提示せられてゐるさういふやうなものではないのであります。此の事は實に注意を要するところであります。云ひますのは、たしかに、思想さして扱へば、彼のものを、或る一つの見解さして、思想史哲學史の敘述のなかに一定の位置を與へ、そして、しかし思想史哲學史の進展は遙かに其れを後に残してすゝんでゐる、さういふやうに、みなしうるからであります。(附記二参照)このことも必要でありませう、しかしフレーベルの述べたところが意味あるのは、それをたゞかく一箇の思想さしてみなすさういふやうな解しかたからしては、若しくは、少くも活ける、古典さしての此の「人の教育」の精神に直接に觸れようとするかぎり、さういふみなしかたからしては出て來ないところのものであります。彼が此の冒頭に語つてゐる精神を、單なる思想、もしくは謂はゆる形而上學さしてのみ解するならば、其れは、ほんまに言葉さほりに他人のものを彼が借りてきて、其れを利用して自己の理論さしてゐるのである、云ふことは、なんでもなく出來て、しかも、然う解釋してまことに安々さ彼の思想を云々したり利用したりするこも出來るのであります。しかしそれでは、此の活ける古典的精神を、全く殺しては、フレーベルの腐朽せる形骸を、生ける、フレーベルそのものであるかに扱ふことに了るだけのこもであります。しかしフレーベルが不朽であり、今も生ける、古典さして其の「人の教育」が我々に迫るのは、そしてそこから我々が問題解決の指示を與へらるるのは、彼の語れるところ、若しくは語るところを、たゞしく解する、こもによつてのみ可能になるのであります。そのためには、此の冒頭に述べられたる、たしかに思想さして扱へば扱ひ得るところのものも、しかし彼においては、若しくは彼にまつては、思想のかたちをまつてあらはれた、信念、もしくは言葉の廣く且つ正しい意味において信仰であつた

こゝを、まづ認めてかゝらねばならぬのであります。すなはち、彼にまつては、嚴厳としてそこに立つ事實、其れの真相の表現、すなはち真理真理として、其の事實が言ひ表されてゐるのであること、したがつて、學究者の概念表現概念表現といふものではなく、此の「人の教育」者を信念的に内より動かし、上より支配してゐた當の活ける信仰そのものが、表白せられてゐるのであることが、理解せられねばならぬのであります。若し此の理解なくして、いな斯かる理解なきをばなさうともせずして、フレーベルをかつぐならば、フレーベルを殺し、保育を殺し、宗教々育を殺し、また自ら古くなりはてるだけのことでもあります。それはそれとして、こゝもあれ、此の冒頭の數行は、たゞ數行ながら、さすがに彼がやむにやまれぬ叫びとして、「學者の如くならず權威あるものゝ如く」語つてゐるこゝろだけに、我々をうち、我々をこらく、我々を動かし、そして我々を真理の世界に導いてくれるこゝろであります。

こんなふうにして真理、もしくは彼の信念を思想して表白してから、彼の敘述は、それをしだいに説明してをります。

「此のいたるこゝろに支配してゐる法則の根柢には必然に、一の、いたるこゝろに働き自明にして生々生々活ける自覺的なる、したがつて永遠に存在せる統一性がよこたはつてゐる。このこゝろは、此の統一性そのものと同じやうにして復、信仰によるにせよ直現によるにせよいづれにもあれ、おなじく生々生々おなじく把握的包括的に識らるゝのである。したがつて此の統一性は、しづかにものごごに注意する人の心情こころ、思慮深く明透なる人の精神こころによつてまた、すではやくより確實に認められたのであり、そしてこれからも、それについてはたえず識らるゝこゝろであらう」。

此の統一性が神である」。

一切は此の神的なるものすなはち神より出でゝゐる、そして、此の神的なるものすなはち神によつて其れれに性狀を定められてゐる。神のうちうちにこそ、一切のものゝ唯一の根源は存在する」。

彼の眞理、彼にまつて生ける、世界觀したがつて人生觀であるところのものゝ表白としての眞理を、かく説明してから、ほゞ冒頭の數行と同じ敘述を、さきには「法則」であつたものを「神的なるもの、すなはち神」にして言ひ換へながら、

「あらゆるものゝうちに神的なるものすなはち神が宿り働きそして支配してゐる」。

あらゆるものは、この神的なるものすなはち神のうちに、安らひ、生き、成立し、この神的なるものすなはち神に由つてゐる」。

一切のものはたゞ、神的なるものがそのうちに働いてゐることに由つてのみ存在する。

おのゝものゝうちに働ける此の神的なるものが、そのおのゝものゝ本質である」。

と述べて、自ら捉へたる眞理、それによつて自ら生かされつゝある眞理を、表白し、説明し、そしてその上に自己の思想と理論とを展開建設してゆかうとする根本基礎を、かくして、冒頭の數説において我々に提示してゐるのであります。

三

譯文を決して責めるのではないが、原文はこゝろもちがかなり異ふ、と云つた其のこゝろもちが、此の極めて拙な、原著者に對してまことに心苦しい紹介によつて、少しでも氣づいていただければと思ふのであります。

しかし、かうして記しながらも、原文を通して、不束な私の讀みやうを通してさへも脈々追つてくる原著者の心に、實にうたれて、しかも、其の立體的な深さ、生ける深さのまへに、自分の解釋の到底ゆきまきえぬこゝろを感じさせられて、茫然と手をつかねさせらるゝ感が實に深かつたのです。そして、これは、かういふ古典は、私達の近くでいへば小西重直先生とか倉橋惣三先生とかいふ方々でなければ、紹介なんかできるものでないし、心から幾度も思はせられるのでした。

それはそれとしても、原著者の心づかひには實際むしろ驚かされます。例へば、ものゝ若しくは存在の本質としての「神」を説く場合でも、たぶんフレーベルの周圍でも然うでありやすかつたであらうやうに、「神」をいへば説く人も、聽く人も、誤解する人も、やゝもすれば單なる形而上學的知識にしてしまひやすくなるのを、そしてそこから、歪められたる所謂教育、歪められたる所謂宗教々育が派生することを、あくまでも防がうとされたものらしく、一つの「神」をいふ言葉を出すのにも、フレーベルは實に用意に用意を重ねて、「此の統一性が神である」と説明した後にもなほ極めて用心深く、「此の神的なるもの、すなはち神」をいふやうに述べてゐます。生ける心、烈々たる心、しかし暖かく母の如き心、しかも良き母の如く敬虔なる此のフレーベルの心に、原文を通して、そのあひだより我々に今さゝやく心に、實に私達はうたれざるをえないのであります。

附記一、自然に精神を一にするものとしての「生」もしくは「人」。此の事については、ヘーゲル風の考へ方を、詳しくは参照していただくかねばなりません。フレーベルの思想的背景をかりに離れるとしても、原文のこゝの所を理解するためにはヘーゲルの謂はゆる「精神」、その辯證法的なる、媒介を通じての自己實現についての、深みのある哲學を、さうしても必要とします。まして、フレーベルが生きてゐた世界の思想的背景は、あの敬虔なるカントよりいで、フイヒテ、シュリング、ヘーゲル等、偉大なる思想家達によつて指導されてゐたことを思へば、ますます其の必要を感じさせられます。

附記二、フレーベルの思想的背景。此の事に關しては、實に手際よく、原文の刊行者ツインメルマンによつて、解説せられてをります。そしてフレーベルの考へ方は、シュリングの哲學を極めて近い關係にあるが、しかし直接にはクラウゼの系統であることも、クラウゼの原文を引きながら説明されてゐます。今頃はしいこゝでせうから引きませんが、

さきに不手際に言ひかへてみたフレーベルのあれだけの所についてさへ、ツインメルマンは、シエリングやクラウゼから、數箇所の原典引用をなして、フレーベルの生ける信念を、他面から支持してゐる思想を示してゝくれます。

附記三、私事ながら、フレーベルの此の心、にうたれて、其の人に常に接したく、その一つのよすがにも、倉橋惣三先生秘藏の初版本から近く複製されたフレイエベル、母の歌ミ愛撫の歌、ブリュウフェル編及跋、茅野蕭々譯を手にいれて、まさしく座右に飾つたのでした。此の本、それが如何なる輝きミ生命をもつてゐるかは既に知られてゐることであります、此の複製本を刊行された方々をも、フレーベルの生ける魂が動かしてかくなさしめてゐるのだと思ふ、其の本を座右にしなごら、敬虔なる心にならせられるのであります。

さうしてをりましたところへ、友のひこりは、明治三十年三月に、ハウ女史が出された「母の遊戯及育兒歌」をいふ、前記の本の全く日本風の、和綴二冊、和紙に、繪も言葉も全く日本風に印刷した本をもつてきてくれました。ハウ女史の此の苦心、まさにフレーベル的な暖かき苦心、いなハウ女史をしてかくせしめた、フレーベルその人の魂、いなさらに、フレーベルを通じて今も我等のなかに働けるもの、即ちフレーベルのいはゆる「神」の、生ける眞理性に、かさねてうたれたのでした。

誰にでも出来る實驗 (四)

東京女子高等
師範學校教授

堀

七

藏

一 自分を吊上げられるか

誰にも出来る實驗といつても、茲には先づ誰にも出来ない實驗を紹介する。誰にも出来ない實驗が誰にも試みられるといふのである。

兵古帯をかたくしめてその帯を両手でつかみ、うん、力を入れて自分の身體を吊上げる。みんなに力を入れて帯を引上げて、身體は少しも吊上げられない。誰が試みても決して自分の身體を吊上げるこゝが出来ない。

足の先を手拭で吊上げるこゝ、足を引上げるこゝが出来るのである。しかし帯を両手で吊上げたのでは決して身體を吊上げるこゝが出来ない。作用があれば反作用がある。作用と反作用とは方向が反對で、その大きさが相等しいことは、ニュートンの運動の第三法則である。帯をつかんで引上げる力を作用とすれば、帯が両手を引下げる力が反作用で

ある。此作用、即ち帯を引上げる力と、其反作用即ち帯が両手を引下げる力とは方向が反對で、全く相等しい。それで身體は引上げられないのである。両手で引上げる力が強ければ強いほど、引下げる力も大きく相等しいからである。

二 足もとにある物が拾上げられるか

これも亦誰にも出来ない實驗。出来ると思ふ者は必ず試みるがよい。出来ないと思ふ者も、勿論試みぬといけな

壁でも柱でも板戸でもよい。それに身體を接して直立する。勿論踵を壁に接して兩脚を直立するのである。そしてこの兩脚を曲げたり廣げたりせずに、足元に落ちてゐるボールでも石でも拾ふ。誰でも拾上げるこゝが出来ない。拾はんとして上體を前方に曲げるこゝ、必ず前へ倒れる。そして足元にあるものを拾ふこゝが出来ない。兩脚を擴げて段



段上體を低くし、腕を下方にさしのべるこゝ、足もみにあるものを拾上げるこゝが出来る。しかし兩脚は踵を接し

た儘で、決して擴げず、兩脚を決して曲げないといふ條件では、誰でも足元にあるものを拾上げるこゝが出来ない。拾はんまゝして上體を前に曲げるこゝ、その重心が兩足の外に出るから倒れるのである。誰でも、出来るこゝ思ふものは、必ず幾度でも試みに御覽。みんなに努力しても、幾度やつて見ても出来ない實驗である。

三 大變に重い

甲の姿勢にある子供を拾上げるこゝは左程困難でない。十五疚の子供は十五疚の重さの物を持つ上げるこゝ同じであ

甲



る。しかし一寸子供に耳打ちして祕法を授けるこゝその子供は大變に重くなつて中々持上げられない。同じ子供である

が祕法を授ける。その子供は急に體重が増したやうに、
なにか力んでも中々持上げられない。誠に不思議な魔力が乗
り移つたやうに子供は重くなる。この祕法は世話がない。一

乙



寸子供が上體を前かゞみにさへすればよいのである。上體
を前かゞみにするまじうして其子供が重くなるか。子供の
曲げた兩肘を上げる手の力が甲の姿勢のまきこ乙の姿勢
のまきこさんな違ふか注意して考察するま明白になる。

四 ころがる茶筒

中が空になつてゐる圓い茶筒に人さし指をかけて手前
ころがすやうにする。決して手や指で向ふの方に轉がす
のではない。人さし指をこのやうに圓い茶筒にかけて引く



ま、茶筒はその場でころ／＼ころがるだけで、決して向ふ
にころ／＼ころがるものではない。それが一寸人さし指の
先に鼻の脂をつけるま、茶筒を向ふにころがすまきこが出来
る。これこの通り。見事に疊を五枚も六枚も向ふにころが
るではないか。まきこに不思議でせう。

誰でも茶筒を人さし指で、手前に引くやうにして茶筒が
向ふに轉がるものではない。それが鼻の脂をつけるま見事
にころがる。こゝに鼻の脂、さいつても、只のつばでもよし。



五 ぬけない茶筒

茶筒を空にしてその蓋も身も底から温める。そして蓋をするに、その蓋はさんなにしてもぬけなくなる。ぬけなくて困るにきには、茶筒を外から暖めるによい。するに中の空気が膨張してよくぬけるものである。

六 空罐の植木鉢

また水をつけてもよい。このやうに人さし指の先に水をつける。そしてぬれた人さし指で

茶筒を手前にひくやうにするに、茶筒は却つて向ふにころくころがるものである。どうしてでせうか。

罐詰の空罐を利用した植木鉢は軽くて、落してもこはれず、冬凍結して瓦鉢のやうにこはれる心配もない。そしてエナメルを塗つたものは一寸風雅でもある。

空罐の底に、五寸釘位で小孔を五つ六つあける、五寸釘を金鋸で打つに、容易に小孔があく。また罐の側壁に對稱的に二つの小孔をあける。これに針金を通して吊すやうにするがよい。かくてエナメルを空罐の内面にも外面にも、また底にも一様に塗るによい。この中に土を入れてチュウリップでもヒヤシンスでも、またしだ類でも植えて置くにまことによい廢物利用の鉢物が出来る。

七 ビンホールカメラ

茶筒の底の中央に留鋸の釘で小孔をあける。そして茶筒の口を半ばすきこぼつた硫酸紙で蓋するやうに張る。そして外の景色に茶筒を向けて見るに、外の景色が奇麗に倒さに映るものである。これがピンホールカメラ(釘穴暗箱)と稱する。丁度、朝、雨戸の節穴から日光がさし込んで外の景色が襖に映るに同様の理窟によるのである。この「ピンホールカメラ」は今日寫真をうつす暗箱の前身である。

思ひ出

大和郷幼稚園 坂内 三ツ

失敗談を書けといふ珍らしい嚴命を受けました、失敗した事は數知れず何から先きに書いてよいか一寸迷はざるを得ません、今思ひ出すまゝに赤裸々な失敗を書いて皆様の御同情ご御判断を願ふ次第であります。

一、新入幼児の取扱ひ

大きい抱負を抱いて幼稚園に奉職はしたものの、幼稚園についての勉強は極めて淺い、四年生の時安井先生から保育、倉橋先生から十回講義で兒童心理をお習ひしただけ、實習といへば僅かに六週間わからないのも無理のない話、殊に大きい組を持つたので小さい組の事なきてんでわからな
い、しかも自分では一さかぎの保育者氣取りであつた、處
がいよく、新入生一さ組四十人を受持たされて見るこさう
して、泣き度い事ばかりである、中にも氣が弱くて附添
からはなれまいとして毎日、泣く〇さんがあつた、寢て

も醒めても〇さんの事ばかり考へて居る、毎朝お掃除をし
て居ても玄關の方にばかり氣が取られる、一聲〇さんの聲
を聞くに雑巾も箒も投げ出して玄關に飛び出しすぐおんぶ
して二十分位歩きまはり雞や鳩に御機嫌がなほる、其後は
さして困りもしない、毎日これを繰り返して二ヶ月以上も
つゞいた事でせう、其間に時には手こずることがある、鳩
を見せても雞を見せても何の話をしても機嫌がなほらず
「先生馬鹿々々」の連發、三十分も四十分も時を精力を費し
ても物にならず本校の花壇邊迄遠征して時間を費さねばな
らぬ、其幼児一人に取つては親切なやり方かも知れないが
後の三十九人をさうするか。幸にお茶の水では實習の人が
多いので無事なるを得たのであるが、今日から考へて見れ
ば愚な話、何も無理に泣かせて多くの人に迷惑をかけるに
及ばぬ、附添の人に少し附いて居て貰つて機嫌を直してか

ら引きこつてもよいではないでせうか。

一、特別な子供の取扱ひ方

興奮し易い子供を取扱ふのに大人が興奮しては落付かせることが出来ない、ますく興奮させるばかりだこは知りつゝもあまりあばれられるこ逐ひ強い態度で對したくない、或時女のお兒さんが友達こ喧嘩をはじめ亂暴をはじめた、日頃からこ變つた處があるこ注目して居たので此時こそ強く抑へねばならぬこ思ひ強く叱つた、處が俄かに興奮して私の手に爪をたてみゝす腫れになり血さへ見えた、手を抑へるこ足で蹴る、抱いてしまへばよいこ思つて抱けば髪の毛をむしる、其様子を他の子供に見せ度くないこ思つて人の居らぬ處に連れていつたがいくらか見た人もあつたこ見え翌日わざ／＼母親が見えて詫びられた。其時の恥かしさ自分の取扱ひ方の拙い爲めに子供にいやな記憶を残し、母親に心配をかけ申譯のない事をしたこ後悔しても取かへしがつかぬ、元より雙方惡意あるわけではないがあまり責任を感じ過ぎ、かたくるしく考へ過ぎる爲めではないでせうか、もつこ穩かに氣永に導けば矯正の出来ないわけ

はない、殊に女兒は年頃になれば靜まるので、惡意さへなければ亂暴だ位の事は氣にするには及ばない事こ思ふ。

一、あせり過ぎる

保護の多過ぎる子供は附添からはなれたがらぬ、それはなれさせやうこするのが何よりの仕事のやうに考へた時代がある、其頃も検定をして入園を決定するこはいふもの今の検定方法は趣を異にして居たので入園して見ればはなれにくい人が一組に二三人は必ずあつたものだ、其場合むやみに自分を責め誠意が足りないからだ方法が拙いからだこ苦んだり、又親の理解がない附添人が氣が利かぬこ人の事まで悪くいつてやきもきするには當らないこ思ふ、何しろ自分の家より外に出た事のない子供が急に幼稚園の生活にはいつては、如何に刺戟の少いやうにこつこめても家に居る時違はぬ氣易さで居れこ聞かせられても出来るものではない。大人でも急に知らぬ世界にはいつては思ふ事もいはれずきまりの悪い思ひをするに相違ない、子供だからこ一日や二日で順應して行けるものではない、あせるには當らないこ思ふ、教育は永續的のもので効果の見え

る事が極めて遅い、そこが鉛細工やしんこ細工と違つてむづかしい所である、僅か一ヶ年や二ヶ年で子供の素質を改造しやうなごまは大それた話にも程がある、まして幼稚園に居る時は健康な機嫌のよい數時間だけで全部を見て居るわけではないのである、それを入園後一二ヶ月で幼稚園に入れて何も覚えませんが、剛情もなほりませんと訴へたり、甚だしきはこんな悪い習慣がついたなごま抗議を申込むやうな親もある、氣永にゆるく親から教育してかゝらねばならぬ、しかし効果が見えにくくて努力を惜しむの意味ではない、そうした事を訴へて來る親は先生を信じ幼稚園の効果を過信して居るのでむしろ氣の毒である、其熱心も買つて上げ其言を尊重して反省の資としたいものである。

一、落葉掃き

元のお茶の水のお庭は樹木が多くて有難い代りに落葉の多いのは實に有難くなかつた、毎朝大人も子供も箒のさばきも忙はしく落葉をかき集めねばならぬ、教生に出たのは十一月盛んに葉の落ちる時であつた、毎朝箒の取り合をして一心にはき清めたものだ、或時まだ充分運び去らぬ内に

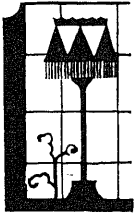
會集の知らせがあつた、一寸考へたが自分は教生である先生も御出になるし教生も一組には五六人ついて居るのであるから自分一人居らんでも何事もないそれよりもこの落葉を運んできれいに置いて子供を遊ばせる方がよいと思ひ少し後に残りせつせと働いて居た、たまぐ安井主事のお目に止り勤勉だごおほめになつたそうである、それは後でかされた事であるが其時考へて見た尙奉職してから再び考へて見た、其幼稚園、其組に於ける役割によつて判断せねばならぬ事である、この時としては賞讃に値して居たかも知れぬ、安井先生は其精神をほめて下さつたのであるがこうした事は常に取るべき方法ではあるまいと思ふ。

一、諧謔さふさけること

母として我が子に對し責任を感じない人はないがやゝもすれば感じ過ぎるのあまり、かたくるしくなつて子供らしい滑稽を理解せず一々角をつけて小言をいふ人が多いやうに思はれる、一般の婦人殊に主婦にもう少し滑稽を理解しやれの通る人が多くなつたら現在の家庭はもつと明るく朗かになるのではないかと常に痛感して居る、私の園にもこ

うした型にはまる家庭があつた幸福な家庭ではあるが母親があまりにかたくるしく考へ過ぎるやうで道草のために少し歸りがおそいといつては小言をいひ、誤つて白墨のかけをポケットに入れて歸つたといつては重大視して大ききぎ恰ら盜僻でもあるかのやうに子供を責め立てる。

さいふ風で、あまり嚴格過ぎていぢけはしないか心配して母親にも注意した、其子供には特に朗かに對し喧嘩でもして居る時は自分も滑稽な気分になつて大手を擴げて間にわつて入り兩方を笑はせてしまふ、又何かむづかしい顔をして不平らしい時には面白い話をして笑はせるさいふ風につきめた、考へはたしかによいのであるが子供が幼稚園に馴れて來るに従つて諧謔的氣分が通り越してふざけるやうになつた、ふざけるのにも種類があるが度を越してはいけないこれはたしかに最近に於ける失敗の一つである。

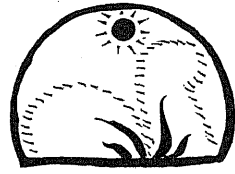


今度の思ひがけない關西地方の大風水害では多數の幼稚園が非常な被害をこうむられました由、誠にお慰めの言葉もございません。その地の皆様にはもう雄々しく復興の爲においそしみの御事と存じます。何卒お健やかにおすごしの程をお祈り申し上げます。

本會からは大阪、京都、神戸、岡山の幼稚園へ心ばかりのお見舞ひをお送りいたしました

昭和九年十月

日本幼稚園協會



蜻蛉の魅惑

——詩人グランゴールの幼時の想ひ出——

一八

讀者諸君も嘗ては少年であつたであらう、恐くは今一度さうあり得たならば幸福だと思ふに違ひない。私自身もこの少年時代を、毎日最も有効に費したのであるが、諸君はたびく、麗らかな日、清水の流れる小川の岸を、急な曲り角で翅を毀したり、或は小枝に接吻して、そここゝに飛びまわる青色や緑色の美しい蜻蛉の跡を逐つて、叢から叢へミ駆け廻つたこゝがあるに違ひない。紫色と碧色の翅をばたきさせながら、風を切つて浮游してゐるこの小さな渦卷のやうな感じのする蟲に、諸君は身も心も奪はれて、好奇の眼を注いだこゝを想ひ出すだらう。その駆ける速さに眩されて、翅のはばたきの中には、何とも捕へやうのない形ものが現れてゐると思つたに違ひない。この翅の顫動の中に、もやくした陽炎のやうな形を見るこゝ、諸君は

夢のやうな幻のやうな、觸るこゝも見るこゝも出来ないものがあるやうに思つたに相違あるまい。が、遂に蜻蛉が葦の葉末に止るこゝ、諸君は息を殺して、その長い紗のやうな翅や、エナメルのやうな體や、水晶のやうな眼を見つめた時、その驚きは何に喩へやうもない位であつただらう。そして、蜻蛉の體がまた影のやうに空中に飛び去つて、それが夢の中のものになつてしまふこゝを恐れる氣持は、どんなであつただらうか。

春陽堂世界名作文庫

ユーゴー作、ノートルダム偃僕男(前篇一五一頁)

ユーゴー三部作(レ・ミゼラブル。海の勞働者。

ノートルダムの偃僕男)の一

幼児の服装について (8)

東京女子高等
師範學校教授

成 田 順

だんくにおお寒くなつて参りますので本月號には外套について述べます。

一般に氣候の變り目には服装について特別の注意を拂はねばなりません。老人と子供は又格別に周圍のもの家族のものから氣をつける必要があります。即ち寒さになりかけには急に寒さを感じますので下着を重ね或は上着を取りかへてあたゝかにします。それより次第に冬の支度に移りますが、こゝに注意すべきことは體の寒さに慣れぬ時多くの下着を重ね次から次へ多くを着用する時は幾枚重ねても際限のないものです。それ故寒さに體が慣れて來た時幾分薄着になり下着の數を減するやうにしたいと思ひます。我國では一般に子供が厚着をして冬の間は運動はおろか動作にも不便を感じて居るやうに思はれますが此點特にお母様方にご注意願ひたいこゝに存じます。

さて外套を申しましたも種々ありますが、幼児のものとしては先づ防寒用のものが多く次は雨具として用ひらるゝものでせう。各々は使用目的によつて地質を選び形を考へたいと思ひますが何れも幼児用としては質素に且つ圖のやうな簡單なものでありたいのです。

(1) 用布の種類

防寒用 ラシヤ・メルトン・ラクダ・モヘーヤ・シール・ベ

ルベット等

雨具用 レーンコート地・防水布等

裏地用 富士絹・繻子の類、羽二重・モンパレスは上等品
です。

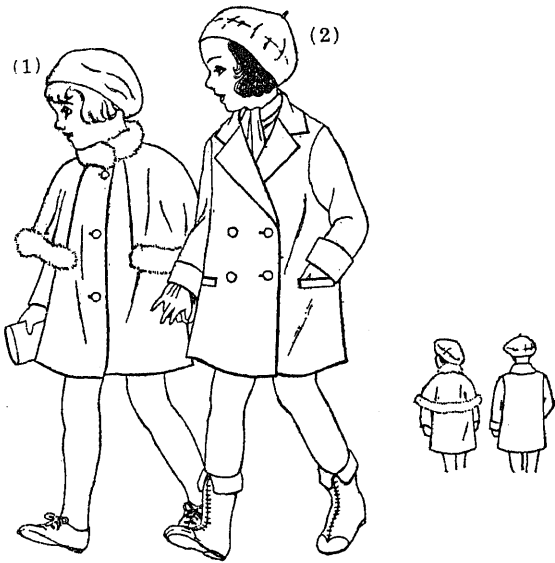
(2) 形

子供の外套は大體に於て衿ポケットに差があります。時には身頃に色々の線を入れて變化をつけるが地厚の時

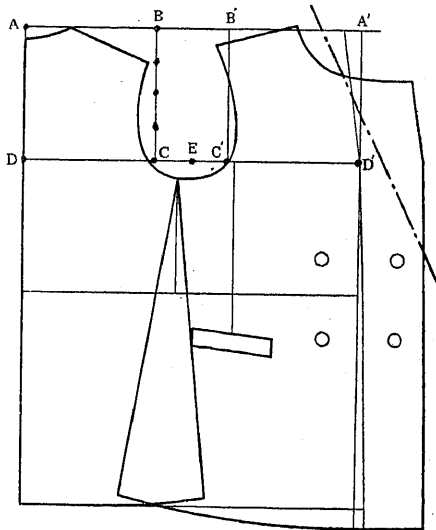
a、身頃

(3) 型紙の裁方
 外套の時には洋服を着た上から胸圍の寸法を取り之で製
 圖します。

には簡單にさつぱりしたデザインがよろしい。



- 1、A B C D 及び A' B' C' D' は各々胸圍の正方形
 - 2、ゆるみ即ち B B' は七纏乃至八纏
 - 3、E 點は幅の中央即ち D D' の中央
 - 4、丈、ドレスと同様即ち身長の $\frac{5}{10}$ 位
 - 5、衿ぐり、後は横に $\frac{1}{4} \times \frac{1}{8}$ 縦に $\frac{1}{2} \times \frac{1}{8}$
- 但し横へは胸ゲセー・五纏を取つてから取る。
- 6、肩下り 後は B C の $\frac{1}{4}$ 、前は B' C' の $\frac{1}{8}$



- 7、肩幅 後はDEの12、前はそれより〇・五糎少く
- 8、袖ぐり D'D'線より一・五糎乃至二糎深くする。
- 9、脇の線 ウエストラインで後一・五糎前二糎ひろげる。(之は出来上り圖によつて多少斜酌する。
- 10、前の中心 圖のやうにウエストラインで〇・五糎出して斜線を引き前の中心とする。それより重りの1/2を出す。

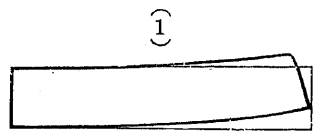
(重りはシングルの際は六糎乃至八糎、ダブルの時は一〇糎乃至一四糎位にする)。

- 11、ポケット 位置は出来上り圖にもよるがウエストラインより四糎乃至五糎下に圖のやうに取ります。大きさは普通胸6に致します。

b、衿

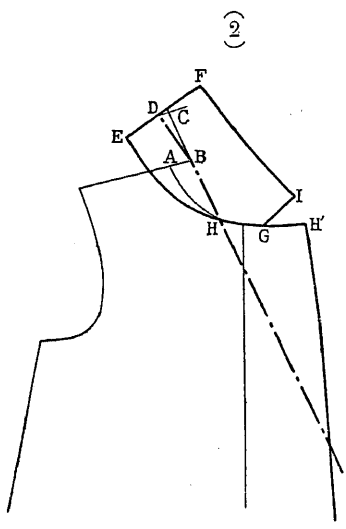
立衿 圖(1)

- 1、衿幅 四糎乃至五糎
- 2、衿附のくり幅³
- 3、前の端 圖のやうに前衿附線に直角に定める。前の衿幅は後の衿幅と同じでも少し狭くしてもよろし



折衿 圖(2)

- 1、ABは二・五糎 折返りの線を定める。
- 2、BCは後衿附丈、CBに直角線を引く。
- 3、CDは一糎、DBに直角線を引く。
- 4、DEは、四糎、衿の立つ分。
- 5、DFは五糎、衿の折返る分。
- 6、GはH'Hの中央。



7. G IはGH'に等しく取る。

E H Gが身頃につく方、D B Hが衿山になる。

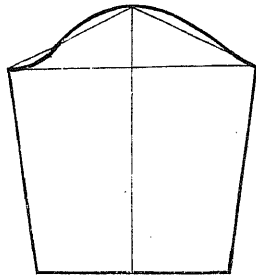
c、袖

袖は二枚裁にもするが幼児用としては一枚裁でよろしい。

1、丈 ドレスの袖丈よりも二種か三種長くします。

2、山の高さ
袖ぐり
袖

3、袖口 $\frac{\text{胸囲}}{6} \times 1\text{cm} \sim 2\text{cm} \times 2$



4、カフスの幅は稍々

広い目に六種乃至七種にもします。

d ケープ 圖(1)

1、肩の重り 三種

2、丈 凡そ背丈位

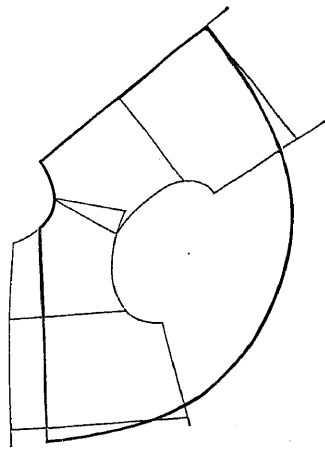
3、衿 適當に定め

る。

4、前の開きは中心より凡そ四種

(4) 布の裁方

(1)



三三

表身頃は裾に四種、脇に二種、其他は一纏乃至一・五纏の縫代、裏身頃も同様であるが、裾は型紙通り、前身頃は見返しのみだけ狭く裁つ。表袖は袖口に三種其他は一纏乃至一・五纏裏袖は周圍に一纏乃至一・五纏 衿は周圍に一纏の縫代を入れて裁つ。

注意

毛竝の一方に向いて居るものは何處も同じ方向に布を取るこゝが大切である。普通シル・ベルベットの類は毛竝は下から上へ其他の毛織物は上から下へ向ける。

前身返し布は布の都合で途中で接いでも或は横布に取

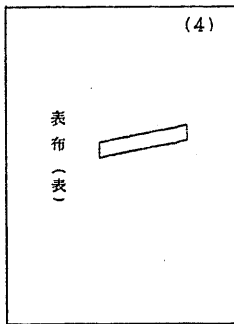
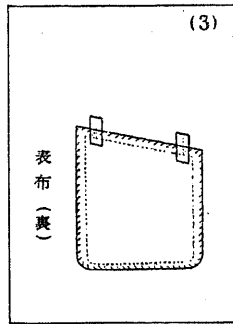
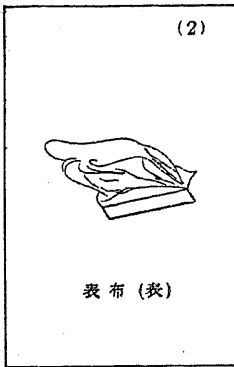
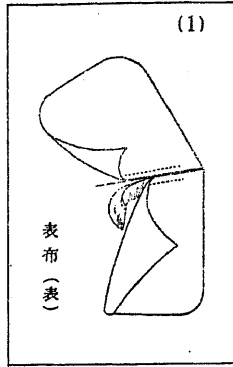
つてもかまひません。

芯は見返し・衿・袖口に入れるのですが、表地によつて考へねばなりません。子供物殊に柔かい地質の時には

天竺木綿・真岡木綿又はキャラコ位でもよろしい。

(5) 仕立方

1、前の始末



2、ポケット附

前身頃の裏側に芯布を假にこぢつけ、次に其前身頃に見返し布を合せ、衿のつく際から裾迄ミシンをかけます。縫代を整へて表に返し、斜の躰をしておきます。布地の伸び易いものは、細いテープ又はキャラコを縫目におき一緒に縫つておきます。

圖(2)の型は箱ポケットで口布は凡そ二種幅にします。

3、表の脇縫

縫目は割つておきます。地厚のものは縫目に刷毛で水をつけアイロンをかけるこよくきゝます。

4、表裾の始末

裾を折返して千鳥掛にします。

5、裏の脇縫

裏の幅がつまらないやうに縫ひ、折は後に返しても、割つてもよろしい。

6、表裏の脇さぢ

7、裏前身頃の端の始末

見返しの上に裏前身頃の端を折つてまつりつけます。
中からミシンをかけてもよろしい。

8、裏裾の始末

裏裾を表より二糎程短くして奥まつりにします。

9、肩合せ

衿ぐり・袖ぐりから凡そ四糎程はなれた所に斜の假袂をしてから肩を合せます。

表の肩を合せて縫目を割り裏の前肩を縫代にこぢつけ、後肩にのせてまつりつけます。

10、袖及び袖附

表袖口に幅五糎程の芯布をおいて假こぢをして置き、袖下を縫ひ縫目を割り、袖口を折返して端を千鳥掛にします。次に裏の袖下を縫ひ縫目を割り、裏袖を稍、ゆるめに表の縫目をこぢ合せ、袖口の方は表より二糎程ひかへて折りまつりつけます。

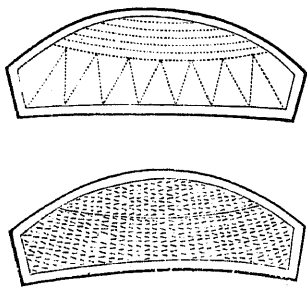
袖ぐりより七糎程はなれた所に、表裏一緒に斜の袂をして置き、次に表袖山の方を細かく縫ひ縮めて後、袖

をつけます。身頃の方は二枚一緒に假こぢをなし、山の方では袖をゆるく、下の方では袖がゆるまぬやうに注意してつけます。次に裏袖の縫代を折り、表袖と同じ釣合ミして縫目にまつりつけます。

11、衿及び衿つけ

図(1)の型は衿をつける前にケープを表裏合せて縫ひ、表に返し、身頃の衿ぐりに一緒に袂をしておきます。

次に衿の表に芯を入れて、裏ミ合せて三方を縫ひ、表衿を身頃につけ、衿附の縫代をミのへ、裏衿の端を折つてまつりつけます。図(2)の型 裏衿に芯地をの



せ次の圖のやうに衿山を境にミシンをかけるか又は八の字型にさし外廻りをアイロンで充分の

ばします。

此のさした衿ミ表衿ミを縫合せ(衿の兩端一・五厘程あけておく)縫代を細く裁ち落し表に返します。次に表衿を身頃の裏につけ、前の見返しのある部分は縫目を割り其部分に衿ぐりの縫代をこぢつけ、裏衿を身頃の表側にかがりつけます。

12、仕上げ

13、釦附及び穴かがり

出來上り圖により、釦の位置を定めて付け、穴かがりを行います。穴かがりの絹絲は蠟の中を一度通し鏝をあて、用ひるミ、擦がもごらなくて使ひ易いと思ひます。

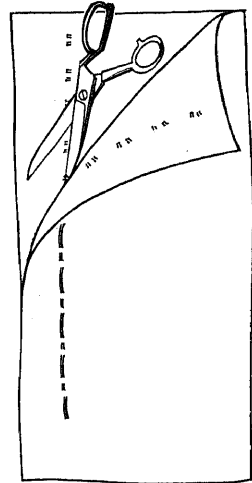
14、圖(一)の型の毛皮つけ

五厘か六厘の毛皮を、衿ミケープの周圍ミに、目立たぬやうにまつりつけます。毛皮は剃刀を用ひて裏から裁ちます。

参考

地厚物の取扱ひ

毛織物は裏から霧をふいてアイロンをかけるか、濕布



の上からアイロンをかけて後裁縫します。

標は普通三子線二本で切標を致します。

「高いねえ！ 天までミダクんだろ」

幼稚園のお山のむかふの大いてふの下へ行く道が出來た日の子供達の喜びやう。ならされたばかりの細い土がふつくりしてゐるそこへの道。そこをふんでゆくきもちよき。そしていてふの木の下は、程よい廣さのかげです。

お山の下から眺めた大きいいてふ、繁つたいてふは、近よつてみても、なんて太くて、高くて、きもちがいゝのでせう。あそこは子供達にミつて、本當に、私にミつても、大好きなたかみのZooです。(葉つば)

秋 雜 詠

よ し こ

叢に蟲多し

蟲追へるひたむきの姿に心うたれ持ちたる言葉云はで過ぎたり
在所^{ありま}求めつぶらなる瞳は一つなりころく、蟲は又もなき居り
わが言葉よくぞこ^こ解き^さ幼きに答してありためらひもせで

夕 顔

夕顔に心のこりて玻璃戸越し更けてののちを又も見つ庭
白く咲けき寂しくもあらず夕顔の花は大輪に咲きてあればにや

折 に

よしあしのたぎくしき日叱らるゝ事もありしか今ぞなつかし
年齢^{としから}故かさされる如き生活に少し疲れぬ叱られても見たき

忽七版

東京女子高等師範學校
教授・附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生新著

▲四六版三百餘頁頗る美本
▲口繪十六枚・挿繪多數入
▲保育法の實際實景紹介
▲定價二圓五十錢送十六錢

幼稚園 保育法眞諦

○倉橋先生保育眞諦

日本のフレイベル倉橋先生の代表的名著茲に出來。發行後僅に數ヶ月にして既に七版を突破し、我が國保育界の明星として一齊に大歡迎を受け愛讀又熱讀さる。東京女高師附屬幼稚園の園児等は先生を「おぢさん」と稱して相敬慕す。此の倉橋先生の保育法の眞諦即ツを悉く本書に披瀝さる。

○現代の保育法原論

本書は懇願數年初めて完成されたる新著にて、現代に於ける最も完備し且系統も保育法原論である。倉橋先生は稀に見る純眞の教育者も著書少く系統も力作は本書のみ。

○保育界耆宿の力作

著者は幼児教育並に家庭教育の第一人者として曩と畏くも此點に御關心深き 兩陛下の御前講演の榮に浴され又屢各官家よりの御招聘ある我國保育界の耆宿にて、本邦第一の東京女高師附屬幼稚園主事と文部省社會教育官とを兼ねられ人間味豊かな人格者として定評の士である。

本書の特色

- 第一篇 幼稚園保育法の眞諦
 - 一 教育に於る目的と對象
 - 二 幼児生活と幼稚園生活の形態
 - 三 生活へ教育を施す
 - 四 幼児生活の自己充實
 - 五 幼児生活の充實指導
 - 六 幼児生活の誘導
- 第二篇 保育案の實際
 - 一 無案保育の意義
 - 二 誘導の保育案
 - 三 誘導の保育案
 - 四 保育案の採りどころ
 - 五 保育案と保育項目
 - 六 保育案立案度及徹底度
 - 七 保育案と自由遊び
 - 八 保育案と保母
 - 九 保母の創造性
 - 十 保母の生活性
 - 十一 保母の生活性
 - 十二 保育過程實際
- 第三篇 幼稚園の朝
 - 一 自由遊びから仕事へ
 - 二 自由遊びから仕事へ
 - 三 三個分團組
 - 四 個々の時間割
 - 五 生活態度による分團組
 - 六 流れゆく一日
 - 七 流れの向け方
 - 八 生活の偶發性
 - 九 日々の實際生活の尊重
 - 十 おかへり
 - 十一 旅へ
 - 十二 一人形の家を中心として
 - 十三 大賣出し
 - 十四 わたし達の自動車
 - 十五 特急列車「うさぎ」號
 - 十六 試み
 - 十七 保育誘導案

東洋圖書株式會社發行

東京市神田區保一丁目一丁
東京替番一〇七三番

〔書良の備必須必〕

東京女高師教授 倉橋惣三先生 同校新庄よここ先生 共著
 附屬幼稚園主事 保母 菊判四八〇頁 定價三圓八十錢

本日幼稚園史

特色
 一、二十年苦心の結晶漸く完成す
 二、草稿千餘枚挿繪數百整理成る
 三、日本幼稚園史として比類なし
 大震災にて一時頓坐更に繼續再計畫の上蒐集考察研究完成す
 倉橋先生畢生の努力と新庄先生懸命の助力にて此の名著成る
 皇代 皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔

〔内容目次〕

第一編 沿革及施設史	第一章 幼稚園開設前期	第一節 明治文化の建設	第二節 幼稚園開設の機運	第三節 幼稚園開設	第一節 女子師範學校附屬幼稚園の創設	第二節 設立後の経過	第三節 開園及開業式—皇
第二章 女子師範學校附屬幼稚園(一)	第一節 創立當時の規則及學年休業日	第二節 建物庭園及職員	第三節 保育科目及保育用具	第四節 幼稚園參觀記及追憶	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 唱歌遊戯
第三章 女子師範學校附屬幼稚園(二)	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 唱歌遊戯	第四節 文獻	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏
第四章 女子師範附屬幼稚園	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 唱歌遊戯	第四節 文獻	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏
第五章 博物理解	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 唱歌遊戯	第四節 文獻	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏
第六章 唱遊遊戯	第一節 行啓	第二節 恩物の名稱その他	第三節 唱歌遊戯	第四節 文獻	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏
第七章 功令者	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏	第四節 豐田英雄女史	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏
第八章 小四信八氏	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏	第四節 豐田英雄女史	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏
第九章 小四信八氏	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏	第四節 豐田英雄女史	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏
第十章 其後の普及發達	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏	第四節 豐田英雄女史	第一節 功令者	第二節 中村正直氏	第三節 關野三氏

幼稚園の名著
 森川正雄著
幼稚園の理論及實際
 森川正雄著
幼稚園の經營
 森川正雄著
幼稚園教育法
 森川正雄著
 價目表：
 送・二・六版 價・二・〇六
 送・二・六版 價・二・〇六
 送・二・六版 價・二・〇六
 送・二・六版 價・二・〇六

東大 京阪 東洋圖書株式會社發行

東京市神田區神保町一丁目一替振東一〇三番
 大阪市南區堂安町一丁目二番八地替振大三五五番六

童話

王女の猫の話

— カレル・チャペック —

東京女子高等師範學校教授 中野好夫 譯

やうに、ほんまうにスーザンが足から落ちたかぎうか、御

皆さん、この前には猫はそれはくゝいろんな藝當が出来
るこいふお話をしましたネ、今度はも一つ別のお話を致し
ませう。ある時、王女様に、「もしもし、王女様、猫こいふ
動物はいくら高い所から落つこきしても、ヒョイミ上手に
足から落ちて、怪我なんぞするものぢやございませぬ」、こ

こき、スーザンを捕へて、高い高いお城の屋根裏へ登つて
いらつしやいました。そして、無論ほんの試めに、やつて
御覽になつたのでせうが、可哀相にスーザンを小さな窓か
らボーイミ投り出しておしまひになりました。サア、大變
だ。王女様は大急ぎで窓から首を出して、誰れかのいつた

覽になりました。ところがそれは飛んだ大違ひで、スーザ
ンは丁度その時窓の下を通りかゝつてゐた一人の男の丁度
その頭の上にストーンミ落つこちたのでした。生憎スーザ
ンの爪がひびくその男の人の頭にひつかゝつたのかもしれ
ません、それこそすつかり面喰つてしまつたのでせう、
——窓の上では王女様が、王女様の猫だよ、ソッミお前の
頭の上に乗つておくんだ、いゝかい、ミ心の中で思つて
ゐらつしやるうちに、その男は矢庭にスーザンを驚掴みに
するミ、上衣の下に抱えこんで一目散に馳け出して、見え
なくなつてしまひました。

サア、驚いたのは王女様です、オイ、オイ大聲で泣きなが

ら屋根裏から王様の處へ馳けていらつしやいました。「アー、アー、下を通つてた男の人が、妾のスーザンを盗つて行つちまつた、アー、アー」。

これをお聞きになつた王様もすつかりお狼狽てになつて、『猫一匹はさうでもない。だがあの猫はぢや、俺にこの次の王様を連れて来てくれる約束ぢや。さにかくあれをなくする譯にはゆかない』。

王様は大急ぎで警視總監を御呼びだしになりました。『實はな、王様は仰言ひました。俺の黒猫を盗んで行つたものがある。なんでも上衣の下に匿して、向ふの方へ逃げさせたさいふ話だ』。

警視總監は三十分ばかりも眉毛をしかめてすつかり考へこんで居りましたが、やつこ「陛下、委細畏りました、手前はたさへ警視廳、私立探偵、全陸海軍、全消防隊、全潛航艇、全航空船は申すに及ばず、占者、買卜者、その他國中のありさあらゆる人間、たさへ猫、杓子の手をかりましたも、きつこ陛下の猫を探しあて、御覽に入れます」。こ申上げました。

で總監は早速國中で選り抜きの探偵を呼び集めました。

皆さんは、探偵つてごんな人だか知つてゐますね。こつそり泥棒を捜してくれる人ですネ。私達も同んなじ服を着て、そして誰れにも氣づかれないやうに、いつも變装してゐますネ。ごんなこさだつて見逃さない、なんでも探しだす、ごんな泥棒だつて捕へてしまふ、そしてごんなこさがあつても恐がつたりなんぞしませんネ。さうです、皆さん、探偵になるのは大變でせう。

サア、元のお話にかへつて、そこで警視總監は早速選り抜きの探偵を呼び集めました。鼻高君、足長君、眼鏡君、(この三人は兄弟でした。それからイタリア人で悪狡い狐狸君、いつも陽氣なオランダ人のデブ君、ロシア人のノッポ君、始終小言ばかり言つてるスコットランド人のブツ君、そこで名探偵諸君は總監から二言三言事件の模様を聞き、すつかり呑みこんでしまひました。おまけに泥棒を捕へたものにはごつさり御褒美が出るさいふのでした。

『占めた!!』狐狸君は大聲を擧げて飛び上りました。

「ヨーシ！」デブ君は愉快そうに申しました。

「ブーム」、ノッポ君は口の中でうなづきました。

『成程』、ブツブツ君がみんなの後からボツンミ附加へました。鼻高君ミ足長君ミ眼鏡君はだまつてたゞ顔を見合はせました。それから十五分ばかりもするに、鼻高君は上衣の下に黒い猫を抱へた男が市の大通りを歩いてゐるのを見つけました。三十分ほぎたつに、足長君は、上衣の下に黒い猫を抱いた男が公園に現はれたさいふ報知をまつて参りました。

そして一時間後には、眼鏡君がアタフタミ馳けこんで来て、上衣の下に黒い猫を抱いた男が今丁度ある居酒屋でビールを飲んでゐるにござりました。そこで狐狸君、デブ君、ノッポ君、それにブツブツ先生を加へて四人の探偵は、待たせてあつた自動車に勢よく飛び乗つて、居酒屋へミ急ぎました。

『諸君!!』現場へ著くに、狐狸君が申しました。『なにしろこういふ狡猾な犯人は一筋縄ではいけない、巧くコッソリ捕へてやらなければならぬで、そこで、諸君、まあ僕に

任したまへ』。が實は狐狸君の腹の中は自分一人で褒美にありつかうさいふのでした。

そこで狐狸君は早速綱賣り商人に化けて、居酒屋の中へ入つて参りました。成程、黒い服を着て、黒い髪、黒い髻をはやした、そして顔の蒼い、そして美しい悲しさうな眼をした見なれぬ男が坐つて居ります。『此奴だ、此奴だ』。狐狸君は即座にそう決めてしまひました。

『エ、御客様』、狐狸君はモグモグ呟くやうに口を切りました。『私は綱賣りで御座います。この通り上等の綱で御座います、斷らうたつて斷れやしない。燃りがもぎる？金輪際あるもんどや御座いません、へい。筋金入りでサネ』。狐狸君はそう言ひながら、綱を出してその男の前へ擴げてみせる。それからそれをほぐして兩手に持ちかへました。無論その間も油断さへあれば、相手の男の手首にキリリミ一繩かけて、そのまゝ縛り上げてしまはふさいふのですから、一瞬だつて相手から眼を放すことはありません。

『綱なんぞに要はないよ』。相手の男はそういつたまゝ、指でしきりに卓子の上に何か書いてゐる様子です。

『でもお客様、まあ一寸御覽なすつて』、狐狸君はなほうるさく申しました。そして持つてゐる綱の束をドン／＼解きにかゝりました。『ネエ、お客様、一寸御覽になるだけで結構で御座いますよ。この長いこま、この細くて、しかも丈夫なまごころを、エ、この真白で、なにしろまても上等のお品で御座いますからね——アッ、オヤ、——畜生!!』突然狐狸君は驚いたやうに大聲を挙げました。『こりや一體どうしたさいふんだ』、狐狸君はさつきから綱束を解して、自分の両手に巻きつけてゐましたが、不思議、不思議、狐狸君の両手は見る見るうちに綱に纏れて行つて、呆氣にさられて見てゐるうちに、今度は綱が自然に動き出しました。見るまにクルクルクルミ狐狸君の身體にからみつく、からみついたミ思ふミ、これも自然に結び目が出來て、アツミ云ふ間に反對に狐狸君の方がすつかり縛り上げられてしまひました。狐狸君は身體中から汗を流して唸つて居ります。でもまだ自分の力で遁れるこまが出来るつもりで、獨樂のやうにグルグル廻るやら、身體をあちらこちらクネクネやつてみるやら、地面を轉がり廻るやら、地團駄ふむやら、

イヤハヤ大變な騒ぎです。それでもなほ狐狸君は饒舌りつづけて居ります。『ウーン——だがおお客様、!アッ、苦しい——ウーン——お客様、さうです、この長さは、丈夫さは、この弾力のあるまごころは——ウーン——上等の品でずぜ、お客様——アッ、苦しい、神様!!』そして綱は狐狸君がもがけばもがくほぎ、強く身體に絡みついて、グイグイ緊つてゆくのです。おしまひには手も足もがんじがらめに縛られて、流石の狐狸君も到頭その場に打倒れてしまひました。そして不思議な男は眉毛一つ動かさないうで坐つて居ります。あの悲しそうな眼を一度だつて舉げやうさもしないで、やはり何か卓子の上に書きつゞけて居ります。

一方外で待つてゐる探偵達は、狐狸君が一向歸つて來ないのが漸く心配になつて參りました。『ウム、ヨシ!!』『ノッボ君は決心したように、一言そう言ひ残すミ、威勢よく飛びこんで參りました。四邊を見廻すミ、——狐狸君はグル／＼巻きになつて床の上に轉つてゐるではありませんか、そして見馴れぬ男が卓子に倚つかゝつて一心に卓子掛に何か書いて居ります。

『ウーム!』ノッポ君は唸りました。

『君、さうしたのだ』。見馴れぬ男は訊ねました。

『俺は貴様を捕縛に來たのだ』。ノッポ君は嚙んで吐き出すやうに申しました。

しかし見馴れぬ男はほんの僅かチラミあの不思議なほご美しい眼を舉げただけでありました。

ノッポ君はアハヤ打つてかゝらんばかりに兩拳を振り上げたところでありましたが、その不思議な眼ミ眞向からぶつゝかるミ、突然何か不思議な氣味悪さを感じました。でノッポ君はそのまゝモジモジ兩手をポケットに収めてしまいました。『アノウ：：君、だまつて靜かに隨いて來た方が好いやうだぜ。俺がこの手で一度搦まへたら、お前の身體の骨一本だつて助かりつこないんだからな』。

『ホウ、そうかねえ』。見馴れぬ男は申しました。

『そうださも』。ノッポ君は續けました、俺が一つ貴様の肩口でもボンミやつてみる、お氣の毒だが、貴様は一生跋だ。強カノッポミ云ふ紳名を知らないのか』。

『成程、それは面白い』。見馴れぬ男は申しました。『だ

が、力ばかりが能ぢやないからな。君は今何か喋舌つてるが、物は試めしだ、一つその君の兩手をポケットから出してみてもらひたいネ』。

ノッポ君はむしろ呆氣にさられました、そしてポケットから自分の手を出さうと致しましたが、ところがさうでせう。抜けません、さうしてもポケットから抜けません。右手をやつてみました——まるで根から生えたやうに緊くつ著いて居ります。今度は左手——これはまたまるで手の先に何百貫の重錘でもブラ下つたやうです。ナニ糞!! 此れしきのこみがなんだ、ノッポ君は心の中で申しました。しかし肝腎の手の方は押せども突けども、それこそさうさも動かうとは致しません。

『オイ、冗——冗談はよせよ』。ノッポ君は情無い聲を出しました。

『大したこごでもないよ』。見馴れぬ男は一言低い聲で答へたまゝ、相變らず何か指先で書いて居ります。

ノッポ君がポケットから手を抜くのにタラ／＼汗を流しながらもがいてゐる間、外では探偵君等が今度はノッポ君

まで歸つて來ないのにすつかりヤキモキして居ります。『俺が行く』。デブ君が決然と申しました。そしてまん丸い身體を轉がるやうに入つて參りました。四邊を見るに、——これはまた狐狸君は床の上にグル／＼巻きになつて平太張つてゐる、ノッポ君はポケットに兩手を突込んだまゝ熊のやうにそこら中を跳ね廻つてゐる、卓子の向ふには見馴れぬ男が頭を垂れて、しきりに指先で何か書いてゐる。

『僕を捕へようといふんだネ』。デブ君が口を開くより早く、今度は見馴れぬ男の方から言葉をかけました。

『いかにも、御邪魔させていたゞきます』。デブ君はポケットから手錠を取り出しながら、ひびく鄭重に申しました。『恐れ入りますが、一寸その御手を拜借致し度いので御座います。ナニこの手錠を一寸かけさせて載きたいんで御座いますよ、へい。まだ出來たばかりの新物で御座います。な、この通り最上等の鋼鐵はがねで、冷いやりぞ致します。それにこの通り見事な上等の鐵鎖てつさりもついて居ります。イヤモウ、何から何まで一流の御品で、へ、へ、へ、。そう言ひながらデブ君は手錠をガチャ／＼鳴らしてみせたり、ま

るで店の品物でも見せるように、兩手で玩具にしたりしてゐました。『何卒、御自分で御選り下さいますように』。デブ君はニコニコしながら申します。『手前共は一切御無理にこそ申しませんので、尤もたゞ先様でおいやだご仰言ひますようならば、そこは少々御無理を願ひますようなごにも相成りますが、へい、腕飾りごしましても誠に結構な品で、それにこの錠前などは特許品で御座います。な、それはピッタリ合ひます、窮屈ださか、摩れるさか、そんな虞れは一切御座いませんで、へい。ごころがいつのまにか、デブ君の方が眞赤になつて、やがて汗をタラタラ流しながら、まるで氣でも狂つたやうに手錠を兩手に急がしく持ち更へはじめました。『紳士方向きの、極く上等の手錠で——アツ、ツ、ツ、ウーム——大砲の鋼鐵から製つたもので御座います。——ウーム、熱イ!!ウーム——その何、何千度いふ——ウーム、糞!!——火、火、火の中で——熱イ!!!——』デブ君は突然悲鳴を擧げるのと一緒に肝腎の手錠を床の上に投り出してしまひました。氣の毒に、そうでもするより仕方がありませんでした。何故つて、皆さん、

何故デブ君は両手で頻りに手錠を持ち更へて居たのでせう、手錠は自然に真赤に焼けて來つて、床の上に落ちるこゝろ、みるみる大きな焼穴をこさへて、危ふく大事になるこゝろでした。

家の中ではこんな大騒ぎが起つてゐる間に、外ではブツ君、今度は誰一人歸つて來ないのでいよゝゝ心配になつて參りました。『ヨシ來た』ブツブツ君は思切つて、ピストルを取出して家の中へ入つて參りました。四邊を見廻すこゝろ——これはまた、濛々こゝもつた煙の中から、デブ君が痛さうに両手をブーブー吹きながら跳ね廻つてゐる、ノッポ君はノッポ君で、ポケットに手を突込んだまゝしきりにもがいてゐる、狐狸君は床の上にグル〜巻きで唸つてゐる、そして卓子の向ふには見馴れぬ男が頭を垂れて何か卓子布の上の上に書いてゐます。

『オイ！』ブツブツ君はピストルを身構へたまゝ、ヅカミ進み寄つて申しました。

見馴れぬ男はクルッこちらを向き直るこゝろ、靜かに例の涼しい考へ深さうな眼を舉げました。その落著き拂つた眼

に打突るこゝろ、ブツブツ君は何か自分の手が自然に慄えだすやうな氣がしました。でもやつこ氣をさり直して、出来るだけ相手の近くへ寄るこゝろ、いきなりその男の眼と眼の間、前額ひたいの眞中をめがけて、いきなりバンバンバン六連發を立續けに發射しました。

『それでお終ひかネ？』見知らぬ男は訊ねました。

『いゝや、まだぞ』。ブツブツ君はそう答へるこゝろ、素早くもう一挺のピストルを取出して、前額めがけてもう六發打放しました。

『お終ひかネ』。見知らぬ男はまたしても申しました。

『ウン』、ブツブツ君はそう答へたまゝ、思はず遁げ出して、兩腕を緊く組んだまゝ隅つこの腰掛の上にベタリこ坐つてしまひました。

『そうか。ぢや、勘定をしよう』。こゝろ、その男はコップの中に十錢白銅を一つ、チリンと落しました。奥からは誰一人出て參りません。皆んなピストルの音に魂消てしまつて屋根部屋の中に隠れてしまつてゐたのです。見知らぬ男は卓子の上に十錢白銅を一つ置いたまゝ、探偵達に輕

く會釋するに、そのまゝ靜かに出て行つてしまひました。

丁度その時です。鼻高君が第一番目の窓から、足長君が二番目の窓から、そして眼鏡君が三番目の窓から、ヒョイ、ヒョイ、ヒョイミ顔を出しました。そして鼻高君がまづ室の中に跳りこんで参りました。『諸君、諸君』鼻高君は申しました。が『犯人は何處だ、犯人は』。ミ言ふが早いか、そのまゝお腹の底から吹き出してしまひました。足長君が二番目の窓から跳びこんで参りましたが、これも笑ひころげながら、『ナンダ、狐狸君が床の上を轉がり歩いてるぢやないか』。ミ申しました。

眼鏡君も三番目の窓から跳びこんで参りましたが、デブ君を見るに、『ホ、ウ、君ひびく難儀のやうだネ』。

ミその後から鼻高君が、『ブツブツ君はまるで借りて來た猫だぜ、今日は』。

そして最後に足長君が申しました。『それにノッポ君もすつかりしよげちまつてるネ』。

それでも狐狸君はやつミ床の上に起き上るに、瘦我慢をはつて申しました。『諸君、諸君、こいつは容易ならぬ事件

だ。彼奴は指一つ動かさなで僕をふん縛つたんだからな』。

『それから僕の両手をポケットの中に膠づけにしちまつたんだからな』。ノッポ君は唸るやうに申しました。

『それから僕の持つてる手錠を火のやうにしちまつたんだからな』、デブ君がつくづくこぼしました。

『そんなこゝは何でもない』。ミブツブツ君が附加へました。『僕は彼奴の頭の中へ彈丸を十二發打込んでやつたんだが、ケロリミしてやがるんだからな』。

鼻高君ミ足長君ミ眼鏡君はお互に顔を見合せました。

『こいつはさうやら』鼻高君が真先に申しました。

『あの泥棒奴は』足長君が続きました。

『ひよつミするに、魔法使だぜ』。ミ眼鏡君が結論をつけました。

『だが諸君、安心したまへ』。またしても鼻高が申しました。『彼奴はうまく僕等の毘に陥つた。僕等はネ、兵隊を一千人ばかり連れて來たんだ』。

『——この家をすつかり押取りかこんで——』足長君が申

します。

『——蟻の這出る隙だつてありやしないや』。眼鏡君が揚揚と申しました。

丁度その時でした、家の外でまるで百雷の落ちるやうな一斉射撃の鐵砲の音が致しました。

『やつた!!』探偵達は異口同音に叫びました。

ミその途端に人口の扉が勢よく開いて、隊長が氣色ばんで馳けこんで参りました。『報告致します。吾々は當家屋を包圍致しまして、蟻一匹這ひ出でる隙のないように嚴命致して置いたのでありますが、丁度唯今、やさしい眼をした一羽の白鳩がこの家の中からバタ／＼と飛び出して、拙者の頭の周りをグル／＼と飛ぶのであります』。

『エエッ!!』探偵達は一齊に叫び聲を擧げましたが、ブツ君だけはたゞ一言「成程」、ミ深くうなづきました。

『で拙者は劍を抜いて唯一刀に眞一つに鳩を斬つて捨てました』。隊長は報告をつゞきはじめました。『部下の兵士等も名々この鳩をねらひ打つたのであります。見る見る鳩は何千といふ小さな紙片のやうになつてケシ飛んだので

ありますが、今度は、その一片一片が忽ち眞白い蝶になりまして、そのまゝ飛び去つてしまひました。吾々は如何致したものでありませう』。

鼻高君はキラ／＼眼を光らせました。『よろしい、豫備軍を併せて、全軍を召集する、そして直ちに世界中に派遣してその蝶共を捕へさせるのだ』。

で結局その通りにするこゝになつたのでありますが、その御蔭でそれはそれは素晴らしい蝶々の標本が集まりました。それは今でも博物館に陳列されてありますから、皆さんはロンドンへ行つたならば是非一度見て來るがいゝと思ひます。

で丁度その時足長君は他の探偵等に申しました。「諸君、サア君達はどう用事はない。僕等は君等とは別に方法を考へるんだから』。

そこで仕方なく狐狸君、デブ君、ブツブツ君、ノッポ君等はシホシホミ空手で歸つてゆきました。

さて鼻高君、足長君、眼鏡君の三人は一體さうしたらあの魔法使ひに勝てるだらうか。額を集めて長い長い相談に

かゝりました。あれやこれやミ計略を議論してゐる間に、三人は二百斤のタバコを喫ひ、その界限の飲食店の食物ミいふ食物をすつかり食べてしまひました。

それでも三人の相談はまだ何一つ纏まりませんでした。到頭眼鏡君が申しました。『諸君、それぢや駄目だ。少し新鮮な空気を吸はなくてはあゝ』。

そこで三人はやつミ家を出るこゝになりましたが、ふミ一足家を出るミ、これはまたごうでせう、そこには目指す敵の魔法使ひがケロリミ立つてゐるではありませんか。しかも魔法使ひは腰を下したまゝ、お馬鹿さん、私をさうするつもりだミ言はないばかりにニコニコ眺めてゐるではありませんか。

『居たぞッ!!!』鼻高君は思はず大聲を擧げました。そして躍りかゝつてムヅミ肩口をつかんだのでありますが、その時早く、魔法使ひの身體はみるゝ小さな銀色の蛇に變りました。そして鼻高君がハツミ驚く拍子に思はず地面へ落つこゝしました。それミ見るミ足長君は素早く走りよつて、上衣を脱いで蛇の上から投げかけましたが、今度はみるみ

る一匹の金色の蠅になつてボタンの穴からツミ飛んで遁げました。ミ眼鏡君がすかさず跳りかゝつて、帽子でバツミ伏せこみましたが、またしても魔法使ひの蠅は小さな一條の銀色の流になつて帽子ミ一緒にヨロヨロミ流れ出しました。あはてた三人が大急ぎでコップをさりに家の中に馳けこんでゐる間に、銀色の流れはスル／＼ミみるまに傍の大川の中に流れこんでしまひました。だから皆さんが今でも大きな川の縁に立つて御覽なさい、水面が折々それは／＼美しい銀色に光つてゐるこゝが有ませう。あれは川が大變機嫌のよい時で、あの魔法使ひのこゝを思ひ出してゐるのです。そして川の水はあなた方がうつゝりするやうなかなかな音をたてゝ、そしてキラキラ日に輝きながら流れて居ります。

さて足長君ミ鼻高君ミ眼鏡君はしばらく川岸に立つて、ハテごうしたものがミぼんやり水の面を眺めて居りました。するミ水の中から一匹の銀色のお魚がキラキラ光る黒い眼をしてヒョククリ顔をもたげました——それは、いふまでもない、あの魔法使ひの眼でありました。早速三人の

探偵は釣竿を買つて来て、釣をはじめました。今でも皆さんは、大きな川に三人が船を浮べて、釣竿を垂れて、一日一言も言はないで啞のやうに釣をしてゐるのを御覽になるでせう。あの人達はこの黒い眼をした銀色のお魚を釣るまでさうしてもやめることが出来ないのです。

其のほか幾人もの探偵がこの魔法使ひを捕へようこやつてみましたが、みんな無駄でした。探偵達が自動車で捕へに出懸けるミ、森の軟い若芽の間から突然牝鹿が一匹ヒョッコリミ首を出して、物珍らしそうなやさしい黒い眼をしてみんなをじつみ見詰めて居りました。探偵等が飛行機で追掛けるミ今度は後から大きな鷲が随いて来て、鋭い誇らしげな眼付でいつまでもいつまでもみんなの方を見詰めて居りました。舟で駛つてゐるミ、一頭いんげんの海豚が波の間から頭をもたげて、利口さうな澄んだ眼をじつみこちらに向けて居ります。書齋の中で探偵の人達が思案に耽つてゐる時でさへ、卓子の上の花がいつの間にかニコニコ不思議そうに人々の顔をのぞきこんで居りました。警察犬さへ折々突然眼を擧げて、いつもミはまるで違つた人間のやうな美し

い瞳をぢつみみんなの方に向けて居りました。到るころから魔法使ひは探偵達をぢつみ見まもつてゐるやうでした、そして今じつみ見てゐるかと思ふミ、すぐ消えて居ります。あゝ皆さん一體さうしたら捕まるのでせう。

(つゞく)

爪人形

子供を背中から抱くやうにして、爪に、一拵指にでも、人さし指にでも、一筆で顔をかいて御覽なさいませ。ほんのりとあかい櫻貝のやうな爪に、ちよん、ちよん、ちよんと目鼻をつけますと、可愛いものです。

これは、或る雨のふつた日に、お向ひの主事室に遊びに行つた子供が、倉橋おぢちゃんにかいて頂いて、大事さうに指をかゝえて歸つて来た事がありました。それから覺えた藝當で、その指にふらんすちりめんの小切れで、一寸頼かむりをさせた時は大さばきでした。

とても子供が喜びますよ。

(よしこ)

講習會に於ける質疑應答

—速記—

應答者 倉橋惣三

質疑應答云ふ事を昨年から始めて見まして本年もやつて見たのでありますが、本來は此處で御質問が生まれて、それに對して私云ふよりも、皆さんの間で色々御意見が出て、喧嘩でも起つたら私が仲裁する。斯う云つた様な事で行き度いのです。で大勢さんでありますから、此處でお話の糸口を切ります爲に、失禮でありましたが、質問用紙云つた様なものをお分ちしておいた。所が餘^りましたん集つて居りませぬ。意見なら澤山あるが質問なんかない、云ふ事だらうと思ひます。

この質疑を基にして此處でお話を發展させて行きますから何うかそれに關しての御意見を仰有つて頂き度いと思ひます。別に名簿の様な或は番號云つた様なものが本年は用意してありませぬので誰方云つて此方から名指して御意見を伺ふ事が出来ませぬから、進んで何か仰有つて頂き度いと思ひます。

一番始めに大變に偉い問題が出て居ります。これは大塚喜一先生から出て居ります。

「保姆の修養並びに研究が醇化向上し行く途中の記録として保育日誌を如何に活用すべきか」斯う云ふ問題でありまして、大塚先生が保姆養成所の先生でありますから、保姆の修養並びに研究が醇化向上して行く爲に斯う云ふ問題をお出しになつたのだらうと思ひます。これに色々のお話がありますが、大塚さん

一寸御説明下さいませぬか。

(大塚) この問題に就て質問の趣旨を解り易く表現するのが難しいので……質問用紙に私の何う云ふ氣持でお訊ねして居るのか、ミ云ふ事の説明を、書かして頂きました。それを基にしてお話下さつたら大變結構に思ひます。

(應答者) それを仰有つて下さいませぬか。

(大塚) この保育ミ云ふものは一面から研究致しますミ、日誌のつけ方、ミ云ふ事になつて、欄を何う云ふ風に分けるか、或は豫定ミ實際を何うするか、時間割を、項目を何うするか、日誌のつけ方の問題になるだらうと思ひます。

併し今回御訊ね致します事は……要點は、其處ではないので、保姆の生活が日誌に表現されて行く。そのもこの日誌に書く迄の生活ミ云ふ點を、もミにしてお訊ねして居るのです。その生活を如何にすべきか、ミ云ふ事が先決問題ミ云ふ事になりますけれども……その生活を如何にすべきか、ミ云ふ事は普斷倉橋先生から講習の度毎に懇々にお話を頂いて居るので……それを出發點として、さてさう云ふ風に實行して行く標準、ミ云ひますか、一歩一歩進んで行く、完成の途中になる様なものとして、日誌をつけて行くべき日誌の書方、ミ云ふよりは、日誌をつける態度、氣持を何う云ふ風にしたら、吾々の生活が本當に向上して行くか、ミ云ふ事をお訊ねしたい。日誌のつけ方、ミ云ふ事になりますミ、色々ありまして、その幼稚園なり、それらの幼稚園によつて、場合が非常に違ふだらうと思ひます。それを何う云ふ形がいゝミ云ふ事になるミ、大勢の皆さんにお話するには向かないと思ひますが、さう云ふ様な事でないに、日記をつける、ミ云ふ態度ですね。これはずつミ前から問題にして居つて、郷里の幼稚園に建議案を出した覺えがあります。僕としては前からの問題であるのですが、その後にあの、倉橋先生が「幼児の教育」の巻頭言に「子供の歸つた後」で一日の反省の必要な事をお書きになつたのを御記憶であらうと思ひます。あれを讀まして頂きましてから日誌の善用を、必要を、痛感致して

居つたのであります。それでお訊ねしたい、ミ云ふ氣持が強くて居ります。さう云ふ意味で無論平生からつけておいでになりませうけれどもその日誌をつける迄に至るその努力より、つける事につけない事によつて、自分の生活の醇化向上、ミ云ふ事に非常に強い影響を及ぼして居る、その日誌のつけ様も宜しきを得れば、自分の生活の醇化向上に非常にたすけになると思ひますが、その宜しきを得るか、ミ云ふ事、何うすれば宜しきを得るか、ミ云ふ事を説明して頂き度い。併しこれは保育に限らず、日常生活に於ても僕等もよくあるものであります。忙しい時は忙しい時程、先へく進んで行きませう。その忙しい時に日誌を書いてこそ、例へば文は僅かでも、潑瀾して居る。いき／＼した記録になつて、後で見ても、その時を回想して非常に愉快だ、ミ云ふ事になりませうが、その時程、問題になる。こんな時程、必要だ、閑な時に書いた記録は、書くのは長く書いてあつても、面白くない。忙しい時の心境は、今迄は變つた氣持が湧いて來ますから、それで氣に入る様に表現するに時間を要します、忙しい生活の中から、明日の事、先へ進んで行くのです。若しさう云ふ同じ御苦心をもつていらつしやる方がお一人でもお二人でもありましたら、一つの氣をつける道になるだらうと思ひます。共に語り合ふ事もよいと……。

(應答者) 保育日誌を全然御つけにならない方がありませんか、手を上げて下さいまし。勇敢につけない人……

保育日誌ミ云ふものは私の考へでは尠くも二色ありませうね。二色あつても四色あつても五色あつてもいゝ譯ですが。

大分けて二色、一つは公開的保育日誌です、公開的ミ云ひますか、公的ミ云つた方がいゝと思ひます。幼稚園に保育日誌ミ云ふものがありますのはこれは幼稚園ミ云ふ公的な活動で……幼稚園ミ云ふものは申す迄もなく官立であらうとも私立であらうとも公立的な一つの施設でありまして、人の子供を集めて法規に従つてやつて居りますミ、其處にその公けの教育機關として毎日を何う云ふ風にやつて來たか、ミ云ふ事はこれは記録しておかなければならぬものであるのです。

自分の家の家庭教育を母親が何うしたか、云ふ事はこれは別に日記をつけておかねばならぬ事ではありませんが、幼稚園云ふ場合はさうではないのであります。それをもう少し詳しく申して見ますれば、「あなたは幼稚園でこの一ヶ年ぼやぼやしてたじやないか」云々の假に人に云はれた時に「ぼやぼやして居りませぬ。この通りちゃんこやつて居ります」云ふ事は何處かに記録されて居なければならぬのです。その意味で人に公けに見せる事の出来るもの、云ふ意味で、公開云ふ開くさいふ事を入れて、公開の云ひましたが、斯う云ふものが幼稚園になくはなりません。私立の幼稚園なんかでも餘りにも氣分的な、斯う云ふ事で終始して居りまして、さう云つた公的の事務的な要素が缺けて居る處がありますれば、これは是非つけておおきになるべきものであると思ひます。公立ならば何時視學が来て見しても、市長なり知事が来て見しても、はつきり見せる事の出来る保育日誌が出来て居なければならぬ事は申す迄もありません。或は校長なり園長なりが見せて下さい云ひましたら見せる事の出来る保育日誌が各組になければならぬ。これも當然であります。これは幼稚園云ふものに存すべき一つの記録でありまして、これが保育日誌の第一種であります、但しこの保育日誌はさう云ふ意味の謂はゞ公けの機關としての形式的な意義をもつて居るものでありますから、まあ凡ての形式的な仕事と同じ様な工合に斯う最小限度で許されるのである。保育日誌は何月何日より始め何月何日に終るこ、その中でした事を書くし、或は豫定がありますれば、豫定欄に豫定が書いてあつたら、實行欄に「豫定の通り」でも宜しい。これは云ふ迄もなく日誌でありますから、日々につけておくので毎日規則的に機械的に行つていゝ程、さう云ふものは簡単に要領がつけてあればいいのであります。

保育日誌のもう一つはこれは保母さんが御自分の爲におつけになるので、必ずしも公開する事を目的とさせぬのみならず、その日誌の性質云ふものが公的なものでありませぬ。つけてもつけなくても宜しいのです。今申しました第一種

の保育日誌はつけなければならぬものであるが、第二種のはつけてもつけなくてもいゝものであります。さう云ふ性質のものでありますから、保母さん御自身にまつてはさう役に立つ様につける事も難しいし、つけなくてもいゝものでありませう。第一種の方は、この第一種の方に、例へば視學なり、父兄なりに「見せて呉れ」云はれた時に見せられる様な……この第一種のに「本日も又やり損なへり。思へば憂鬱である」云ふ様な事ばかり書いて居つたら、それは何の事か解らなくなつて了ふのでありますから、まあそつちはなんですね。餘り所謂反省的な態度、反省的な意味合ひをもたないで書いておく。所が片方の方は御自分の爲ですから、御自分の都合のいゝ様におつけになつたらいゝと思ひます。保育日誌云ふ言葉は多分その第一種の方を云ふのだらうと思ひます——幼稚園のテクニクさしまして、術語さしまして。片一方の方は御自身の日々の保育日誌だと思つておつけになつてもいゝと思ひます。これははつきり區別しておきませうと思ひます。大塚さんの御質問はそのまゝ第二の方です。大塚さんの方では「第一種は視學なんかに見せるものか」云つていらつしやるかも知れませぬが、公的機關としては必要なのであります。

第二種は玉手箱に入れて毎日鍵をかけておおきになつても宜しい。これを何う書くか云ふ事に就てはさうも私、そのかう云ふ日記まつけ方云ふ風なものをちやんこ形を申上げる程の研究もして居りませぬ。第一自分の日誌ですから多分その人の個性が現はれまして、丹念にお書きになる方もありませうし、要點をお書きになる方もありませうし、毎日お書きになる方もありませうし、一日おきにお書きになる方もありませうし、毎年學年の始めに一週間だけ、後は書かない、云ふ個性の方もありませうし、何處の日記を開けて見ても「今日からは日記を書かうと思ふ」云ふ事ばかり書いてある書方もありませうし、それは色々で宜しいと思ひます。唯その内容に就ては今の所謂公的保育日誌の場合は少し詳しく書きましても、子供の事を書く、さの子供が斯うしたかあゝしたか、子供の事を書く。これはこれでいゝのです。幼稚

園の公開する責任は子供の方にあるのでありますから。所で御自身の爲にお書きになる方の事は自分の事を書く。保姆さんの方の事を書く、子供の方の事を詳しく書きますと、一種の兒童研究の様なものになります。イギリスに……私餘アソビりそんな本たんご知りませぬが、私が一つ……「フリーキンダーガルトンの日記」云ふものがありました、幼児の事が詳しく書いてある。此處の保姆の修養並びに研究の醇化向上し行く努力の記録、云ふ事になつて來ますと、先生の方を詳しくおつけになるのだと思ひます。

まあそのおつけになり方は何う云ふ風に書くか云ふ事は云へないと思ひますが、日記云ふものはさう云ふ意味でつけた時には、矢ッ張小遣帳と同じ事で月々ごか年に一度ごかそれをその決算しなくちやならぬ譯であります。小遣帳を金銭出納帳をつけます時に毎日つけて、漏れなく書いてあるけれども、何處にも決算がなかつたならば、これは何にもならない。決算してその意味が達して來るのであります。其處で斯う云ふ自己の日誌云ふものを役立てようと思へばその決算をしなければならぬ。失敗いくつ、成功いくつ、それでトン／＼云つた様な工合で決算する事も出来ませぬから、其處で何う云ふ風に決算するか、云ふご多分自分の失敗が澤山出て居りませうから、その失敗を分類する云ふご喧しくなりますが、その失敗の性質に就て大體の傾きを見るご自分の保育の傾きが出やしないかと思ひます。自分の保育の傾きは自分じや知らないでやつて居りますけれども、多分その人その人で片寄る所が起るものであります、それがその所謂決算出來て反省を促がして來るかと思ふのであります、大塚さんの御質問はそれ以上に細かい日誌のつけ方を求められたのでありませうか。

(大塚) その説明の第二に書きました様な心境を……

それから、雑誌に……お茶の水幼稚園の一週間を典型的にお示しになつたものがありました、あれに就て……。

(應答者) あれは實を申しますれば、人に見せる事を初めから目論見において書いたものです。ですからあの中にはお茶の水の幼稚園の先生の人に言へない恥かしい失敗は隠してあります。あの外に澤山失敗があります。あれはあの雑誌が出ましてから、あの一つ／＼を書いた人は自分のばかり見て、「思へば旨い保姆である」を考へて居られたものと思ひますが、その失敗の方の事は出て居りませぬ。あれは研究資料として人に出したもので、自分の爲のものではない。自分の爲になります。清算、清算がつきさへすれば、そんな書方でもいゝじやありませんか。人に恥しかつたら印してもつけて、○が成功、△が失敗、○か云ふ様なでもいゝのです。多分、大塚さんの問題の根本は保育を云ふものを、その人その人、仕放しにして行つたんでは、自己の體驗が自己の向上に利用されない、を云ふ所を仰有るんだらうと思ひますが……。

(大塚) 第二種の方の自分の日誌は、保育日誌を云ふよりも、もつと廣く考へて自分の日誌ですね。自分の日誌を云ふもの、第二種を區別がなくなつて了ふのがいゝんでせうか……さう云ふ様な傾向の様……。

保育日誌の第一種は誰が書いても同じ様な性質であります。第二種は色々ある——第二種なるものが色々種類があると思ひます。さんなのをつけてもいゝと思ひます。私は日記をつけたい人間ですが、時々これでもつけようと思ふのです。何時も正月になります。つけようと思ひます。つけようと思ひます時は日記帳を鈔くも五種か六種欲しいと思ふ。色々私の斯う云ふ事はこつちへ書いておいて、斯う云ふ事はそつちへ書いておいて、こんな事はこつちへ書いておきたい様な氣持がする。けれどもそれはその方の勝手ですな。人に見せる、を云ふ事になる。全くその目的がはつきりして居なければなりません。自分の爲なら、その方の都合でいゝじやありませんか。決算だけすりやあ。

坂内さんお在になつて居りますか。

(答へなし。次へ進む)。

それからその次、斯う云ふ問題が出て居ります。

「組の中に特殊幼児が色々居つてその指導法」云ふのですが、此處に三つの種類の特殊幼児があげてある。「第一種は癩癩の強い子供ミ、第二種は作業凡て嫌ひな子供ミ、第三種は注意の散漫な子供ミ」で「この一つ／＼に就ての問題に止まらずして右の様な子供を皆んな一緒に作業させ様とする時、どんな注意が必要ですか」斯う云ふお話。これも私充分お答へする事は却々難しいと思ひますが、皆んな一緒に作業させ様とする時云ふのが、随分難しいでせうな。皆んな一緒に作業させ様とする時、さうも斯う云ふ色々な子供が集つて居りますれば、兵隊の訓練の様な工合にきちん／＼と旨くやらう云ふ事は却て難しいので、従つてその組の全體の様子云ふ事は傍から、素人が見ましたら、矢張整はないものになる事は免れないと思ふ。けれどもその先生の方から見れば一人一人に、一緒にはやつて居りますにしても、一人／＼に適切な御指導、が行つて居れば、それでよからうと思ふので、所謂皆んな一緒にやらう云ふ事は全く色々な特殊な子が居ります時はこれは餘程、所謂揃ふ、一緒に、云ふ事について機械的に考へては難しいかと思ひます。それを先づさうしまして、その一つ／＼の子供の取扱ひになります。

第二種の作業の凡て嫌ひな子供、ミ斯うなりますミ、これは却々大變です。作業が皆んな嫌ひだ、但し作業云ふのは何う云ふ意味で言つていらつしやるのか解りませぬが、段々嫌ひでなくして行くのが保育じやないでせうか。作業の嫌ひな子供、それはまあ段々所謂普通の保育でそつちへつけて行くの他ないかと思ひます。唯少しこれに就て方法的な事を申して見ますミ、作業の嫌ひ云ふ事が、何う云ふ理由でその子が嫌ひなのか、云ふ理由を認めたいのであります。若し非常に低能で全くその嫌ひなんじやなくて、作業なんかする事に興味がない。精神が纏つて來ない子でしたら、これはまあ仕方がない……全然低能でしたら。

併しさうじゃなくて精神は普通であるが、先生から「しろ」ミ言はれた事に就ては、嫌ひだ云ふ子がありましたら、これは全部でなくてもある部分迄は先生から云はれる所が嫌ひだミ云ふ所にねらひごころをおかなければならぬ。作業が嫌ひじゃなくて「しろ」ミ云はれる事がいやだ。「しろく」ミ先生から強く云はれるのがいやでなくて、しなければならぬ様に、全體の生活の形が強ひられて居るのがいやであるのでありましたら、それには、これに對しては、その點に對する道があらうかミ思ひます。私の考では幼稚園の子供は所謂、その命令によつて仕事をして行くミか、或はすべきものであるミ云ふ事によつて仕事をして行く、ミ云ふ事は相當、純正な自發的生活ミしては、何う云ふものかミ疑問に常に思つて居るのであります。

但し皆さんが取扱つておいでになります多くの子供はさう云ふ風に心得て居ります。先生が「今日は手技ですよミ云へばもうそれで自分の生活を捨て、びつたりそれに合はして來ますから扱ひいゝのでありますけれども、これはその昨年も私は申しました。色々の事を一ぱいに主張して見ましたが、さうも幼稚園の子供ミしては少クうし早すぎる事じやないかミ思ふのであります。詰り今は何の時間だからしなければならぬ。先生が「しろ」ミ仰有るからそれをする、ミ云ふ様にきちんとミする子を所謂、順應性の多い子ミ言ひますか、從順な子ミ云ひますか、始末のいゝ子供ミ云ひますか、何もそれを本體ミすべきでないミ思ひます。保育の取扱ひミしまして、さう云ふ子供を本體にして、順應する事の出來ない子供を怪しからぬ子供ミ云ふ事は、出來ない、云ひたくないのであります。よく小學校になりますミ、自分の好きな本は讀みますが、學校の本は讀みませぬ、ミ云ふのでよく親が困つたりして居ります。その時には自分の好きなものを讀むミ云ふ、それは立派に讀書の興味ミ云ふものもあり、讀書の能力もあり、やつて居るのであります、その小學校に於ては小學校の計畫に基いた生活をさせて行かなくちやならぬし、なし得る年齢であるし、さう云ふ様な所謂、訓練をして行く、ミ云

ふ事が、小學校教育の相當重要な事でありますから、好きな本ばかり讀んで學校の本は讀まない云ふ事は困る事であり
ます。

所が幼稚園云ふものはさうもそれさ少し違つて居つて、何か子供がその作業に興味をもつて来る様な環境的ニ云ひま
すか、生活的ニ云ひますか、準備が出来て居ないで、たゞ先生がだしぬけに「斯う云ふ事をなさい」云はれるとすぐに興
味を向けなくちやならぬ、云ふ事は相當無理じやないかと思ふのであります。此の點、子供の方につつ味方したいと
思ふ。

「其處で昨年私の申しました『保育法の眞諦』が其處に出て來るのであります、何かその先生が決めたから、言ひつけた
から、云ふのでなくて、作業生活の方に這入つて行く用意を先生がしなければいけない。これは二つよりないのであり
ます。

子供達は皆んな他の子供がして居りますならば、社會的に誘導されて行きます。

それからもう一つは何かその先生の所謂私の誘導保育案云ふものに基ついて、そつちへ興味をもつて行く様に誘導さ
れて行く。そのまあ何か法則を先生が充分課するのでなければ、先生の要求される仕事に子供が這入つて行く事は難しい
事ではないかと思へるのであります。

この作業の凡て嫌ひな子供云ふのは、さう云ふ子供が居りましたら、先刻の保育日誌、^{サツキ}じやありませんが、さう云ふ
子供を例外にお思ひになりませぬで、實に先生が幼稚園云ふものゝ本質を發揮しておいでになる大變都合のいゝ子供が
來て呉れた云ふ様にお思ひになりました方がいゝかと思ひます。皆んなの多くの場合都合のいゝ子供は「何をしませ」
云へば「はい」云つて興味があるかないか、「すべきが故にする」云つた様な子供が多い。さう云ふ子供ばかりでありま

すゝ、保育の本當の事に就て先生がお考へになる機會もないので、私は色んな所の幼稚園にこんな子供を一人づゝ派遣したい様な氣持がして居ります。子供が作業を先生の言ふ通りやつて居ります。あれを好きでやつて居るご思ひになりましたら甘いものじやないかと思ひます。まあそんな風にこれを考へますれば、斯う云ふ子供があればこそ、自然に子供が作業に興味をもつて來る、誘導の方法をもつて居なければならぬと思ひます。

痲癩持の子供を何うするか。これは痲癩云ふのは色々ありませう。幼稚園で急に癒す、幼稚園だけで癒す云ふ事も難しいので、殊に先天的な理由なんかありましたら、其處から癒して行かなくてはなりません。殊に多くの場合神經がいらゝする。自己統制が出來ないのでありますから、昨夜、睡眠が充分旨く行つて居るか、云ふ事は大いに關係して來ると思ふ。ですから痲癩持の子供が居りましたら、まあ先にお醫者さんの問題——通りの痲癩持は珍らしくありませんでせうけれども、餘り特殊兒童アンヤにお書きになる程の痲癩持の烈しいのが居りましたら、これはお醫者さんの方の問題であると思ふ。その性格病理及び身體の病氣の方の問題を離れて、保姆の方の取扱ひから云ひますれば、私は餘り痲癩の強い子供云ふものは、その根本の身體が何うだまか、神經が何うだまか、云ふ事があつちやあ問題でありませぬが、烈しい、特別な事ではなく、出て居る痲癩云ふものはこれは先生が相當強い態度でその痲癩を少うすく斯う何すく云ひませうか、勝手に痲癩さしておいた方がいゝんじやないかと思ふ。この痲癩まか、我儘まか云ふ系統のものは相手に於て、自己の生活形態を求めて行くのでありますから、相手になり方が油斷をする益々痲癩の子供は愉快をもつのでありますから、云つて先生が痲癩を起した子に風に柳云つた風に受流してばかり居る様な妙な術を講ずるのは何うかと思ひますから、痲癩を起したら、崇高な態度でうつちやつて置く。まあ所謂、痲癩負けをさして了つた方がいゝかと思ふ。但しさう云ふ風に打つちやつたから癒るさば申させぬ。多分幼稚園よりも家庭に於てさう云ふ、その悪い癖がついて居るのであります。

から、幼稚園でさうしたから云つてすぐ癒る事もありませぬでせうが、幼稚園ではさう云ふ態度を特にして行くのが一つの方法ではないかと思ふのであります。

注意散漫の子供、云ふのはこれは色々ありまして、病理的な原因が、ミになりまして注意が散漫でありましたら、そつちを癒すより他仕方がありませぬ。併しもしも幼稚園へ來まして大勢の子供ミ一齊、割一の取扱ひを受けて居つて他の子供が注意するのに、他の子供の様に注意出来ない、散漫だ云つて叱られて居るのは、幼稚園の方がその様に、出て行かないからだミ思ふのであります。殊に一齊割一でない所の誘導的な取扱ひが試みられて尙、且つ注意散漫でありましたならばその子供が悪いのでありますけれども、先生の方でその子の注意を纏めるべき根本のたすけをしておやりにならないで、注意が散漫だ云つたら、幼稚園の方が手の盡し方が足りないのじやないかと思ふ。注意ミ云ふ事は、從來の心理學では主ミして外のもの、方に重きをおいて考へましたけれども、外のものによつて注意を引附けられるミ云ふよりも、中の方にそれを注意をさせて行くものが中になれば、注意出来ないミ思ふのであります。この注意ミ云ふ事に就て、その心理は、所謂興味ミ云ふ事ミ一緒になるのであります、その興味の如く、そのものに向つて興味を持つて行く、ミ云ふ事は古い心理學では何處迄も外において居る、新しい心理學では中に原因をおくので、中に原因をおく、一つの原因を生物的心理學、即ち本能だミ云つた様な事で説明して居りますが、私は本能ミ云つた様なものでなく、それに注意を向けなければならぬ様なものの中に一つ與へておやりにならないかと思ふ。出来ないのだミ思ふ。先生が唯、子供の、思ひたくなひものを與へて、外の子供は注意して居るが、お前は注意しないか、ミ云ふ様では到底出来ない事ミ思ふ。何かそれに注意を向けざるを得ない内部的な必然性が養はれて居なければならぬミ思ふ。内部的な必然性は私の考へでは矢張、廣い意味に於ける誘導保育が基にならなければ難しい事ミ思ふ。常に申します様に、我々は所謂注意しなければならぬミ云

ふ考へ、氣持がなくてはならぬ。さうすれば到底出来ない所迄出来るのでありますが、子供の場合は注意しなくてはならぬ云ふ義務的な、束縛的な事で指導して行く事は出来ませぬから、保育が子供の生活に對象が結びつく必然關係を造つてやらなければならぬ云、斯う思ふ。具體的に云ひますならば、例へば晝をまあ何か書く云か、箱なら箱を作る云しましても、箱を作る云云だけではさうも注意が纏まらない云つても、それを責められない云思ふ。子供の方がその箱を作る必要云云ひますか、必然性が充分促されて、箱を作る所の箱に注意を向けて行くのではないかと斯う考へるのであります、單純にこれを心理的な問題云見ないで、矢張生活的な問題云して大きく、注意云云ふ事を考へたらいゝんじやないか云思ふのであります。

同じ方の問題に「始めて幼稚園生活に這入る子供達に與へる良習慣」何う云ふ様な習慣を幼稚園に來た時に先づつけべきか、斯う云ふお話でありますが、この幼稚園へ這入つて來た時に先づつけたい習慣云いふものは、お訊ねの意味が色々にされますけれども、習慣をつける種類の方からお答へして見れば、私は、衛生の習慣、云云ふ様な事を考へて居るのであります。衛生の習慣、例へば幼稚園へ來ましたら、手を洗ふ云か、或は御飯を食べる前に嗽ひをする云か、食後にはブラシを使ふ云か、色々さう云ふ衛生、大變喧しい事ではありませぬ。身體の方へついて居る習慣であります。さうも今迄の教育の方で云ふ習慣は抽象的な習慣が多かつた様に思ふ。お辭儀をする習慣云か、きちんと腰掛けて居る習慣云か、色々さう云ふ、確かに養はなければならぬ事でありませぬけれども、やゝその子にござりましては抽象的な事であると思ふ。所が其處でして居る、手を洗ふ云か手を洗つたら必ず拭く云か、シャボンを使つたならば必ずシャボンは隅にきちんとあげておく云か、自分の身體に關係して來る習慣云云ふものは抽象的ではなくて、餘程生活經驗云して具體的なものであると思ふので、先づそれをつけるのが必要ではないか云思ふのであります。此處の幼稚園で庭に自由に出られる入口をつけて居り

ますので、然も部屋の中を綺麗にしたい爲に三つの靴を使つて非常に無理な事を試みてみました。外から履いて來た靴を、部屋の中で履く靴を、庭に出る時履く靴をそれをそれ／＼履き換へる。その履き換へる爲に一つ／＼靴箱をおきまして履き換へる。さう云ふ臆切な事なのでありますけれども、充分それが完全に一人残らず行はれて居るか行うかは別として、大體に於きまして、非常によく行はれたのであります。靴を履き換へるもんだ、云ふ機械的な習慣でさうなつて居るのでありませうけれども、矢ッ張、一種の衛生習慣でありまして、自分の履いた外の靴の中の靴の氣持なんかの違ひが、さう云ふ様なものが衛生的に云ひますか、身體に屬した問題として經驗せられて來るんだと思ふ。最近に……最近云つても半年ばかり前に……「ニューナーセリースタールの教育」云ふ本の中に衛生習慣をつける事を非常に主張して居ます。まあ初めの中は一學期位はさう云ふ事ばかりをやつて居る。例へば尾籠な話でありますけれども、トイレットに這入りまして……便所に這入りまして……手をちやんち洗ふか、何うか。ドアをきちんち閉めるか何うか。さう云つた様な事を、或はびし／＼に濡れたタオルで顔を拭いたり、手を拭いたりする事が不快である、云ふ様な、さう云つた感じを養はなければならぬか、さう云つたきちんち決めても決めないでも、そんな事は別に、幼稚園とすれば大事な事で、いゝ事であるとは云ひますものゝ子供には直接に不快の感じが起つて來ないのであります。快、不快を直接に子供に經驗せられる様な、感じられる様な、さう云ふ習慣を養つたらよからうと斯うまあ私は思ふのであります。其處から先はぎん／＼色んな習慣を養ひたいのであります。幼稚園で第一に心掛ける點は其處かと思ひます。

それならばさう云ふ衛生的な生理的な習慣でさう云ふ方面が旨く段々養はれて來る事は構はぬが、後は何うであらうか、云ふ事になります。まあそれがちやんちつければ後の習慣もつき易くなつて來るのじやないかと思ふ。習慣云ふものは一つ／＼の習慣によつて、新しい出發であるとも考へられます。習慣云ふ事自身がつき易くなつて居る子供、

こ云ふ問題もあるのであります。一つ／＼の習慣を一つの新しい出發點に發して行くこ云ふ問題もありますが、併せて習慣そのものの教育です。中には又、習慣こ云ふ事をつける事の出来ないキャラクターになつて了ふ事もあります。

所でこの衛生習慣の様な事をやつて居りますこ衛生の習慣がつくのみならず、其處に先づ習慣こ云ふものを先に經驗する、其處で練習されるこ云ひますか、先生の要求される非常に抽象的な習慣でも比較的、樂に受けて來るのじやないかと思ひます。丁度赤坊を家庭で育て、居ります時に、まあ赤坊の習慣は、赤坊こ云ふものを正しく育てようと思へば、乳を飲む事、眠る事、排泄、この三つをちゃんちゃんすれば、後の習慣は皆んな旨くつくこ云はれて居る。詰り乳を正しく飲んで正しく睡眠して、排泄を正しくするこ云つた様な、これは習慣こ云ひますけれども習慣こ云ふか、純粹生理的問題であります、その生理的なものがレギュラーに規則的に正しく行く、こ云ふ習慣を子供につけて行く。これはきちんこ行つた方が氣持がいゝ、こ云ふ快感がつけられるのであります。幼稚園に這入る前にちゃんこつけられゝばいいのであります、今日我國では衛生習慣がちゃんこついて居りませぬから、私はそれをねらつたら何うかと思ふのであります。

それから其次に「非常に社會性の缺けて居る七歳の男の子。自分の家に居れば、一度着た着物は却々取換へないし、一度好きだこ感じた食物は幾日でも同じ物を食べて居る。幼稚園へ來ても大體そんな傾向が表はれて居る」こ云ふお話。

之は食物で云へば偏食であります、着物で云へば偏衣でせうか。Monomania こ云ふ精神病的症狀です。この七歳の子供が、所謂モノマニア名を付けていゝ程變態的なのか何うか分りませぬが、そこで、若しこの子供の斯うなります原因が、大體其子供本來に、聊かモノマニアの傾向があつて、そこへ家庭の方で親が不精で、面倒くさがつて、子供がモノマニアだもんだから、いゝ氣になつて親が仕向けて……こ云ふ様な事でもこになつて居るのじやないかと思ふ。普通の場

合では、親の方から仕向け様にしても、子供がモノマニア的傾向を持つて居りませぬければ、さうならないのですけれども、子供の方がさう云ふ傾向を持つて居る所を、親が面倒だから、それに合はせて行く云ふやり方……親には、さう云ふ傾向が随分あるのでありまして、親ばかりではない、世間の人々との關係でもさうである。私の家では——私の家だけのおかしな話で——さう云ふ事をにんじんと言つて居ります。あの「にんじん」云ふ映畫を御覽になつた方も多いと思ひますが、にんじん云ふ映畫の根本的問題は別として、あのにんじんのおつかさんが、にんじんを取扱ふのにその手が澤山ある。例へばこゝに御馳走がありまして、親はその御馳走をその子供にやり度くない……云ふおかしなが、願はくは取つて置き度い氣がして居る。そこで、にんじんに向つて「これはさうだ」と言ひます。にんじんの方が直ぐに食べたりへばいいが、おつかさんの顔を見まして「そんなに欲しくない」とか一口言ふ。さう言ふそれが最後で、「さうく」お前はこの間も之が欲しくないと言つたね。お前は嫌ひだね。上げないね」と傾きを利用してぐんぐんして了ふ。一度言つたものだからさうなつて了ふ。そこはにんじん……あの子供も少し變なところもあるのかも知れませぬけれども、さう云ふ譯合から「着物を着換へなさいよ」とおつかさんが言ふと、子供の方は「これでいゝんだ」と言ふ。おつかさんの方じや、新しい着物を着せてやるのが億劫で「お前がいゝと云ふならいゝよ」と言ふ。食べ物にしましても、晝飯に食はせた物を晩に出して「かへようね」と云ふと、子供が「それでいゝ」と言ふ。「お前さへよければいゝ」と云ふ手である。斯う云ふ、向ふを主にした態度で此方がおつ被せて行く。私は、家庭の親が矢つ張り不精なんだと思ふ。その不精を持つて行くのに丁度都合のよいモノマニアスティックの傾向があるから、意識的に生ずるのではないが、さうなつて來たのじやないかと思ふ。精神的に、根本的に弱いのか……或は身體の悪いと云ふ事で、この傾向の甚だしい子供はあるものでありますが、それならば病理の方の問題としては、取扱ひ方に於てこの問題に重きを置く。幼稚園に登園してもその傾きがある云ふ傾きは何

う云ふものであるか……久保田さん。

(久保田)それは、家の方でも持てあましていらつしやる。着物を脱がす時にも大騒ぎで、泣かして脱がす。今家庭の方は、兄と弟と二人、お父さんもお母さんも皆揃つていらつしやる。家庭が助長する様な傾向はない。幼稚園では、四月に這入りまして、五月迄一度も外へ出て遊ばない。五月の終りに、寫眞を撮りませう、ミ云ふ時に始めて出た。

(應答者)家の中以外……家の中にモノマニアですね。

(久保田)繪を書くにしても、何時もつめたい色ばかり書く。お花を書くにしても、黄色、赤を使はないで緑等を使つて、書いて差上げるミ直ぐ消して了ふ。腺病質です。

(應答者)幼稚園へ来て、どの位経ちますか。

(久保田)今年の四月に這入りました。

(應答者)まだ見込みはありません。さうも、本来モノマニアスティックで、家庭が助長して居る様ならば、そこから直して行くより、仕方がないが、今のお話では、さうでないから……。花まで綠色に書くミ云ふミ可成りですね。すごい所がある。變態的な傾向も見えますが、段々直りませう。さうもそれより仕方ありません。たゞ、その子は、自然に打ちちやつて置いても間口を廣くして行く子供ミ違ひませうから、御注意になつて居る通り、餘つ程積極的に色々生活を極めて行く、ミ云ふ事を御注意になれば、段々よくなつて行きませう。

モノマニアスティックの御經驗、他にありませんか。それをうまい工合にひよつミ直したおまじ、なひ、かなんか……：：：精神病的の治療で行く事もありますけれども、子供の方は何うですか……：：：まあ一つ、もう少し試みようじやありませんか。

だんくお直しになつたらいふでせう。急に、色鉛筆を取つて、赤いのを書かせるミ云ふ譯にも行きませぬけれども、寫

眞を撮るので外へ出たミ云ふ大なる経験があるから、段々廣くなつて行きませう。さう云ふ子供は、幼稚園で非常に効果がある。其子ミしては……先生のお考へになる程、結果が表はれては居りませぬけれども……其子ミしては、幼稚園に居ります爲に、自分ミ違つた色々な事が行はれて居るのを感じて、其方へ興味が養はれつゝあるミ思ふ。食物なんかは、これは色々な方法を講じて、變つたものを、うまく食べさせる工夫、なんミ云ふ事はありますけれども、比較的易しいのじやありませんか。

(久保田) 御飯だけ食べる。他のものは、卵だけ好きです。

(應答者) 安く済みますな。これは餘り細い實際の事で、よく分りませぬけれども、これは御経験がありませんか。卵の中へ段々肉を入れて見るミか、野菜を入れて見るミか何ミか、まあそんな事を根氣よくやつて、段々食べて行くのですね。實際の経験で見ますミね。これは、今伺つて見ますミ、却々重態ですな。初め伺つて、一寸私考へた様に簡單じやなく、卵だけ、ミ云つた様な事ミ、幼稚園のさう云ふ事ミが皆平行的に現はれて來て居るミすれば、所謂性格病理の方で、よく調べてお貰ひになつたら何うですか。これ、教育の間違ひミか、教育の仕方ばかりじやなくて、所謂普通言ふ健康全體の上に、故障があるのではありますまいか。けれども私はさう云ふ事は、成可く言ひ度くない。それは、さう云ふ事を言ひますミ、一寸變な子供があるミ、教育から見離すからであります。

何所迄も教育からやつて行くが、根本は、醫者にお見せになつたらいゝミ思ふ。虎の門の文部省の横に、聯合婦人會相談所があつて、土曜日に開いて居りますから、彼處にお連れになつて御相談になつたらいゝでせう。親によくお話になりまして……。

それから其次の問題は「自己暗示にかゝつて居る子供の指導法」自己暗示ミ云ふのは、お分りになつて居りませうが「例へ

ば、繪を書くと言へば、同じ繪を何時でも書き、粘土製作をすれば、同じ製作をする」云ふのでありませうが、これ一寸お名前が書いてないものですから、誰方が分りませぬが、よく、さう云ふ事は所謂、オートサゼスシヨンを申しまして、比較的珍しくない位、あるでせう。其子の書いて居る繪は、汽車なら汽車ばかり書いて居る。兵隊なら兵隊ばかり書いて居る。ミ云ふ事ミ、それから、表現の工夫をして行く事が大變に不精で、何か初め一寸やつたものは、その所謂表現の手順がついて居りますから、新しい工夫をしなくても出来るが、變つたものを書くのは、努力しなければなりません。さう云ふ……不精、ミ云つた様な事になるんだらうと思ひます。大體に於て——この場合は何うか分りませぬが——サゼスシヨン云ふ事は、心理的に説明しますれば、意志の弱い子ミ云ふ方に屬するらしいです。意志ミ云ふのは御承知の様に、外に出て行きます働きではありませんぬけれども、自分の心の意志を、自分の中で色々抑へたり、マネージして行く内部意志——その内部意志の弱い子供はさうも思つた事が——先刻言ひました様に、不精ミか興味が少ないミ云ふ事じやなく、あれを書いたミ云ふ事が、自分を抑へて了ひまして、そのあれを書いた、あれを作つたミ云ふ経験で抑へて居るのを、自分の意志で統御して行く事が出来ない。これは例へば發音の間違なんか、意志の弱い子供が、意志の當り前の子供でも弱い時に起る。少し大きい子供でも英語なんか教へて居りまして、シラブルを間違へる。まあ、單數複數でも宜しい、ブックならブックを、ブックミ書いてあるのに、ブックスミ發音して了ふ子供がある。間違だミ教へるミ、間違へちやならぬミ思ふ前の経験が全體を支配して、自由の立場に居る意志が自分を統括しないから、思へば思ふだけ間違をする。之は詰り、先生に責められたり、間違へちやならぬミビクくするミ起る。これは、其時臨時に意志が弱められて居るのでありまして、これは大體、意志の弱い子ミ思ふのであります。それでこの問題を三様に分けまして、興味の少ないミ云ふ様

な所から出て居る自己暗示ならば、興味を色々に廣めてやるのが一つの道であります。

表現の不精、ミ云ふ事でありましたならば、先生が手傳つて、樂な書き方、變つた書き方、或は變つた物を作る事を、そんなに面倒な事でないミ云ふ経験をさして行く指導もありませう。意志が弱いミ云ふ、性格の根本的原因があるミ云ふ事でありますならば、これは段々他の全般的教育に依て、その子供の意志を強くして行くより仕方がないと思ふのであります。

それから、同じ方が出して居る問題は「友達ミ遊ばない、先生にもついて來ない。而も一人で居て、結構愉快がつて居る子供を、グループへ引張つて來るには何うしようか」斯う云ふ子供は珍らしくない。「一人でふらふらして愉快がつて居る」斯う云ふ子供は、問題を二つに分けて見度いと思ひます。

第一の見方としては、グループの中へ這入るのが子供の自然性だ、ミ私なんか始終さう云ふ論法で行つて居りますけれども、然し斯う云ふ子供があつた時に、これが例外だとも言へないので、斯う云ふ、一人で一人を樂しむ、這入らうと思つても這入れない子供は別問題ですけれども、這入らうと思つて這入れないのでなくて、一人で居る事がそれが愉快だ、さう云ふ——性質ミ言ひますか——子供なんですから、この人はこの人ミして、先づ第一の此方の態度ミしては、必ずしもグループに入れなければ此人の生活が、駄目だとも言へないのであります。

これはよく……私はこの事に就ては絶間なく質問されて居ります。私の保育の根本の行き方がグループ主義で、友達同志の影響を充分受けるミ云ふ事が、幼稚園の本質の様に説いて居るが、却々さうでない子供がある。又、さうでなくても、其子は其子で充分、自己ミしては生きて居る場合には、構はぬじやないか、ミ云ふお尋ねを受けるのでありますが、普通一般の子供ミしては、グループに這入る事に依て始めて楽しくなるから、それを大體本則ミして考へて居りますけれども、

斯う云ふ、一人で居たい、それが面白い云ふ子供であつたならば、強ひて何うする事も出来ないじやないか、強ひてさうしなくてもいい、云ふ所に第一の根據を置いて行き度いと思ふのであります。其子は其子で愉快にさしてやつたらいいかと思ふ。却々、一人で居て、充實して行く生活も出来るのであります。而もそれはそれで置いて置きました、何も、此子が一人で居る事を變則と思はないで、さう云ふのもいゝしまして、乍然第二の問題は、一人で居る事は、いゝんですけれども、グループに這入れない事は問題である。グループに這入らないからいけない、云ふ結果論的問題ではなく、這入らなくても一人で楽しんで居て、結構、生活が出来て居るが、這入れない云ふ事は困る事である。這入れない、云ふ所に、何かその子の缺點があり、何か理由があるので御座いますならば、急に入れる事は出来ませぬが、ねらひこしては、そこを狙つて、徐々にその缺點を補ふ様に仕向けて行く事は、勿論であります。然も多くの場合に私共は、無理にこの子を引張つて、グループの中に入れなければ、保育が出来ない云つた様にするよりは、一應その子の流儀で、その生活を満して置いて、相當に……自分が溢るゝ如く満足して來ます、遂には他のグループへも——急には來ますまいが——段段來るのじやないかと思ふ。これを、本來グループに來ない事が結果の上に於て不都合である如く取扱つて居ます、此子は何時も、満される事がないのであります。今グループへ這入らない事は困るが、何時もそこを満たしてやる態度を取る。する、満足の經驗が出来まして、その溢れたる満足が、それを他の子供へ結び付けて來る道になりはしないかと思ふ。もつと實際に則して申しますならば、其子をグループへ連れて來ようとししないで、その子の生活を満して……充分に溢れる様に満足させまして、得意になつて居る様な所へ、グループの方から段々くつ付いて行く、その所の仲介を先生がお取りになつたら何うか。「今、誰さんが砂場が何を拵へて居る、それを拜見に行きませう」云つた様に、グループから這入つて行く。何も、此方から仲間に這入らなければならぬ様にしつゝ、こゝく誘ひかけないで、押戻しゝやつて行

く。その中にその子は、プラス社会的な愉快、満足を感じて行くのじやないかと思ふ。

この問題は、私にまじりましては、是非一度はつきり申して置き度いと思つて居つた事で、いゝ問題が出て居る。惜むらくは、名前が出て居ないので困りますが、所謂私なんかの様に、グループを本體として幼稚園を考へて行きますと、人間の中で、さうでない人が居ります、その、さうでない子供を、大變苦しめる様な事になりました可哀さうだと思ひます。さう云ふ子供には、さう云ふ子供としてやつて置いて視つめれば、相當交つて来る。斯う云ふ風にしたら何うかと思ふのであります。下手をしますと云ふ……たゞ幼稚園へ来たからグループへ這入らなければならぬ、と云ふ行き方をしますと、この子供は、自己を満される、と云ふ幸福を幼稚園で得なくなつて了ふかと思ふ。

こゝで色々申上げて居ります間に、何うか一つ皆さんの方からも、お考を仰言つて頂きます。

で、其次の問題は、之は私には少し難しい問題が出て居るのですが、一度これを讀みまして、その方にお話をして頂きます。

「二年保育の二年目の男の子ですが、日々に子供らしさが失せて行く様な氣がしまして、母親も心配して居る」たゞ、子供らしさが失せて行くに云ふこれだけならば、これだけの話ですが「身體の方が普通の發達であるが、顔は初めから大人っぽく、殊に最近では、子供らしい所は殆ど見えませぬ」。つまり、顔が大人になつちやつた。「精神的の方は、感情方面がよく發達して居る、勝氣である。家庭では、お父さんがありませんで、家には、兄が二人、姉が一人、その子は末つ子ですが、商店であつて、店員が大勢居て、大人相手に話をする機會が多い」。渡邊さん、如何ですか。顔が大人っぽいと云ふ……。

(渡邊) 子供らしくない……さう申上げて宜しいか分りませぬが、私の目から見ても大人っぽいし、他の方から見ても、

大人つぼい云ふ事は直ぐ顔で見ても分る。昨年、這入りました時は、大人つぼくはないと思つたが、今年になりましてからは、小學生の様な服を着て……今年のお正月頃から、そんな氣持が澤山になつたのではないかと思ふ。殊に四月からは、色々な事情で、人手が足りなくなる迄、大きい組ですから、色々な方面にリーダーになり勝ちである事が、影響して居るかも知れませぬが、最近では何かの遊びを見付けて、しよう／＼にするが、何時でも先頭になる云ふ氣持で、仲間に入らない。野球をやれば審判官と言つて這入らない。遊びはやらう／＼と言つて來るが、自分がその遊びに這入り切る事はさうしても出來ない。一番よく這入りきつて居るのは積木だけです。それも部下を使ひまして、彼方へ持つて行け、此方へ持つて行けと言つてやる。小さい組の子供が這入りました時は、そつと一人づゝ集めて、お話をしてやつたり、繪を書いてやつたり、私共随分助かりました。その爲に、仲間に入らなかつた子供が、その子の爲に入らなかつた様になつたりした。

(應答者) 大人つぼい顔云ふは、何う云ふのですか。詰り私は……子供らしくない性質の子供はいくらもある事です。所が、精神的變質です。顔が變るんです。さう云ふのがある。實に、浦島じやないが、子供であつて、お爺さんの様な顔になる病氣がある。丁度、皆さんが何時迄も若くていらつしやるのが病氣である様な工合で……。そんなに顔が激しいのですか。

(渡邊) あぢけなさが、すっかりなくなつた様に思ふ。それで私此頃「そんなに世話をして居る迄、もう少しする迄お爺さんの様になるわよ」云ふ迄、びつくりして……。

(應答者) さう言つてきかしたのですか。

(渡邊) 父兄も心配して、何んな事をしてもらから、子供らしく直してくれ、さ……。

(應答者)家でも心配して居るのですね。さうも困りますな。大人になつちや、餘り問題ではない。大人になつて了へば常り前の顔になる。まあ、子供らしさを失ふに云ふ原因は、顔ばかりに云ふ譯はないから……原因は、家に大勢店員が居て、家では、まるで大人の世界に暮して居るのでせう。さうして自然、考へ方も感じも大人つぽくなる、さう云ふ傾向は多いでせうと思ひますが……勝氣の方、それとは、別に關係がありませんか。

(渡邊)さうして、一緒に仲間に這入つてやるのが嫌だ、に云ふのは、リレーをすれば、勝たなくちや嫌だ、に云ふ事も感ぜられる。私の方では、自由畫の帳面を、いくらでも書かせて、なくなつたのから換へてやる。その子は直ぐ書いて了つて「換へて頂戴」に持つて來るが、何を書いても理窟を言ひく書いて、此頃はクレイヨンで書きませぬで、態に鉛筆で細かい繪を書くが、大して纏つたものも書いて居ない。

(應答者)何か名案、ありませぬかな。勝氣な子供、に云ふ事は、あまりその反對の、性根なしのグータラな子供から見ればいゝが、全體の性格の健全なる發達としては、勝氣に云ふものは相當邪魔になるものでせう。直してやり度いと思ふのですが……恐らくこれは——形式的な答の仕方ですけれども、精神に云ふものに、極く中の方、上つ側の方があります。——上つ側の方が發達して居るのでせう。大人でも、外はぼんやりして居て、中はしつかりした人、外は氣が利いて居て中は空つぽなんざある。あゝ云ふ意味の中側外側、大人と一緒に居るから、物を批判する眼だ、人、人との關係、外との觸れ合、等が早く發達したのでせう。それに對して、自分で自分の外が發達して居ますから、人をも批判するし、自分も批判します、自分の中が伴はない。そこから、始終、負けやしないか、負けたら……に云つた様な意味の心配があるのでせう。ですから之は本當に自分の實力で生きて行く内部の力で、よく經驗を養つて行くのより他にないでせうな。斯う云ふのが、若し、心配しない人の手に懸つて居ります、外側の熱して居るところで、えらいえらい煽てられて成

長してしまひます。駄目なものになつて了ふでせうけれども、其次に、外つ側を何う取扱ふか、中を熟すのは、さう云ふ用心をなさるゝとして、今出て居る外側の問題、それを何う取扱ふか云ふ事に就ては、例へば、先生迄駈らして自分は審判官になり度い、云つた様な事は、まあ一つの卑怯ですから先生……私ならば、許さない。詰り、自己の力を試みるの機會のない生活ですね。自分の實力は棚に上げて行かうとする。負けるのが嫌だ、云ふ勝氣、それをベチャッコにしたのでは、立つ瀬がない。負けるのが平氣だ云ふ事はないが、殊に、負けるのが嫌だから、一應實力を相當に出して見て、さう云ふ事を希望して居るその態度に對しては、一通り、他の子よりは大目に見てやらなければ、立つ瀬がなからうと思ふ。けれども自分の實力を其處に表はす事を避けて置いて、さうして所謂、實力範圍内の生活に於て、得意になつて居よう、云斯う云ふ場合は、許しちやいかぬと思ふ。この子は多分顔が段々大人になつて……今に又何うなるか分りませぬが、この勝氣云ふ方だけは損ですけれども、實に此子に限らず、勝氣な子供は、素直に發達する事を妨げられて、損ですが、何うもさう云ふ傾向の子供は、小學校の上級あたりになつて……つまり實力で段々生活をして行く様になつて、目覺める所がありません。そこ迄は、斯う云ふ傾向を更に助長しない様な方法で、注意して居る位なものじやないでせうか。所謂勝氣云ふのは二つ、實力を試したくつて、人一倍負けるのを嫌がるの、實力を出さないうで勝利感を満足しよう云ふ場合、はつきり二つ、區別出来ると思ふ。その後の方は絶対に許さんがいゝかと思ふ。顔の方の問題……顔云ふ云ふ冗談の様になるが、私がさう云ふ心配をしたのは、變質者は一體に顔が變つて來るのがありますから、さう云ふのは、それが著しいならば——此子はさうではないと思ふのでありますが——さう云ふ御心配ならば、矢つ張り精神病學の方の問題ですね。早發痴狂云ふ様な、一種の軽い精神病の中で、顔が非常に變る。よく大人でも、急に一夜にして年取つて了ふのがあります。これは精神病的病氣です。

それから矢張り渡邊さんの問題で二年保育の幼児の、二年目の最初の取扱ひを何うしたらいいか、つまり之は、二年保育の時に、一年生と二年生を區別しよう云ふところに立つて居る。誰方が御經驗はありませぬか。小學校の一年生と二年生は、學科で區別を示して居るが、幼稚園の場合には、その所が何うなつて行く可きか。これに就て御意見のある方、教へて下さいませぬか。つまり、一年居て、二年になつたならば何う變つて行くか……(發言者なし)。

これは却々問題です。二年居たんですから、一年目と變つて來なければならぬ。さう云ふはつきりした形態で求めて行けば、却々難しい問題でせう。何うでせうかこれは……子供自身の方からは實力、所謂生活の……仕事の内容の程度が上つて行く前に、氣位キクラヒ、と言ひますか、意氣イキと言ひますか、之に於ては二年目は大變に變つて來ませう。二年目、云ふ實力よりも、自分の年下の珍らしい奴が這入つて來るものですから、如何にも兄になつた様な氣が出て來て、自心が出來て來たら、それを利用しての教育も出來て來るでせう。餘り激しく、いつばいに利用して行く事は無理でせうけれども、相當に子供達の自重心を利用して、それに則して子供を獎勵して行く云ふ事は出來るでせう。小學校の學科が、一年生より二年生の方が、程度が高くなつて來る云ふ意味合に於て、幼稚園の仕事が何うなつて來るかと言ひますと、學科の様には、はつきりしませぬが、實際に於て、若し一年の初めの保育がうまく行はれて居れば、(別に、所謂二年になつてそこから、云ふ事はないが、一年の終ひの方から二年の初めにかけて徐々に段々に何う云ふ事なく、小學校なら、學年の變化に依て、本まで變るが……數學の、或は他の學科の教授要目が變るが、幼稚園は、さうは變らないから、二年目と云ふ差別がそんなにしつかりしたものではありませんまいけれども)そこからさなく段々、同じ製作をするにしても、時間が長くなるさか、或は此方の要求にしても、相當にうまく云ふ事を幼稚園では重要視して居りませぬけれども、自然に、小さい時よりは上手になつて居りませうから、要求を増して來る。或は又、先生の方の要求が次第に、年と共に高め

られて行く、ミ云ふ事で、智能の方に於ては、さう、小學校の様にくつきり、二年目から何うなる、ミ云ふ事はないでせう。

たゞ此所に幼稚園の問題として、此頃……誰方かの質問にもあつた様ですが、我國の幼稚園は全然年齢に依て、組を組織して居る事になつて居りますから、大きい子が小さい子に及ぼす……小さい子と觸れて行く生活交渉ミ云ふものは、我國の幼稚園では、自由遊び、自然の生活の中で、偶然に行はれる事の他には別に何うミ云ふ事はないけれども、二年目になりましたならば、下の子が……自分より年下の者が這入つて來て居るのでありますから、先刻のお子さんの様な、さなきだにリーダーになり度い子供を、二年生だミ言つて、大いに督促したら、益々大人っぽくなるかも知れないけれども、段々何かの機會に於て、上の子の爲に、下の子との關係を多少つけて行く、ミ云ふ事は……それを本體にして行くミ云ふ事は、我國の、年齢に依て組を組織して居る事に於ては駄目であるが、さう云ふ機會を狙つてもいゝと思ふ。まあ、餘り、女學校の五年生が新入生の世話をする様な、手の込んだ濃厚な事は出來ますまいけれども、多少幼稚園の子供らしい程度に於て、責任の重い方の事を上の組がするさか、下の組でも、餘程個人的活動の要素が多かつたのが、段々集團的活動の要素を加へて來るさか、さう云つた様な、兄さん振つた感じを起させる様にして行く事がいゝと思ふ。最初の取扱ひミ云ふものに、特に何か問題がありますか。

(渡邊)私の方では、今先生が仰言つた様な機會を相當與へられて居る。三組になつて居りますけれども、大きい子供も小さい子供も一緒にやつて居りますから、お兄さん振るさかお姉さん振るさか……新學期に小さい子供が這入つて來て、さう云ふ上下の細やかな氣持は大變よく味はふ様に思ふのですけれども、その所の取扱ひが、私共よく出來て居ないか見えまして、一緒に作業をさせて、眺めて居ります時に、……一年保育の男の子ミ二年保育の子ミ作業して居るのを見た

時に、一年保育の子供は、自分の思つた事を大膽に發表出來て、自分の作つた物に満足して居る。二年目の子供は、斯うしたいあゝしたい、ミ云ふ要求が澤山出て、「手傳つてくれ〜」ミ私共に申します。それが段々細かい所になつて了ひまして、充分満足させてやらなくなりますミ、仕事ミ云ふものに興味は持つて居るが、自分で思ひ切つて突き進んで行く丈の表はし方がなくて、困つて、その爲に他の遊びの方にする〜ミ逃げて行つて、面倒なミところに這入り込まないで、外で戦争ごつこして遊ぶミか、蟲取りに行つて了ふミか、何か大きな仕事を見付けても、成可く先生を頼んでやらうミ云ふ様な傾向に、一時なつて了ふ。それを通り越して、二學期の終り頃になるミ、今度は變つて参りまして、一年保育の子供ミ、一寸同じ様な傾向になつて了ふ事も御座います。で、さうしますミ或方は「じや一年やつても二年やつても同じやないか」ミ言ひますが、私から見ましたら、子供の内容を考へました時に、二年やつたミ云ふ事を喜ばれる事があります。けれども、二年やつたから此所が斯うなつた、彼所が斯うなつた、ミ大きな聲で發表出來るミころには行かない。そこを、二年になり始めに取扱ひ方を自分ミして考へましたら、何ミかなるかミ考へまして……。

（應答者）それは、二年になり始めには、二年になつたミ云ふ事に就て比較的感じが働く。二學期になるミ、その比較的感じが珍しくなくなつて、別に……一年の子ミ同じになる譯ではなく、小さい子ミの關係で生きるよりは、自分一ぱいの生活を出して行く。それで、同じになるミ見た方がいゝじやないか……。ですから貴女のお話の通り、實力ミ言ひますか……實際の發達ミしては、現はれミは別について居るものミ見ていゝのじやないか。

これは、皆さんの中で御經驗があらうミ思ひますが、幼稚園の二年保育でも三年保育でも、一番しまひの、幼稚園を終る頃の年になりますミ、こゝあミもう一年ばかり、この子を教育して見度い、ミ云ふ氣持は皆さんに起る。これは何も、この子を、小學校の先生に渡すのが惜しい、ミ云ふ感情じやなく、幼稚園のやり方で、何うももう一つ、手應へ……が、

ちりした所が欲しかつたのが、小學校に這入る頃になるミ、格段に現はれて来るから、箱を造るミか何をするミか云ふ事を相談しても、その所の智能も進んで來ます、ミ云ふ様な所が顯著に現はれるか、そのあらはれが、一年やつたのミ二年やつたのミ、小學校へ這入る時に、され程非常な違ひが出るか。二年保育したから、一年保育したよりも手應へが倍になる程、現はれ方がなるか、ミ云ふ事は、……こゝだけのお話ですが、さう顯著には出ないでせう。それを出さうとするミ無理でせう。つまり大人ですミ、一年ミ二年ミ、同じ發達量を持つて居る者が一年やつたのミ、二年やつたのミだから、倍になるけれども、幼稚園の様に全體の生活力を……全體の發達を助けて行かうミ云ふ時に、幼稚園に來ないでも、幼稚園の初めを家庭で過してやつて居るから、所謂一年保育ミ二年保育の幼稚園效果の發達の方面に於ける差異ミ云ふもの、これを出して行く事は相當難しいのじやないかと思ふ。

誰方か一年保育——私共の方では、二年保育ばかりしかやつて居ないから、経験はないが——一年保育もあり、二年保育もあり、ミ云ふ幼稚園で、一年やつたのミ二年やつたのミ、斯う云ふ違ひが出て來た、ミ云ふお心づきのある方はありませぬか。

(大塚) 大阪の住吉の帝塚山學園の、彼處の主任の先生に子供の描いた畫を見せて頂き、話を聞いて非常に愉快に思ひました。

一月頃に一年保育ミ二年保育の子供に鏡を見せて、自分の畫を描かせました。その描いたのは名前は裏に書いて、先生がそれを見て居られ、二年保育の方の子供は表現ミ云ふ點に於て優れて居る……一年保育の子ミ較べればですが、二年保育の方は表現が優れて居るに對して一年保育の子供は一寸、斯うませた様な子供は、模寫する方には優れて居るけれども表現の面白さが概してない。二年保育の方がよく表はれて居る。これを見られて、太郎である。花子である、かゞよく解

る。太郎、花子が寫真には表はれ憎い、その子供獨特の、髪の毛がこんなになつて居るさか、眼がこんなださか、寫真を貰つたよりは、畫を貰つた方が、自分としては嬉しい。詰り、二年保育の方が、幼稚園すれがして居ない。一年保育の方が幼稚園すれがして居る。

それから、阿佐ヶ谷の幼稚園の高崎先生からも、實はこの問題で聞いた事がありますが、二年保育の二年目の子供も、一年保育のそれと同年齢の子供も綱引をさせる時に、二年保育の二年目の弱い子供と一年保育の組のかなり強い子供も綱引をするに、初めの中は二年保育の子の方が引ずられて来るが、大概は二年保育の方が最後の勝利は占める。

そんな様な所が一つの特に違ふ所だに云ふ事をお話になつた事を、聞いた事があります。そんな様な事ではありません。

二年保育を……幼稚園としては一年保育では短いので、是非二年しなければ、本當の保育の徹底は困難である、云ふ事が云へるか何うか。若しそれが云へるにすれば、一年しかして居ない今のお話の様な、年齢を交せて居る様な所では、特殊の工風をしなければいけない、云ふ事に就て、序でにその事を教へて頂き度い……

(應答者) 私は二年保育と一年保育に就てさうもその外に現はれて来る所謂、倍だけ何う、云ふ形の事は難しいと思ひますが、二年保育を一年保育に對して強く主張する理由、色々ありますが、その一つは保姆と子供との關係、さうも私は一年ではその子と先生と充分親しくもなれないし、又その子を研究するに云つた様な事が一年では出来ない。これが一つの大きな理由です。これはその幼稚園に云ふものを、幼稚園へ来たから子供の能力がこれだけ進み、幼稚園に來ないからこれだけ遅れたに云つた様な事もありませうが——當然教育を受けて居りますから、能力が進むのでありますから——其處にのみ幼稚園の特色をおいて居るのではないのでありますから。

子供の方から云へば先生を親しむし、さう云ふ體驗を得るのに一年ではいけないと思ふ。殊に皆さんの中にさう云ふの

がありましたら色々、おさしはりもありますし、御苦心に觸れ過ぎますが、よくたつた三月來るこか四月來るこか云ふ様な子供がありますが——一般の市内の幼稚園では……さう云ふのはさうも私は所謂一つの教育團體、あゝ云ふ仲間に入つて來て一人の先生に一寸世話になつて、三月かそこらで出て了ふ云ふ經驗は子供に持たしたくない。三月では教育出來るの出來ないの云ふ、何か指物師が注文する様な仕事の上の關係でなく、も少しみつちりした體驗を、彼處アスコで與へる爲にはさうも二年欲しいと思ふのです。

それからもう一つは若し幼稚園でもつて居る機能、能力を養ふ、云ふ事に重きをおくのでなく、生活態度云ひますかね。そのみんなこいつしよにして居る。人の間に居つて養はれて來る、その生活態度云ふ様なものを養つて行くに就ては、これは私一年保育の子供と二年保育の子供では大變に違ふだらうと思ふ。教へる云ふ事が出來ないもので、實際の生活の中に自ら把握されて行く、教育効果云ふものは年を重ねる程、よくなつて來るのではないか、斯う思ふのでありますから、まあこの御質問は違つて、二年保育の効果論になつて來ましたけれども、まあ其處でおいとおきませうか。

それからその次の御話は「子供と一緒に遊ぶ事を好まず、先生ばかり遊びたがる。殊に例へば何時でも私にくついで、おてゝを繋ぐとか、袂を持つてかして居ります、すぐだつこして呉れ云ふ様な子は何う云ふ風にしたらいゝでせうか」これは少スウうし先生がよすぎるんでせうか。やさし過ぎるんでせうか。さうも先生の方が、折角ついて來ます子供を離す、云ふ方法を研究する工風も難しんでせうか。時々知らぬ所を抓つて見るか、脇鐵砲をくれるか、離す方法を研究する事が難しい。殊に先生について來る事は、その事自身は大變にいゝ事ですから、その子の氣持こしていゝ事なんです。これを離す工風は出來ない。殘る問題は同年齡の子供の中に這入る、そつちの興味が足りない、云ふ事でありまして、先生にくつつく事が悪いのじやなくて、同年齡の子供と一緒にならない云ふ事が悪いのですから、そ

つちにつく機會を造つておおきになつたらいいと思ふ。その機會を造つて行くのに、みんなの中にたゞ押出してやつたつていけません。私はこんな事を思ふのですが、その子供の爲には先生は……さうでなくてもさうなさるのでせうが……先生自身がその子供のグループの中に、その子をつれて這入つちまふ。先生も先づ子供の仲間に這入つちまつて、先生にくつついて居ても先生らしくもない、何時の間にか這入つて行つて了ふ。こいふ方針はみんな風なものかしら、と思ふ。「私の方に來ないであつちへ行きなさい」つて云つたつて、無理だと思ふし、先生が子供と一緒に遊ぶ、そんな中はこの子がずつ——と連れられて行く。斯う云ふ風な考へ方じゃないかと思ひますが……

その次に斯う云ふ問題が出て居ります。關聯する事と思ひますから。

「保姆自身子供になりきつて、子供の世界に入り込んで一緒に遊ぶ保姆」さう云ふ保姆……なりきり保姆……さう云ふ保姆「一段上にご申すに變でございませうが、遊びの仲間ではなく、靜かに子供を見詰めてやら、よき友である保姆、その人の性格によつて違ひますが、前のものゝ方が後のものよりも子供に喜ばれます。何方どっちがいゝんでせうか」。

これを二つに分けて……この問題を讀みまして、保姆云ふものにはこの兩方の任務があるんです。この兩方の任務が一人の保姆にあるんですから、其處でこの問題が却々味のある問題になつて來るんじゃないかと思ふ。

「一段上にご申しては變でございませうが、お遊びの仲間ではなく、靜かに見詰めて居る保姆」なんだかこの文句だけで讀むと妙におたがい保姆の様になりますけれども、併し斯う云ふ事も必要であります。子供の中に交つて、顔は段々子供の様になつて、子供の性質を見詰める事も、觀察する事も、全體を色々考へる事も何もしないで居る云ふだけでは濟まぬでせう。私なんか例へば保姆さんが子供の中に這入つて本當に遊ばなくちやいけないと、或は子供と遊べるか、子供に遊ばして貰ふ程にならなければいけないと、こんな事を申しますのは、それを獎勵して居りますのは、其處に元來、子供

達を觀察する、研究する爲に……。一段上に申すに變でございませうがそれが任務であるから、兩方保母に含まれて居ると思ひます。若しも、併し何うでせうか。仲間になるに云ふ事、なしにたゞ上から見詰め乍ら子供のよき友達であるに云ふのは一寸難しい相談ではないかと思ひます。ですから矢ッ張任務としては靜かに見詰めるのが任務で、幼稚園生活としては子供の中に這入らなければ出来な思ひます。たゞ仲間に這入るに云ひますのが、此處にも書いてある様に、その人々の性格によつて違ふばかりでなく……性格はよくもお書きになりましたが……年齢に云ふ字も欲しい様に思ふのです。若い人が仲間になりきれないで、上から見詰めて居るに云ふばかりならば、保母の任務にしてばかりでなく、その人の若さを疑ひます。

それから年齢に云ひますか、老巧に云ふか、所謂經驗を履んで來られますか、別に上から見詰めて居るに云ふ譯じやないんですが、その仲間になるに云ふのが、何もその子供の様にゲラゲラ笑つて、子供の様にバタバタ跳ねたりしないといつても、子供の方から見まして仲間になつて、呉れるんです。仲間になるに云ふのが、一緒に轉んだり、キヤアキヤア云ふのが、仲間になつて居るんだと思ふ人、其處に座つて、下されば、仲間になつて下さると思ふ……感じられるものと思ひますから、老巧な人でありませう、敢へて不精になれに云ふのでなく、子供にキヤアキヤア騒いで居るばかりでなくさもない。所が若い人がさう云ふ風にならなから見て居ります。見詰めて居るに云ふ風な事になつて、子供の中で、向ふが若い人として求めて來るその要求に少しも報いる事がなかつたならば、そりやあい保母じやないでせう。それから又老巧なるが故に外から見るとは仲間になつて居ないで上からお見詰めになつて居る様だが、これもいゝ工合に解釋して下さいまして、不精でも横着でも、年の巧は樂なもんだ、ミ斯う云つた様な行き方は、これは濟まぬ事になります、私は其處を、解釋して、段々、熟達して來ます、さう皆んな子供と同じに保母が遊ばなくとも、子供の方から仲間になつてくれる様

な氣持を味はれる様なものになつて來るのではないかと思ふのであります。これは性格にもよりますが、寧ろ保育の熟達、ミ云ふ事によるものじやないか、ミ思ふのであります。もう一度申します。仲間になるミ云ふ事は絶対に必要な條件であります。仲間にならないで、たゞ上から見下して居るのは實に變です。この仲間になり方に色々あるミ云ふ事は認めておきたい。姉さんと一緒に散歩に行く子供の喜び、お母さんと一緒に散歩に行く喜び、兩方自分と一緒に待つて下さるのですけれども、工合が大變違ふのでありますから、さう云ふ差別は其處に認めてもいいと思ひます。

(質問者) 前の問題でありますが、子供が獨占しなければ氣持が悪い。そしてブランコに乗る様に仕向けて、上げましても、先生に押して頂戴ミ云ふ。砂場を致しますにも、先生お山を作つて頂戴、それから御本を読みます時にも自分が先生の傍で読んで貰はなければ氣が濟まぬ。他の方が参りますミ、これが氣になるらしく、お遊戯を致します時にも先生の傍でおてゝを繋がないければ氣持が悪い。

(應答者) それがつつちでせうか。先生の……自分が苦心して工夫するより、先生に押して貰ふ。お山を作つて貰ふ。人の力を利用する爲に先生を……斯う云ふ様な理由ミして……。

(質問者) 先生を自分の傍におき度い。

(應答者) 何でもさう云ふ人がありますな。濃厚なる人ですね。これが私は情が濃厚な方ならば……さう云ふ人なんです。

さう云ふ性質なんですからいゝも悪いもないんです。けれども先生につくミ云ふのは、先生を利用して自分が樂をしようミ云ふのはよくないのですが、先生に親しまふ、ミ云ふ方から行くならばそれは悪いミは云へない。情の少し「いやにしようこい人だね。さつぱりおしよ」ミ云つたつて、みんな一緒になれない方が悪いのですからこつちを離す努力よりも、向ふに入れる努力の方が……先生が矢ッ張連れ子になつて這入つて來て、先生から離して……引越させようミ云ふ事になれば

……さそう思つてあんな事を云つて見たのでありますが。中にはまああれでせうな。「燐餅焼」もあります。自分が獨占したんじやないけれども、人が傍に来るここんな(身振りにて説明)なつて来る事もありませうな。さうも併し折角さうやつて来る子供を全然情なくも出来ませぬですか。矢ッ張その子の要求に對して情なくも出来ないと思へば、明るく解釋して、こつちにつく事は、餘り責めないで、友達の中に入れて貰ふ事を癒す……憂ひてやる方針は其處にありませう。

その次の問題が、これは大變に組織立つて云つて居るんですがね、

一、三四十人一組で保育する場合、子供の生活を妨げないで統一出来る實際保育法。

二、一組全體を出来るだけ平均して向上せしめる保育法。

三、個人保育に關する所の適切なる本はないか。

これは實に、一人々々の子供の指導法か、或は特殊兒童にお困りになつて居る問題か或は保有項目のそれ々の取扱ひ方ではなく、幼稚園生活形態に關する問題をすつこゝに出されて居る様な氣がする。三四十人一組……何處でもさうありますが。その生活を妨げないで統一する實際保育法、これは、逆に言つて見るに、統一させようとするこ子供の生活を妨げるに云ふ斷定に云ふ程でもないでせうけれども、さう云ふ意味合がこゝにされて来る。統一しようとする、妨げないで統一するに云ふ様に私には讀めて來ます。そこで問題は、子供の生活を妨げていゝ事はありませぬが、妨げないに云ふ事は、分つて居る事ですから、その統一出来るに云ふ統一の考方……若し統一に云ふ事を、フォーマル、形式的統一で行かうと思へば、子供の生活を妨げないで統一する事は難しいと思ふ。難しければこそ、吾々が、所謂生活形態の問題に苦勞するのですが、所謂統一出来るなくても生活形態として行ける統一じゃないけれども、生活形態が滅茶苦茶になつて居なければいゝんだと、斯う云ふ風に考へて頂かなければ、この問題は解決出来ないと思ひますが、ま

あ出題者も、統一云ふ事を、さう強くお思ひになつて居る譯でもないでせう。相當ちらばつて居りましたも、子供がよく生活して居りや統一だ極端に云へばさう思ふのであります。

「一組全體を平均して向上させる」さうも、全體が統一云ふ事が大變について居る様に思はれますが「一組全體を出来るだけ平均して向上させる」……言葉じりをおさへる譯ではないけれども、生活全體を向上させて行く、換言すれば、一人々々の生活が向上し、グループが向上し、全體がちぐはぐに向上して行けばいゝと思ふが、これを出来る丈平均して向上させよう云ふ事になるさ、可成り難しいと思ふ。平均云ふ事を……若しも或部分だけが向上して、或部分が向上しないでは困るじやないか、云ふ意味で平均云ふ字を使つて居るならば、充分諒承する、尤もと思ふ、けれども私は、あの一組の中で、非常に向上して行く子供も、それ程向上率の激しくない子供がある事は免れないと思ふ。尤もそれをいい加減に利用して、仕方がないと言つて平氣にしちや困りますけれども、昨年も申しました訓育、子供の性質に依つて違つた訓育的效果が現はれる。こゝを平均したい云ふ考へ方が無理じやないかと思ふ。その、統一云ふ平均云ふが組全體、云ふ處に重きを置いてお考へになつて、無理をお感じになつて居る證據ではないかと思ひます。

第三に「個人保育に關する所の適切なる本はないか」さありますが、私は何時も申上げる如く、組云ふものは組で、個人云ふものは個人で保育としての取扱ひは何うしてもその中から色々グループの關係で、もう少し自在な、こけつぽこけつぽして行くのであります。組にあらずんば個人、個人が組か、云ふ様に分けて行く行き方から、もう少し教育法が、實際的、生活的に進んで來て居るのではないかと思ふのであります。

これは、この題をお出しになりました方の心持、及び現在の幼稚園に則しての疑問の出方云ふ事は充分認めますが、組云ふ個人云ふで保育の問題を見て行かうとする見方には、私は反對して居りますので、一寸それをお答へして置きます。

次にこれは、少し心配な子供の……困つた子供の問題でありまして、さう云ふ關係から、出題されました方のお名前及び幼稚園は、おあづかりして置きます。「問題が二つありますが、一つは「一軒の家では、子供に全然お金を持たせない。或家では金を大變自由に持たせる。そこで、家でお金を持たせない方の子供が、お金をだらしなくあてがはれて居る子供からお金を貰つたり、それのお使ひになつて色々買物をしたりして困る。何うしたらいゝか」云ふお話。これは問題が二つになりませう、本質的に斯う云ふ子供に金を持たせる事のよし悪し、云ふ問題云、それは家庭でする事ですから家庭の方へ譲りましたとして、それから生じて来る實際の結果を幼稚園として何う裁くか、云ふ二つの問題になりませう。金を家で貰はない子供が、持つて居る方の子供から金を貰ふ。又、言ひ付けられて色々な用をする。これは、それだけのところで解決しようとするれば、矢張りさう云ふ事を家庭の方に相談しまして、幼稚園へだらしなく金を持つて来る云ふ事を止める、或は、幼稚園へ持つて来るばかりじゃない、幼稚園時代に金を使ふ事を止める。そつちの方が第一の問題じやありませんまいか。それから、片方の子供の家へ、少しは金を持たして大盡ぶらしておやりなさい、云ふ事も出来ないから、これは、斯う云ふ事があつて困るから、金を使はせない様にしたせない様に、云ふ事を家庭と相談しなければ、何うもうまく解決しますまいと思ふのです。

そこで今度は遡つて、子供にお小遣の問題になつて来るので、これは親から色々お尋ねを受ける事があると思ふのですが、私は原則としては勿論幼稚園時代に於ては、子供がお金を使ふ……：自分でお金を貰つて買物をする云ふ事は必要がないし、止めた方がいゝと思ふ。小學校になつて來ますと、全然子供に金を持たせない云ふ事は、これは別問題で、私は寧ろ少しは持たしていゝと思ふ位に思ふのですが、幼稚園では、子供に金を持たせない方がいゝと思ふ。それは原則ですが、家庭の風に依りましては、そんな原則はさても適用出來ず、勝手にお金を與へられて買食ひをする子供があ

るが、幼稚園に来て居る場合に於ては——託児所の場合に於てはこれは難しいと思ひますが、——斯う云ふ風な事、即ち金を持つて幼稚園に来るなんて云ふ様な、幼稚園に關係を及して來る問題に就ては、家庭に充分嚴密に話して、持たせない様にする。それも寧ろ幼稚園の一つの任務だと思ひます。幼稚園が子供の家庭教育へ、さう一から十迄干涉して行く事は出来ませぬし、殊に實際問題に觸れて行く事は却々難しいけれども、然し斯う云ふ、幼稚園へ關係を及して來る問題に就ては、さう云ふ風にした方がいゝじやないかと思ふ。

如何で御座いませう。斯う云ふ實例を他にもお持ちで御座いますか。幼稚園へ子供が金を持つて來る云ふ事……。餘りない事かと思ふのですが、持つて來たら、持つて來させない様にする。それで解決して行くでせう。

それからもう一つの問題は、これは、女の子で、これは却々面白い。「ちゃんとした家庭の女の子ですが(ちゃんとした云ふのは財政的にもちゃんとして居る云ふ意味でせう)が甚だ困つた蒐集癖があります。それに一種の諧謔もまじつて居る様です。(これは面白い書き方です……)例へば自分の抽斗に色々のものを隠して置いたり、(これは普通の人が書いたら、盗んで隠して置く云ふでせう)が、それを使はしないで斯う言つて居る(澤山の帽子をバケツに押込んで置いたりする。その場合帽子の型がこはれて困ります)」。こはれる所じやない。大變困つた事と思ひます。其所等が却々面白く書いてあります。まあ、その帽子をバケツに入れる云ふ方はもう少し詳しく伺はなければ分らぬが、全然蒐集癖でせうな。帽子を盗むのではないでせう。これは蒐集癖の部に這入るのでありますが、或は帽子を隠す事に依て帽子の持主が困る、それを面白がる云ふ、蒐集そのものゝ興味よりも、もう少し質の悪いいたづらの方に屬しやしないかと思ふ。自分の抽出しに色々なものを隠して置く、云ふ方はこれを物にもよりますが、蒐集癖であり、或は盜癖であるかも知れませぬ。所謂盜癖云ふ言葉に屬するのかも知れませぬ。まあ、帽子をバケツに入れる云つた様な諧謔のまじつて居る方のものは、こ

これは實際帽子の型がこはれる位の話で、別に其子が後に帽子泥棒になる云ふ譯ではないでせうから、大した事ではないと思ふが、若し盜癖の問題を解釋して、盜癖と言はないで蒐集癖と言葉を和らげて使つて居ると思すれば、盜癖として研究すべきであると思ふのであります。盜癖云ふのは幼稚園に於ても随分困らせられる事ですが、斯う云ふ癖は、その惡癖にも共通な様な場合に二つ大きな種類……と言ひますか、場合がありまして、一つは所謂性格病的な、變質的なもの、これはさう云ふ、病氣云ふ云ふおかしいですけれども、何かさう云ふ變質性があつて、泥棒……物を盗む云つた様な事をする事が起る様です。これは何うも却々治らない。私は、非常に残念ですけれども、その變質のものの方から治して行かなければ却々直らぬと思ふ。所が、さう云ふ根本的な原因でなく多くは……寧ろ多くの場合は、所謂癖である。所謂癖であつて、初め一寸其處等にあるものが、きれいだと思つて隠して置く。さう云ふ風な事が面白い事ですから、他人の持つて居る物を何時の間にか隠してしまつて置く。これは、物隠し遊び、ミでもすれば面白い事ですから、そんな事を、深い意味もなくやつて面白い云ふ。殊に、人が騒ぐものですから——騒ぐ事は非常に面白い。泥棒なんかでも言ひます。泥棒をして隠れて居て、警察の方で自分に眼をつけて探して居る云ふ事が新聞に出て居るを、恐くなる事もあるが、面白いさうです。却々見付らぬ云ふ云ふ尙面白く、時々交番の側を通つて見たりする程面白くなるものさうです。——それも面白いと思ふ。鬼ごつこをして居る時に、鬼の側を駈ぬけて見る興味、その興味が二度三度四度云ふ様に、一つの癖になつて了ふ。之は必ずしも性格の根本原因と言つたよりは、もう少し單純なものと思ふ。けれども此子は何うか分りませぬが、假に、抽斗に入れてあると言つた時に何うするか。這入つて居る物を見付けた時に何うするか。先生も、抽斗を開けて見て發見したのですから、これは何うも理を以て説いたつて、却々簡單には行くまいと思ひます。そこで、この所謂自分でも知らずに付いて居る癖を絶して行く方法としては、極端に……今のこの様ですけれども、二つの道があ

りはしないか。抽斗を開けて、其中へ物が這入つて居つた時に、先生が非常に驚き、非常に悲しみ、非常に憤り、何でも宜しいが、非常にやる。わざ／＼やるミ云ふミおかしいが、そこで先生が卒倒して了ふ。泣き倒れて了ふ。これは、何故さう云ふ事を言ふかと言ひますミ、今の様な場合に於て、軽い樂しみの様なものから知らず／＼やつて居るので、事柄は甚だ大變であるけれども、やつた本人は、非常に軽い氣でやつて居る。その軽い氣でやつて居る事が、如何に深刻な重大な恐る可き問題であるかミ云ふ印象を、キュー／＼ミつける事が必要である。抽斗を開けて、這入つて居るので先生が探偵の頭の様な驚きをして、「よくない事だらう、分つて居るだらう」ミ云ふ、そんな事じや、絶して行く強い力にならない。そこで、先生が所謂卒倒して了ふ。するミ、子供なりに、その自分について居る癖を、先生が驚くからしまい、ミ云ふ様な事で癖が絶されて行くミ思ふ。

もう一つは、卒倒する代りに、もつミ朗らかに扱つて了ふ。抽出しを開けて「誰さん、此處に隠してあつた」ミ云ふ様に、隠匿的興味を朗らかな事にして了ふ。さうするミ一寸考へるミ、入れミいちや朗らかにしちや、樂々悪い事をしさうですけれど、さう云ふ事ではない。隠してあるのを先生が見付けて「これはどうしたんです」なんて事を言ふミ終りです。これをボー／＼ミ朗らかにしてしまふから、隠し興味が薄らげられて来る。癖の方は、私は、今の形で直して行くミ云ふ事も出来るが、斯う云ふ種類の癖は、何う云ふ癖が分らない。要するに、理を以て説くミ云ふ順序でない。實際のやり方で、非常に深刻にする。燃やしちまふか水をかけてしまふか、ミ云つた様な取扱ひが一つの道じやないかミ思ふ。少くもこれをつかまへて先生がそんなに驚きもしないでたゞ「その事たるやよくない事である」ミ云つた様な事じや癖は直るまいミ思ふ。家庭なんかで、小さい子供の盜癖は澤山ありますが、家庭なんかと同じ事で、随分親がそれを平氣で見ているミ思ふ。「そんな事をするミ地獄へ行つてよ」ミか言つて居る。帽子をバケツに入れた方は、他人の困つて居るのが面白い方の、いたづら

じやないかと思ふ。

それから其次の問題、「七歳の子供であります、智能のメンタルテストの指數計数が少い云ふのでありますから、發達した利口な子供ではない様であります、二三目には猥な言葉を發する、これは此子の問題ばかりでなく、幼稚園で屢々起る事であります。猥褻な言葉でせう。これはよくある問題ですが、まあその猥、云ふのが一體どの位な猥な言葉であるのか。私が實際経験します所の幼稚園の子供が使ふ猥な言葉は、さう大した事じやないでせう。警視廳で叱られる程の、風紀を亂す事は言はないと思ふ。幼稚園の先生は高尚な方が多いから、一寸何か言ひましても「まあ嫌」、云ふ事になるのですけれども、まあ私は、この猥な言葉云ふのは大した事じやないと思ふ。打ちやつて置いていゝ位の程度じやないかと思ふ。其子一人云すれば、禁ぜられて居る言葉を使ふ言葉の意味よりも、それを使ふ事の興味の問題じやないかと思ふ。それをきゝ流さないで咎める云ふ事も必要でせうが、却々難しいです。猥な言葉を子供が使つた時先生がヒョツときいた時に、そんなにふるへないで應揚に——面白がつてニコくする云ふ事もないでせうが——そんな事をするじやない、云つて止めるのであります、知らぬ顔をして、きゝ流して了ふのもいゝじやないかと思ふ。

今のは其子供一人として考へて見たのであります、幼稚園じやなく、子供の作つた言葉は世の中の流行語になりますから、非常に心配をするのであります。他の子供が段々その言葉を使ひ出す云ふ事になるましますれば何處かで早く止めなくちやならない。その止めるに就きましたは、（私は斯う云ふ風にして止めるには、色々言ひ聞かして止めるのです、その止めるに就ては）、「先生はさう云ふ言葉は嫌ひだ」云ふ事で、いゝか悪いとか云ふ教訓的態度で決めないで、先生嫌ひだ、その子が別に好きで云つて居る譯ではないでせうけれども、先生は嫌ひだ、云ふ事で止めて行くべきじやないか。道理を説いて、いゝ事、悪い事説明するより、先生が好き嫌ひ云ふ事を根據として止めて行つた方がいゝ

思ふ。家庭なんかでも親はまあ理窟は兎に角、お父さんそれ嫌ひだ、お母さん嫌ひだ、ミ云ふ事で止めちまふ場合がいく
らもある。それが如何にも自分本位に親が好き好みでものを云つて居る様でありますけれども、斯う云ふ問題はその方が
いゝと思ふ。嫌ひな事を言つては非常に先生、不愉快だから、ミ云つて止めて行くのがいゝかと思ふ。それが、言はない
方がいゝ言葉であるか、さう云ふ事は下品な言葉である、ミか淫らな言葉であるか、説明をつけて止める心算であり
ますが結果としては説明をつけて行かない方がいゝかと思ふのであります。扱て、斯う云ふ言葉を幼稚園の子供が使ふの
は多分大人から習つて來たのでありませうから、その言葉の種類によりましては、家庭の注意を要すべきかと思ふ。

ある處でこれと同じ問題が outcome として、そして其處は非常に高級な、キリスト教精神の交つて居る幼稚園であつて、「さう
云ふ事で、いゝじやありませんか。淫らな言葉を使つたつて、こつちが思ふ程の意味のない事ですから」ミ斯う答へました
所、「そんな呑氣な事を云つて居られない。實に聞いても不快で堪らない」斯う云ふお話であつたから、「それならば抓つち
まつたら何うですか。擲るのは亂暴ですから、抓る位の事をやつたら……擲つてもいゝでせう」ミ云つたら、さうしたら
ば、其處では擲るの抓るの、ミ云ふ事は餘りいゝこつちやないでせうから、私が如何にも亂暴な事を云つて居る様におこ
りになつたのですが、その抓るミか擲るミか云ふのは、抓るの擲るのミ云ふ事を獎勵したのではないので、不快が籠つて
聞いて居ていゝの悪いのじやなくて自分が嫌だ、ミ云ふ氣持が出て來て、まあ、嫌だ、いゝ加減にやつても駄目ですから押
し方が、彈力がつきやあ擲る事になります。口を塞ぐつもりがひよつミ手がお尻の方を抑へた。……淫らな言葉を淫らな
意味で話して居るのではないのでありますから、皆んなが何だかにやゝ笑ひましたり、先生が叱り乍ら、その子を止め
ておき乍ら、先生同志で「あの子がこんな事を云つたのよ」ミ云ふミ「悪い事だけれども、面白い事かな」ミ思ひますから、
極端に先生が嫌ひだ、ミ云ふ事で押通して行つたらいゝと思ふ。先生の嫌ひな事なら尙やらう、ミ云ふ子が來たら何うし

よう、ミ云ふ話が出ますが、さうなつたら私が免職するか、先生が免職するかになりますね。言葉だけ出したのは子供としては大した意味はないので、「先生が嫌ひだ」それが面白いなんて子は私、その先生ミ云ふものゝその子に與へて居る印象、實に威嚴のないミ云ひますか、親しめないミ云ひますか、さう云つた様な氣持がするのです。まあこの問題はそんな風に考へます。

それからその次の問題はずつミそれミ變りまして、やゝ保育學的な問題でありますが、「一年保育ミ二年保育を已むを得ぬ關係上、一緒に取扱つて行く場合、これは幼稚園令の建前から言ひますれば、年齢によつて區別して居ます。それでもあ一般には旨く行く筈が行かなかつたり、或は二年保育の二年目の所に新しく這入つた子を入れて行く。その場合の取扱ひ……」ミ云ふのであります。

お名前が上げてあるのを、敢へて申しませぬが、その方は、それミなく御聞きを願ひ度いミ思ひます。

二年保育で二年目になつて居る所へ新しく入れて……新入の子供を入れて……行く、ミ云ふ事は、これは珍らしくない事でありませんが、私の幼稚園ではさう云ふ事がありませぬから、機械的にきちんミ行つて居ますが、當り前の幼稚園では、途中から色んなのが交つて來るミ思ふのです。詰り極端に言ひますれば、一つの組の中にその幼稚園のずつミ前から續いて居る古參も居れば、中古るも居れば、新まいも居る、ミ云ふのが、普通の幼稚園だらうミ思ふ。これは已むを得ないミ言へば、已むを得ないのでから、一々氣にして居てはさう云ふ幼稚園の場合は何うにもなりません。

さあ、其處でこれも一種劃一的にその子供達を集團的に取扱つて行かうミするミ、非常に難しい問題になつて來るのではありませんが、組は組でも色々な考へ、色んな子が居て、色んな話が出て、構はない、ミ云ふ幼稚園の建前から行けば、それでいいミ思ひます。殊に新しく這入りました子供が、少うし、斯う、古くから居る子供に引ずられて行く場合もありま

せうし、新しい子供が一緒に旨く遊びませぬから、退け者になつて居る場合もありませうし、さう云ふ事は理想的ではありませぬけれども、別に劃一にならなければならぬ、ミ云ふ極キョクりの様なものを豫め……極めておく、ミ云ふ事が、大體に於ける問題でない。色んな人が居るから、色んな事が行はれて居る、ミ云ふ事で結構じやないかと思ふ。この區域でお答へする、ミ云ふよりも、劃一的に考へる、ミ云ふ事を本體として行けば、これが大變に問題になりますけれども、幼稚園では、組、ミ云ふものをもつミ自然に選んで、その中に色んな仲間が居る、ミ云ふ事を本體として行けば、まあ大して特別な場合でもないか、ミ考へるのであります。

それからその次に「製作の問題に就て、幼児は模倣力が強いから、保姆の示した一様のものを作らしても喜んで居る。だから幼稚園の手法はそれでいゝんだ、ミ云ふ意見ミ、幼児が勝手に色んなものを作つた、その時に應じて先生の方では指導して行くのミ、何方ドウチがいゝか」。斯う云ふまあ話であります。

これは先程の私の文部省講習のお話の中で自然に申した事でありまして、誘導的保育ミしては出来るだけ子供に勝手に作らして、その中から所謂、充實指導をして行つたり、或は誘導して行つたりして、もつて行く。初めから「これを作りなさい」ミ示す行き方でない方が生活的な保育の特色を發揮する所以だ、ミ斯う思ふ。併し一般の論ミして、あゝ云ふ風に、極く本格的な趣旨を申上げました。けれどもさう凡て一切、何時でも原則的に發展して行くミも限りませぬから、子供は小さい子供、色々な氣持がありますから、先生の作るミ云ふものを持つていらして、それを見て、作り度くなる、ミ云ふ場合が起つたつて、それは構はない。唯その先生の作つたものを見て子供が作つて行くミ云ふ場合に、さうせそれを作らせ様ミ云ふ腹で先生が居りまして、これを作れ、ミ斯う云ふ前に、簡単な命令で示される前に、師範的にお示しになる前に、まあ、一寸その前に、餘裕、ミ言ひますが、閑ヒヤをこつたらいいと思ふ。先生の作つたものを子供達に「作れよ」ミ云

ふのではなく、見せておやりになる。先生が御作りになつたものは、先生が非常な興味をもつて居るのであります。子供が作るものを先生に見せに来るこ、同じ興味で、先生がさせ度いこお思ひになる様な：「御覽なさいよ、豚が出来た」或は「御家が出来た」「椅子が出来た」見せて、そして必ずしも「これを作れ」云ふのではない。少うし其處の所ベテンの様な行き方がありますが、必ずしも作れ、云ふのではないが、「面白いじゃないか」「見せて行つて、それが子供を誘つて、子供が作り出して行く。必ずしも子供の生活の中から引張つて行くのではありませんし、プロゼクトで誘導して行くのではありませんが、さう云ふ場合だけで行けるものであると思ひます。さう云ふ事であつても構はないと思ひます。一寸この場合は何かものを見たら面白くなつてその畫を描く、云ふのと同じなんですから、お手本の畫、先生のお作りになつたものを見て、「先生、私も作りたくなつた」、云ふのですから、それで構はないと思ひます。この御質問に對して、保姆の示したものによつて、子供が作り出しても構ひませぬし、或は子供が勝手にものを作つたのを誘導なさるのが本體に言へますけれども、言へますけれども先生の作つたものをもこにして、子供が作つて行く。それには先生が一寸、示し方のこつこでも言ひますか、その手を一寸擱む事で出来るものじゃないかと思ふ。私の云ふのはたゞ何云ふ事なく「これを作るものである。これが今日の保育項目に斯う出て居るから、是が非でも作つて行かなければならぬ」云ふのはどうかと思ふ。先生のお作りになつたものを見せて、それなら、云ふので子供がやる、云ふ事は勿論、咎む可きでないと思ふのであります。

それからその次の問題は、群馬縣の方から出て居りますが、「無口で一切ものを言はない子供の誘導法」これは幼稚園に遺憾作ら、ちよいと起ります事實であります。一寸此處で皆さんに：「何うですか？皆さんの幼稚園で無口で一切ものを言はない子供、ありますか。一寸手を上げて下さいませぬか。：：：九人：：：その無口な子供を有口になすつた御經驗、

ありませぬか。

(質問者)早呑込みに可笑しな様な話でございますが、お父さんならお父さんが何處に御勤めになるか、お祖母ちゃんがお在でになるか云ふ様な、幾分解つて居ります事に就て子供と語り合ふにします。始まりの中は無口の子供ですから、唯お首を振る位、お首を振るのが上等位でありました。それから時偶、餘ッ程自分の方から話かけ、それが段々に自分から話す様になつて一通りは……お遊戯の様なもの、これは又別でございますけれども一緒になつて致しませぬ。致しませぬで唯、見て居りますが、積木の様なものも、段々出來て來るに共に、語り合ひ、自分からもお話をする様になりまして、それから海水なんかに参りまして……(聞きこれず)段々喜んで話す様になりました。それでよく觀察して居りますに、何時の間にか一緒に話す様になりました。お話なんか致しませぬのは、段々その様な工合で一緒に話が出来る様になりました。

(應答者)さう云ふお話よく聞きますね。何ふがちやんご知つて居る事を、事實知つて居る事を聞いて見る。さうするに話の結果がつき易い、ご云ふ事があります。

毛利さんいらつしやいますか。これはもの、言ひませぬか。

(毛利)一つも言ひませぬ。

(應答者)何年間？。

(毛利)去年の十二月からお這入りになつたのですけれども、何度聞いても、お家の事を聞いても、何もお答へになりませぬし、こちらから聞くのに、答へられる様な事を聞きますに「ウン」ごか、首を斯うして(首を振る)返事するだけで、何にも言はない……。

(應答者)他の事はしますか?。智能一般に不活潑ですか?。

(毛利)お仕事は他の子供よりよく出来ます。

(應答者)何かものを言はない子供を大勢、お持ちでございませぬか。特別な、何ふお話ありませぬかな。私の家のはこんなのだ、……私なんかおしやべりばかりして居るものですから、無口ミ云ふ事がさんミ解りませぬ。……半年位待つたらいゝかミ思ひますけれど、未だ解りませぬな。……十二月頃では。今に言ひませうな。中には二年間、三年間ずつミ言はない様なお話を聞く事がありますが、斯うなるミ、随分大變ですが。未だ言ひませう。さうしておきませう……楽しみにしておきませう。言ふに相違ないミ思ひますが、餘^アまりこの子は無口だ、ミ云ふ風に思つて、無口扱ひ……無口扱ひ、ミ云ふのは、お前は無口だから言ふまい……それが無口扱ひ……そればかりでなく「言へ〜〜」ミ云ふのは、一種の無口扱ひですな。「あの今日はものが言へますか」なんて云ふのは一寸言へなくなつて了ふミ思ふんです。で自分が無口である、ミ云ふ事を、無口のちやんミ、札がついて居る人間……札つき……だミ云ふ事を意識させたら尙、言へますまいからな。私の話は萬事、相手が居ないんで旨く行き過ぎて困るが……向ふでひよつこものを言ふ様に……この子が無口で……ものを言ふか?「今日はあなたミ二人だけだから言へませうか」、ミか、あゝ云ふ手のこんだミ云ふか……「俺の口を開けやうミ思つて」……「やつたな」ミ云ふ感じの起らない様な、不用意なやり方はいやな事です、けれども、何か非常事件が起つたら、もの言やしませぬかな。何か非常な、例へば先生がよく卒倒しますが、まあ子供もびつくりする程先生がひつくり返るか、何うかしましてね、そしてひよつこ言へる。さう云ふ機會にも言やしないか。今の向ふの知つて居る様な事を言つて見ても言はぬ、ミ仰有るが、その手でいけなければ、こんな事も澤山あるのですから、も少し、非常な事で何ふが言はざるを得ない様な所にもつて行つて、それでひよつこ云ふかもしれない、さう云ふ手もあります。非常な事で、非常な場合に

向ふの子供が口をきく、ミ云ふ事は、何故口をきくんだ、ミ云へば、必要によつて餘儀なく口をきくんだ、ミ云ふのでなく、非常なる場合に、元來無口な人である、ミ云ふ事も忘れますし、人がさう思つて居る、ミ云ふ事も忘れて、さう云ふ感じが何處にもないですから、自然に口をきく。たゞ無口だミお思ひにならないで、言へなければ言はないでいゝ、ミ云ふ風な調子で、へう／＼としていらつしやる中に、何時か言ひませう。言つて貰ひませう。これも私は幼稚園だけから考へれば、無口だつて構はないと思ひます。ものを言はなければ、手技もさせない、ミ云ふ様な事をしないで、ものを言はなければ言はないで出来ませう、さ／＼させてやつて居りますれば、それでいゝと思ふ。唯、問題は口で發表する、ミ云ふ事を本體として授業が進んで参ります小學校に這入る場合に困る。小學校に這入つて無口ではこれでやつて行けない、それで心配するのでありますが、幼稚園では、私は、これは例の多い場合ですけれども、左利きと同じ様に考へまして、餘り心配して他の精神の發達をたすけて行く事が缺けたり、遅れたりするこいけないと思ひます。さつさやつて行つた方がいゝかと思ひます。

毛利さん、その次のは……何ですか、發動力、ですか、非常に元氣で、自己の欲望を達せんとする方にばかり、傾いて居る子供、ミ云ふ事ですね。

この發動力旺盛にして、他の人を壓して自分の欲望ばかり達しやう、ミするその子供が問題になつて來る、ミ云ふのは、何處が問題になつて來るか、ミ云へば、一つはこの欲望をさ／＼通させて行つたら、何處迄我儘な勝手な者になるか、ミ云ふ事、もう一つはこれを無理に抑へたら……抑へる事も出来ないでせうが……無理に先生の力で抑へたさしたら、却つてその子供が内部的に變な者になりはしないか、斯う云ふ風な所が問題になるのだらうと思ひますが、その欲望の種類が何う云ふ事になりませうかね。ものを貰ふ……何か……今になんかフレール館でお菓子をお呉れるさうですが……さ

う云ふ時にこれを出すやり方が……。

(毛利)人が遊んで居る時に……(聞きこれず)

(應答者)玩具オモチャなんか自分がこつて了ふのですね。少うし手数が掛りますけれども、さあ、何うでせうかな。一寸満足さして、頭から抑へて了はないで、一寸満足さして、併しあの人も欲しいんだ、皆んなも欲しいんだ、ミ心の中から誘導して行く様な譯で行く、ミ云ふ様な方針で導いて行く事が出来ないでせうか。初めからずつこ抑へて了はないで、一應、心理的に欲望が満足するんです。さうして愉快も味はつて居ますから、それを味はつて居る時、その愉快を皆んなに分つ事を、させる。さう云ふ風に導いて行つては何うですか。その位の手ではいけませんか、却々。まあ 私は欲望、自己の欲望の強い、ミ云ふ事はいけない事ですけども、形式的に云へば、勢力ミして非常に強い事ですから、「あゝあれが来た、隠れろ、逃げろ」ミか、抑へてやつたのでは、壓力を其處の所では抑へますけれども、主としてリードして居なければ、指導して居ない事になる。例へば兄弟が居りまして、其處にお菓子があつて、これは皆んな、私のだ、ミ云ふ様な慾張つた事をする時に、一應やつて了つて、さうして貰つて了へば、一應自己の欲望が満たされて、自分のものになつた愉快が満たされますから、それを今度皆んなにその愉快を分つ様に、ミ云つた様なやり方、それを繰返しくして行つたら、いゝんじやないかと思ふ。向ふの欲望の強いのを教育の力で抑へて行く、ミ云ふのは、少うし無理かと思ひます。

それからその次に嘘の問題が出て居ります七歳の女の子がよく嘘を云ふ。但しこれをお書きになつた方は、嘘ミ云ふ言葉は他に仕方がないから假に斯う書いたのである。嘘ミ云ふ言葉を此處に當嵌めるがいゝか何うかさへも、お考へになつて居るのでありますが、詰り解り切つた眼の前に解り切つた事を、嘘を云ふ、斯う云ふ子供はよくあると思ふんですが、多分この質問者が書いて居られる通り、一種のこの聯想ミ云ふ字が使つてありますが觀念が一寸した結びつきで他の觀念の

様な、類似觀念ですか、ぎんく飛んで行つて了つて其處で一寸その事が眼の前にある事よりも、それから飛んで行つた觀念の方が意識の中に強い位置をもつて来る。それを云ふ、ミ斯う云ふ態度ではないかと思ふ。これを拜見した所では、所謂自分の言ひ逃れて行く嘘であるとか、人を騙かして行く嘘は少し違ふと思ひますが。

(徳久) 實例を説明さして頂きます。七歳の女の子でありまして、この四月から幼稚園に這入りまして、その子供の家は勤人であるに拘らず、四月の半頃になりまして、自分の家はバン屋さんである、ミ云ふ事を主張し出しました。さうするミ、お祖母さんの家はあさり屋であるミ云ひ出したり、普通の子供が、飛行機に乗つて何處かへ行つた、ミ云ふ様な事は、一日か二日經つて忘れて了ふのですけれども、その子は可成長い間それを主張して居ります。それを私が突込んで聞きますミ、お父さんお休みの時は、斯う云ふ風にして小僧を相手にしてバンを焼くミか、お母さんが手傳ふミか詳しく説明します。事實お母さんにもよく伺つて見ますミ、さう云ふ事は全然ない、ミ云ふ話、親類にもさう云ふのがないミ云ふ話で、私が心當りと思ひますのは、あさり屋ミ言ひますのは、私達が稻毛に参りまして、澤山貝をこつて参りまして、その上御自分が御さりになつた以上に澤山お母さんが買つてお歸りになつた事を知つて居ります。それからそのあさり屋ミ云ふ事を言ひ始めたのではないかと思つて居ります。それから、バン屋ミ言ひ出しましたのは、自分がお晝にバンを持つて来た時に一番初めに言ひ出したと思ひます。さう云ふ事がございますし、又一方では私共が幼稚園の玩具を新しく買つて、おいておきますミ、「私が家から持つて来たんだ」ミ申しまして、私達が「それは幼稚園に買つて来ておいたんです」ミ申しても「さうでない」ミ云ふ事を強く言ひ張ります。

(應答者) 所謂、道德的嘘、ミ云ふのは言はないのですか。誤魔化して云ふのですか。……今のはやゝ文學的嘘ですが。實際にせめられて云ふ道德的嘘は言はないんですか。

(徳久) 自分がそれによつて徳をしやう、ミ云ふ嘘は未だ聞いた事がないのです。

(應答者) 一體に、興奮性の子供ではないですか。

(徳久) ……

(應答者) 不斷、話をして居る時は……さあさが乗り移つて来る様な、調子で……

(徳久) 別にさう感じませぬ。

(應答者) あれは、まあ、斯う云ふのですか。自分である事に非常に興味を持ちますミ、その興味を、何も非常に嘘を云はう、ミ云ふのではないのですが、その興味そのものにせられて、それを更に、次々に、面白く、強調して行く、ミ云ふ事はあるもんです。それは嘘ですけれども。さう云ふ心理であります。さうですね。勿論まあその話を、嘘だミ云ふ事が、眞實でない、ミ云ふ事が解つて居る時は、聞いてはおやりにならぬでせうが、それが嘘か何うか解らぬ場合は「さうかく」ミ聞いて、のせられて居る場合もありますね。若し解らぬ時はさうも仕方ありませんが、何云つてゐるんだか、一つくそれは嘘か、ミ云ふ譯には行きませぬけれども、解つた時には何うでせうか。「そんな嘘を言ふものじゃない」ミ云つたつて、恥しいミと思ひませぬでせう。自分が道德的に嘘を利用して、何うさか云ふ、恥かしい考へがミでないのですから、暴露したつて笑つちまふだけです。やつて御覽になりましたか。嘘だ、ミ云ふ事をつきつけて見ましたか。

(徳久) 一番初め、あさり屋だと言ひ出した時に「先生は昨日あなたの家の處へ行つて見ましたけれども、御門のあるちやんとしたお家で別にパン屋でもあさり屋でもありませんね」ミ云ひましたら「え、さうよ。本當は嘘だつたの」ミ申しました。

(應答者) これも非常に大きく解釋すれば、精神病の中に、さう云ふのがありましたね、この嘘を云ふ……造る、ミ云ふ方よりも、何ミ云ひませうね。事實ミ云ふものに對する感じがはつきりしないんです。はつきりしないミ云ひますか、強く

ない、事實自分の家がパン屋であるミ云ふ方の事實が、はつきり強く自分に認識されて、認識される、ミ云ふ程の事でない、當り前の事ですけれども、ミ云ふも變へる事が出来ない。門のあるちやんこした家である、ミ云ふ事を、パン屋なりあまり屋なりに變へて行く。パン屋なりあまり屋等ミ云ふのは、その時に造つたミ云ひますか、何でせうか。そのも、この所がしつかりして居ないのでね。も、この所がしつかりして居ない、ミ云ふ事は凡て嘘をつく、ミ云ふ心理は、さう云ふものかと思ひますが。嘘を大きく二つに分けますミ、自己に對して實に嘘だ、ミ云ふ感じが、甚だ愉快な程、はつきりして居て人を欺く場合があります。それからもう一つは、人を欺くミ云ふよりも、自分自身が嘘ついて平氣な、言ひ換へれば、事實ミ嘘ミの差別に就て、矛盾に就て、何等の感じを持たない、正確に言やあ嘘の方はその時、起つて來たのですから當り前ですが、事實感ミ云ふものはつきりしない。事實感がしつかりして居ない、ミ云ふ事を説明しますれば、自分の認識なり、自分の體驗なり、經驗なり、自分の今見て居る事なりに對して、自分の經驗に對して自己が忠實でない。自分には自分が忠實であつて、人を欺く、ミ云ふ嘘でなくて、自分自身がすぐに自分の認識を變へて行くのです。これは詰り、まあもう少し解り易い場合で云ひますならば、昨日言つた事をすぐ變へて行く場合がありますね。まあ明日は何時アシタに何處で會ひませう。ミ約束して、明日になるミケロッミしてそんな事を云つたか何うか。或はつひ、斯う云ふ用があつて忘れた、ミ云ふ場合は、これは後から起つて來た事件で、そつちはすつぽかされた、ミ云ふ事は、已むを得ずすつぽかされたのですけれども、昨日の言葉に對して忠實性が、確實性が尠い。その反對に一度守つて言つた事は、人に對して守つて行くのではなく、自己にそれを矛盾した、反對した様な事をするのは、自分に落付かない。これは今、一度言つた事か、考へた事がありますが、それと同じ關係が今、自分の眼の前に出て居る事、自分の問題が何うである、ミ云ふ事實、さう云ふ認識する、印象する、所謂この黒い眼で見た事は、ミ云ふ事の反對です。詰り認識力がまあ觀念的に強いのでは

ないですから、それに對する確實性が尠い。忠實にもつて行く事が弱い云つた様な性質でせう。ですからこれはまあ、烈しく云へば精神病、斯う云ふのが澤山あります。男にも澤山あるでせうが、所謂、社交的な婦人なんかには澤山あります。さうも實に眼の前に見えた事をすらく／＼言つて居る。「實は昨日は斯うで、私の家では……」出鱈目を言つて居る。出鱈目を其處では向ふに合して居るのだから、自分で、みんなよくまあ違つた事が言へる云ふ程、平氣なんです。さう云ふ風にこの子がなつちやあ、それは困るのですから、癒すには何うしたらいいですかね。

まあ一つは私解らぬですが、一つは叱つたつて駄目ですね。悪い事をして居ることは思はないのですから、所謂、手に持つて居るものを何時の間にか落した様なものですから、自己の言つて居る。自己の前に言つた事に對してしつかりした把住性が鈍いのですから、何時の間にか逃げてても平氣なんですから、惡氣でないから叱る譯にもいかぬ。叱るゝ行ふ譯には行きませぬが、今おやりになつた様な工合に段々自分の出鱈目として通らない事を経験して行けば、それでいいにても、嘘はつけないものだ、ミ觀念的に自覺する譯ではないですが、それを助長する事は止まるでせうね。併しこれも却々解らないですから問題はよく解りませぬけれども、(その他の場合には解らないですから、まあ矢張、斯う云ふのは、何かかうしつかりした色々の人生の經驗ミか勉強ミか、いゝ加減な事を云つてもいゝ、正確を云つたら、先刻のお子さんの様に云つて了ふが、自分の方がちゃん／＼して居なければならぬ様な、ぎり／＼の生活體驗の中に置かれて居れば、もう少し事實ミ云ふものに對する忠實性が養はれて来るかもしれないませぬね。さう云ふ全般的な教養で行くんじやないでせうか。必ずしも惡意でないが、生活全體の事實に對する確實性、忠實性が鈍いのですから、概して、恥かしいと思はないでせう。「嘘なのよ」云ふだけの話で、それだけの話でありますから、全體の教養で行くより仕方がありますまい。(一)

徳島女子
師範主事 永澤義憲先生著

四六判洋布装
函入三一〇頁

定價 一圓八十錢

送料
十四錢

幼稚園教育の實際

各般の事項に亘る詳細にして體系ある實際指導書初めて成る！
新しい幼稚園、正しい幼稚園を本書に見よ！ 保母志望者亦必讀

* 幼稚園には幼稚園の意義があり使命がある。それは單に幼兒の保護に任ずる所でもなく、又沉んや小學校の豫備に終始するものではない。本書は此幼稚園本來の使命に鑑み、永き經驗を實際に體まつけた稀に見る傑出した研究である。

幼稚園ばなし

長尾豊先生著
價一・八〇送料一・四

幼稚園の舞踊

石井小浪女史著
價〇・八〇送料〇・八

實物提示 幼兒に聽かせる話

久連松弘先生著
價二・三〇送料一・四

動作のやさしい唱歌

正厚生閣編輯部編
價各一・〇〇送料各〇・八

【内容抄】—緒論— 一幼稚園の本質と使命 二幼稚園發達の史的概観（史的概観について・世界に於ける幼兒教育の發達・日本に於ける幼兒教育の發達） 三幼な兒の心理（心理的區分・幼稚園の心理・幼兒の心理） 本論— 一幼稚園保育の方法 二各項目の取扱・遊戲・唱歌・觀察・談話・手技 三養護（保育目的と養護・養護施設・養護要目・養護上の注意） 四雙方（幼稚園に於ける躰け・強く正しくすなはな兒・養護の方に對する態度及び注意・躰け方細案） 五年中行事 六設備（良き保育としての物的條件・法令上に示されたる設備・最低限度に於ける設備） 七個性調査及び家庭との聯絡（個性調査と家庭調査・家庭との聯絡） 餘論— 一教科に於ける小學校との聯絡・幼兒生活の道德的特殊性と道德教育・文字と書方教育・幼兒の數學教育・幼兒と國史・幼兒の理科教育・入學前に於ける體育・入學前の唱歌・五六歳兒の手工に就いて 二保母のあゆむべき道（根本的存在としての保母・人としての保母・母としての保母・主觀的修養・客觀的修養）— 以上小項目全部省略

閣生厚

東京電話九段五
町三三(33)九
六二〇六九
番八〇番

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校校長 吉岡 郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
 - 一、雜誌發行(毎月一回)
 - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定規文注

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代文の場合には總て一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます
- 一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄と明記せられたし
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます

發行所

東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
 日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番
 印刷所 倉橋 惣三
 柴 山 則 常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷者 倉橋 惣三
 發行所 倉橋 惣三
 編輯者 倉橋 惣三

不許複製 禁止轉載

昭和九年十月十五日發行
 昭和九年十月十五日印刷納本
 幼兒の教育 第三十四卷 第十號
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

定價

一ヶ月分	金參拾五錢
冊送料	壹錢
半年分	金貳圓拾錢
冊送料	共
一年分	金四圓貳拾錢
冊送料	共
拾貳冊送	料共

特等面一頁二等面一頁
 金參拾圓金貳拾圓
 一等面一頁以下
 金貳拾五圓御斷
 神田區駿河臺一ノ三品田
 廣告社に御申込下さい

最新刊 東京女子高等 附屬幼稚園主事 堀 七 藏 先生著
 師範學校教授 現 附屬小學校主事 堀 七 藏 先生著
 四六判四一六頁美本
 口繪寫真十數葉入
 價二圓八十錢 送十六錢

幼稚園保育上の重要問題の實際的解決指針

一・幼稚園保育上の重要問題の實際的解決指針
 本書は幼稚園經營に保育實際に關する。(一)理論(二)實際(三)小學校との連絡問題につきて長く幼稚園主事たりし堀先生が現に同一校の小學校主事たる地位より懇説詳述されし絶對無比の名著である。

二・小學校との連絡問題についての詳述は大特色
 (一)小學校入學の準備(二)入學檢定の受け方(三)入學檢定の所感(四)入學檢定の結果(五)小學校入學に關しての注意(六)小學校入學後の考察等についての詳述は本書のみの最も權威ある特色である。

三・理論的見地に立ち保育實際に理論付けらるる
 兎角、母の愛の如く嬌々しくのみ陥り易き保育實際に父性愛の或る強さを加へたる如く明晰なる理論を以て保育實際に理論付け且其の進むべき方向を明示する。此點より見て本書は又稀なる權威書である。

内容目次

- 第一 幼稚園の目的論
- 第二 保育時間に關する問題
- 第三 幼稚園の設置
- 第四 幼稚園の經營
- 第五 保母の養成機關
- 第六 新入の幼兒保育

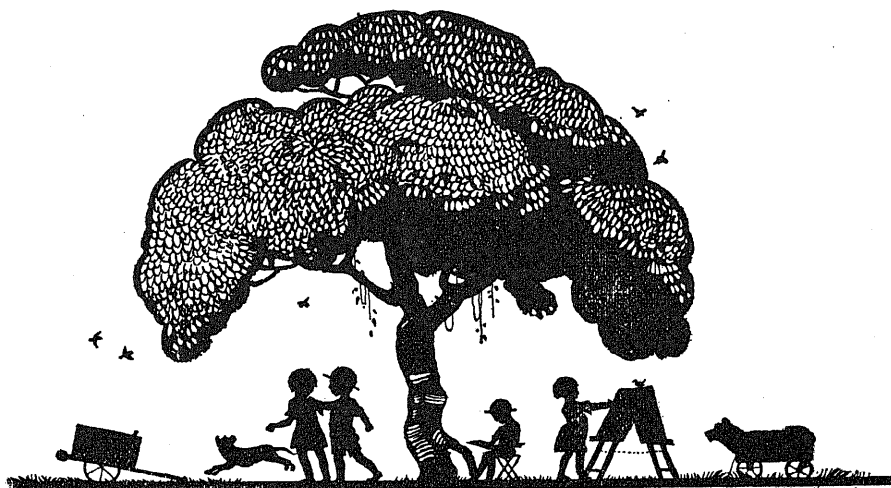
- 第七 幼兒の生活
- 第八 汽車中に於ける幼兒
- 第九 幼兒の身體的保障
- 第一〇 幼兒の運動遊戲
- 第一一 幼兒の唱歌遊戲
- 第一二 幼稚園に於ける唱歌
- 第一三 冬の保育
- 第一四 觀察のさせ方

- 第一五 新入幼兒(第一期保育)
- 第一六 第二期に於ける「觀察」
- 第一七 冬の自然觀察
- 第一八 第三期に於ける觀察
- 第一九 各月の觀察
- ①四月②五月③六月④七月⑤八月⑥九月⑦十月⑧十一月⑨十二月⑩一月⑪二月⑫三月の觀察

- 第二〇 保育項目にある談話
- 第二一 フレームル恩物
- 第二二 モンテッソリ一の遊具
- 第二三 保育項目にある手技
- 第二四 小學校へ入學
- 第二五 小學校に於ける入學檢定
- 第二六 入學檢定の所感
- 第二七 入學檢定の結果

東洋圖書株式會社

東京市田神區保一丁目六十七番地
 振替東京一〇三七番



John G. G.

高天肥馬の期節に

お子達の爲の園外保育用品

弊社工場の特に入念に吟味製作せる堅牢にして體裁よき安
全の品々——

携帶黑板——幼兒自身が適宜の所へ持ち運び自由な折疊式黑板。
一組 金 十五圓

折疊椅子——鋼鐵骨に丈夫な布を張つた折たゞみ自在の椅子。
一脚 金一圓二十錢

折疊卓子——堅牢な蝶番で折疊み自由、長さ四尺幅二尺高さ一尺
五寸、二脚一組。 一組 金 七圓

トロツコ——車、心棒とも鐵製堅牢、子供に應用の途廣し。
一臺 金 三圓

お伽車——折疊式構造の輕便な車、面白い動物の形をした愉快
な車、お辨當や保育の品々を積んで園外に子供が自由に引き出すも
の、應用多端。 一臺 金 二十五圓

押車——幼兒が自由に押し歩く運搬車、これも様々に應用さ
れます。 一臺 金 三圓五十錢

其他幼稚園・幼兒用各種運動具、最新の製作に係る新案新樣
式の運動具多種。

株式會社 丸貝館

本店 東京・神田・小川路・電話九段(33)番二七
出張所 大阪・東區・備後五町・電話本町一八九番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回十五日發行)

昭和九年十月十二日印刷納本
昭和九年十月十五日發行

定價 三十五錢